

夜

履修の
手引き

2024

小樽商科大学

夜間主コース

10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	/		
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	/		
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		

【前期授業日程の注意事項】

- 4月8日(月):前期授業開始(昼間・夜間主コース)
- 5月22日(水):学生大会(1~3、6講目は通常授業)
- 6月20日(木):大学祭(1~5講目は通常授業)
- 6月21日(金):大学祭(1~2講目は通常授業)
- 7月7日(日):創立記念日
- 7月23日(火):月曜授業を行う。
- 7月24日(水):学生大会分の授業日(4、5、7講目は水曜授業。1~3、6講目は補講)
- 7月25日(木):大学祭分の授業日(6~7講目は水曜授業。1~5講目は補講)
- 7月30日(火):大学祭分の授業日(3~7講目は金曜授業。1~2講目は補講)

【後期授業日程の注意事項】

- 9月25日(水)から授業を行う。(昼間・夜間主コース)
- 1月21日(火):補講を行う。
- 1月22日(水):補講を行う。
- 1月23日(木):月曜日の授業を行う。

-----注意事項-----

※「補講」とは担当教員の所用により休講となった科目について行う講義を指す。補講については、別途通知する。

令和6年度前期 曜日別授業日程表

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	試験	備考
月曜の授業日	4/8	4/15	4/22	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/22	7/23	7/29	8/5	
火曜の授業日	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	8/6	
水曜1～3.6講目の授業日	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/31	
水曜4.5.7講目の授業日	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31	
木曜1～5講目の授業日	4/11	4/18	4/25	5/2	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/18	8/1	
木曜6.7講目の授業日	4/11	4/18	4/25	5/2	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/27	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	
金曜1.2講目の授業日	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19	7/26	8/2	
金曜3～7講目の授業日	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/28	7/5	7/12	7/19	7/26	7/30	8/2	

●学生大会は5/22(水)、緑丘祭・緑宵祭は6/20(木)～6/23(日) ●8/7(水)～8/8(木)は期末試験予備日

令和6年度後期 曜日別授業日程表

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	試験	備考
月曜の授業日	9/30	10/7	10/21	10/28	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23	1/6	1/20	1/23	1/27	2/3	
火曜の授業日	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26	12/3	12/10	12/17	12/24	1/7	1/14	1/28	
水曜の授業日	9/25	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	1/8	1/15	1/29	
木曜の授業日	9/26	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19	1/9	1/16	1/30	
金曜の授業日	9/27	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	1/10	1/24	1/31	

●1/21(火)、22(水)は補講日 ●2/4(火)、2/5(火)、2/6(水)は期末試験予備日

※着色部分：コマによって授業日程が異なる期間に授業を行う日や別曜日の授業日

目 次

I. 教育課程

1. 小樽商科大学の教育課程の目的 2
2. 小樽商科大学の教育の特徴 3
3. 小樽商科大学の教育課程（カリキュラム・卒業に必要な単位数） 4

II. 開講科目

1. 令和6年度開講科目（夜間主コース） 12
2. カリキュラム開講計画（夜間主コース） 24
3. 昼間コース科目の履修について 30
4. 令和6年度開講科目（昼間コース） 32
5. 科目の新設・廃止・統合、配当年次・単位数・科目区分・名称変更等がある科目について 46

III. 外国語科目の履修方法

1. 外国語科目の履修方法（全語共通） 64
2. 英語の履修方法 65
3. 英語以外の外国語科目の履修方法 67

IV. 履修要領等

1. 授業について 70
2. 履修科目選択について 71
3. 履修登録について 72
4. 定期試験について 74
5. 成績評価について 76
6. 学科所属について 79
7. 進級要件について 80
8. 研究指導（及び卒業論文執筆要領）について 81
9. 履修指導について 86
10. 教員との連絡の取り方について 88
11. 欠席届について 88

V. その他履修に関する制度

1. 他大学等での単位認定制度について 90
2. 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 91
3. 留学による単位認定について 97
4. 9月卒業について 104
5. 早期卒業について 104
6. 学部・大学院（博士前期課程及び専門職学位課程）
5年一貫教育プログラムについて 105

7. 学部学生による大学院科目履修制度について	107
8. 副専攻プログラムについて	108
9. 長期履修学生制度について	109

VI. 教育職員免許状

1. 本学で取得できる免許状の資格	112
2. 教育実習について	113
3. 介護等体験について	114
4. 免許状の申請について	114
5. 教職関係の科目対応表について	115
6. 「教職共通科目」履修上の注意事項	117
7. 別表	118

VII. 教務システム利用の手引き

1. 学務情報システム「Campus Square」	134
2. 学修管理システム「manaba」	156

VIII. 参考

1. 学則及び関係諸規程	164
2. 科目ナンバリング	166
3. カリキュラムマップ	169
4. 履修モデル	184

IX. 配置図

1. 令和6年度 講義室・ゼミ室配置図	192
2. 令和6年度 教員研究室一覧	195

◎リンク集

I . 教育課程

1. 小樽商科大学の教育課程の目的

小樽商科大学は、明治 44（1911）年、5 番目の官立高等商業学校として創立され、昭和 24（1949）年、戦後の学制改革に伴い小樽商科大学として単独昇格しました。本学は、創立以来、「実学、語学、品格」を教育理念とし、広い視野と豊かな教養並びに倫理観に基づいた深い専門的知識と識見を有し、現代社会の複合的、国際的な問題の解決に指導的役割を果たす人材を育成してきました。

商学部の「ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）」及び「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）」は以下のとおりです。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

【学士（商学）】

本学は、豊かな教養と外国語能力を基礎とした深い専門知識を有し、グローバルな視点から地域経済の発展に寄与し、広く社会に貢献できる人材の育成を教育の目的と定めます。この目的のもと、本学は、設置された学科における所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に対して、学位を授与します。

1. 社会科学、人文科学、自然科学等の幅広い学問分野の知識を修得することで、広い視野及び豊かな教養と倫理観に基づいて行動できる。
2. 経済学、商学、法学、情報科学等の学問分野において深い専門知識を有し、それらを組み合わせて実践的に活用することにより、実社会の様々な問題を自発的に解決できる。
3. グローバル時代に対応する実践的な語学能力を身につけ、世界の様々な文化を学ぶことにより、異なる文化を持つ人々と協調し十分な意思疎通ができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針・成績評価）

本学は、ディプロマ・ポリシーに掲げた 3 つの能力を有した人材を育成するために、以下の方針のもとに教育課程を編成・実施し、明確な成績評価基準により学修成果を評価します。

1. 教育課程の編成

（1）共通科目（52 単位必修）

① 基礎科目

人間生活及び市民社会の諸相を認識・理解することができる幅広い基礎知識を備えた人材を育成するために、「人間と文化」、「社会と人間」、「自然と環境」、「知（地）の基礎系」、「健康科学」の科目群が配置される。「人間と文化」、「社会と人間」、「自然と環境」、「健康科学」の科目群は、それぞれ人文科学、社会科学、自然科学系、健康科学系の科目から構成される。「知（地）の基礎系」科目群は、導入教育・キャリア教育、地域志向科目等からなり、PBL も積極的に取り入れた科目群である。

② 外国語科目

グローバル時代に対応した実践的な語学能力を身につけるために、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語の中から 2 言語を 2 年間必修とする。（夜間主コースは、英語以外の外国語は 1 年間必修。）

（2）学科科目（72 単位必修）

① 専門 4 学科の学問分野にかかわる科目

専門 4 学科（経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科）においては、各学問分野の基礎的な知識・理論を学ぶための科目群として「基幹科目」が、また、応用・発展的内容を学ぶための科目群として「発展科目」が配置される。「自由科目」は、教員免許（商業、公民、社会、情報、英語）を取得するための科目群である。学修成果の集大成として、卒業論文を伴う 2 年間の「研究指導」（ゼミナール）が原則必修となっている。

- ② 専門共通科目
「共通科目」で教養として学んだ学問分野を、さらに専門的に学ぶための科目群である。
- ③ 教職共通科目（必修外）
教員免許を取得するために必要な科目群で、各学科に共通で開設されている。

(3) 国際交流科目

留学生並びにグローバルコース及びグローバルマネジメント副専攻プログラム（GMP）履修生を対象とした選択必修科目であり、英語で運営され、グローバル教育（グローバルな視野を持ちながらも、地域の視点に立って考え行動する人材を育成する教育）を更に強化した科目群である。

2. 教育の実施方針

- (1) 教養教育と専門教育を有機的に連携させ、専門性を高めつつも、学科の枠組みを越えた学習及び基礎から応用への段階的学習を可能とするカリキュラムを編成することにより、深く、且つ幅広い知識を有する人材を育成する。加えて、主専攻プログラム（グローバルコース）及び副専攻プログラム（グローバルマネジメント、経済、ビジネス法務、経営情報、アカウンティング）を設置し、国際性・地域性を更に強化する。
- (2) 実学教育を推進するために、企業や地域・社会と連携して進める授業科目を配置し、実践やグループワーク・PBL（課題解決型学習）等を取り入れた自律的に学ぶ授業形態を積極的に導入する。
- (3) 本学伝統の語学教育を更に継承・発展させ、グローバル社会に対応する多様な外国語教育を行うのみならず、専門教育においても、グローバル人材育成のための授業科目を配置する。

3. 教育の実施体制

- (1) 授業科目のナンバリングを定め、学科等ごとのカリキュラムマップを作成し、CAP 制を導入することにより、学生が無理なく効率的な履修計画を立てられるよう支援する。
- (2) 学部教育の実施体制は、各学科等から選任された教務委員より成る学部教務委員会が企画・管理する。
- (3) 上記の教務委員に加え、1・2年次の履修指導教員及び3・4年次のゼミナール担当教員を通じて、学生の履修指導体制を徹底する。
- (4) アクティブラーニング、キャリア教育等のFDの開発や、教育効果の可視化・検証については、グローバル戦略推進センター教育支援部門が中心となり推進する。

4. 学修成果の評価

- (1) 学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーを基にした各科目の到達目標を基準にして行われる。
- (2) 各科目の学習内容・到達目標・成績評価方法等は、シラバスにより事前に履修生に十分周知される。
- (3) 教員は、シラバスに明記した成績評価方法に則り、履修者の学修成果の到達度を厳格に評価する。
- (4) 教員は、評価の根拠となった資料（試験答案、レポート等）を所定の期間保存し、履修者が成績評価の内容を確認したい場合や異議がある場合は、履修者に対し評価に関する説明責任を果たすべく心掛ける。

2. 小樽商科大学の教育の特徴

本学の教育の特徴は以下の二つにまとめることができます。

第一の特徴は、学生にとって選択できる学問分野の幅が広いということです。他大学の場合、経済学部なら経済学、法学部なら法学に関する講義が中心になりますが、本学では、商学部の中に、経済学、商学、法学、社会情報学という専門4学科に関わる学問分野の科目が置かれ、学生は学科の枠を超えて学習することができます。さらにそれだけでなく、外国語、人文科学、自然科学に関する科目についても、教養としてだけでなく、専門科目として学ぶことができるようになっています。

第二の特徴は、時代に対応する実践的能力を身につけることができるということです。本学には実践を取り入れた科目、社会との連携を重視する科目、少人数で運営するゼミナール、語学教育、留学制度等が充実しており、学生は、議論する力、発表する力、外国語を運用する力など、それぞれの学問分野の知識を組み合わせ活用する能力を習得することができます。

3. 小樽商科大学の教育課程（カリキュラム・卒業に必要な単位数）

（1）夜間主コースの目的：総合コース

夜間主コースは、働きながら学ぶ学生、生涯教育・再教育を目指す社会人のためのコースです。この目的に従い、教育課程（カリキュラム）は、教養教育において幅広い教養を修得し、専門教育において4学科の学問分野を総合した基礎的な学習及びそれを発展させた学習を行うことを方針としています。そのため、学生は、所属する学科に関わりなく、全く自由に、自己の関心に応じて科目を履修することができます。これを、本学では夜間主総合コースと呼んでいます。また、**60単位数まで昼間コースの科目を履修することができます**、これによって、学習の専門性を高めることができます。

（2）単位制

本学の授業科目は、**単位数**（4単位、2単位、1単位）と**配当年次**（示されている年次に達していない学生はその科目を履修できません）が決められています。学生は、その中から、各自の学習計画に基づいて履修する科目を決めなければなりません。

卒業するためには合計124単位が必要です。ただし、履修は全く自由に決められるわけではありません。本学の定める履修規則に従って単位を修得しなければなりません。124単位揃っていても、履修規則に従っていないと卒業できません。履修規則については「（5）卒業に必要な単位数」を、履修の方法については「Ⅲ. 履修要領等」をご覧ください。以下では、履修規則に従って修得した124単位を、「**卒業所要単位**」と呼ぶことにします。卒業所要単位は、卒業に必要な最低の単位数ですから、これを超えて単位を修得することは自由です。

（3）科目の構成

夜間主コースの授業科目は、大きく、共通科目、学科科目、国際交流科目という科目群に区分されます。各科目群に属する具体的な授業科目については、「Ⅱ. 1. 開講科目（夜間主コース）」をご覧ください。以下では上記の3区分について説明します。

〔1〕共通科目

共通科目はさらに、**基礎科目**と**外国語科目**に分かれます。共通科目は、主として、1、2年次に学習するためのものです。人文科学、自然科学、外国語等の学問分野によって構成され、社会で生きるために必要な幅広い教養的知識を身につけることを狙いとしています。卒業するためには、**共通科目を52単位**修得しなければなりません。

○ 基礎科目

基礎科目の科目群は、「人間と文化」、「社会と人間」、「自然と環境」、「知の基礎」、「健康科学」の5つの系のどれかに属しています。これらは、社会、人間、歴史、環境に対する深い理解と健康に関する正しい知識を得ることを目的とした科目群です。学生は、5つの系から万遍なく履修することが求められます。

5つの系のなかの「**知の基礎系**」には、高校卒業後、本学で学習することに慣れ、学問への導入や、基本的な知識、大学で学ぶための技法などを修得するための授業科目が置かれています。そのため、他の系より卒業所要単位数が多くなっています。**できるだけ1年次に履修するようにしてください**。

特に、知の基礎系科目の1つである**基礎ゼミナール**は、特定のテーマのもとに少人数（20名程度）による教育が行われます。基礎ゼミナールでは、学生に以下のような能力を習得させることを共通の目標にしています。

- ・図書館での各種文献や資料の検索と利用の仕方
- ・情報総合センターの利用とパソコンやインターネットの活用法
- ・文献を読み、また人の話を聞いて、その内容を理解すること

- ・論理的にものを考え、人前で明瞭に意見を述べること
- ・教員が指定した書式に従って、正確で分かりやすくレポートやレジュメを作成すること

基礎ゼミナールは、教員と学生の密接な交流を通じて、大学生活になじみ、学問に対する意欲、自主性・積極性を養うことを目的の1つとし、多くの学生が履修することを期待しています。

○ 外国語科目

国際化の時代、外国語を学ぶことは大変重要なことです。本学は、「北の外国語学校」として全国的に知られたほどの語学教育に関する伝統があり、現在は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4言語の授業科目を提供しています。

[2] 学科科目

学科科目は、さらに以下の3つの科目群によって構成されています。

- ① 専門4学科の学問分野にかかわる科目
- ② 専門共通科目
- ③ 教職共通科目

学科科目は、1年次から受講が始まりますが、本格的な学習に入るのは3年次からです。卒業するためには、**学科科目を72単位**修得しなければなりません。

○ 専門4学科の学科科目

学科科目は、さらに**コース基幹科目**、**コース発展科目**、**コース自由科目**、**研究指導**に分かれます。**コース基幹科目**（専門4学科が提供する基幹科目を合わせたもの）は、主として各分野の基礎的な知識・理論を学ぶための科目群、**コース発展科目**（専門4学科が提供する発展科目を合わせたもの）は、その応用的・発展的内容の科目群です。**コース自由科目**（専門4学科が提供する自由科目を合わせたもの）は主に教員免許を取得するための科目群です。コース自由科目は、他の学科科目と違い、一部の科目のみ卒業所要単位に含めることができます。卒業所要単位に含めることができる科目については、「(5) 卒業に必要な単位数」の備考欄を見てください。**研究指導**は、いわゆるゼミナールと呼ばれるもので、少人数で2年間（3年次、4年次）特定のテーマのもとで研究し、その成果を卒業論文としてまとめるものです。

○ 専門共通科目

共通科目（基礎科目・外国語科目）で教養として学んだ分野を、さらに専門的に学習するための科目群です。幅広い知識の獲得や高度で実践的な外国語学習を可能とします。また、専門共通科目の中にも研究指導が開講されており、学生は、所属学科に関わらず、自由に履修することができます。専門共通科目は、コース自由科目と合わせて、20単位まで、学科科目の卒業所要単位に含めることができます。

○ 教職共通科目

教員の免許を得るために修得しなければならない科目群で、各学科に共通して開設している科目です。教職共通科目は、卒業所要単位に含めることができません。

[3] 国際交流科目

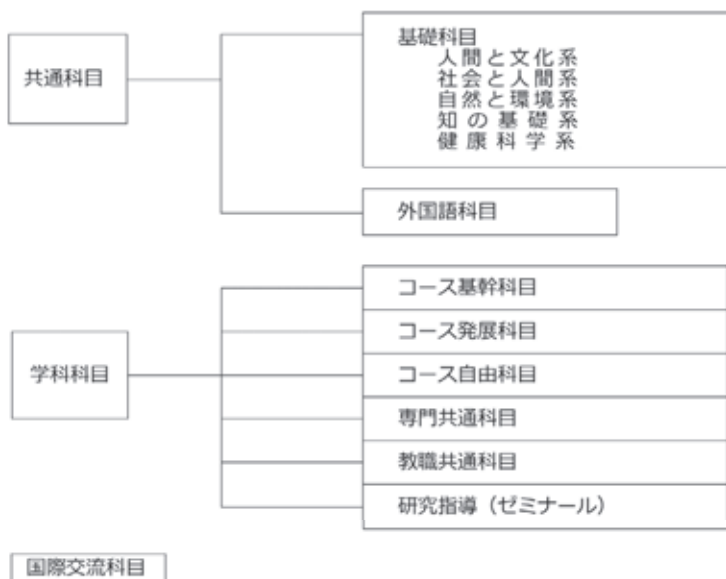
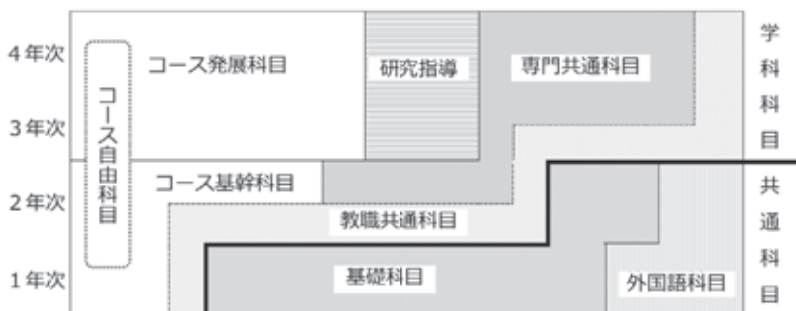
国際交流科目とは、以下の科目をいいます。

- ① 本学の交換留学制度等を利用して外国の大学で修得した科目
- ② 本学の短期留学プログラム（交換留学制度により受け入れた外国人留学生のために英語で行われるプログラム）で修得した科目

①は、その内容が、共通科目・学科科目・専門共通科目の授業科目のどれかに該当する場合には、卒業所要単位に含めることが可能です。②は、一部の科目が、経済学科又は商学科の科目として卒業所要単位に含まれます。詳細は、「Ⅱ. 1. 開講科目」の国際交流科目を参照してください。グローバルコース等所属学生を対象とした選択必修科目ですが、それ以外の学生も受講できます。

【4】くさび型カリキュラム

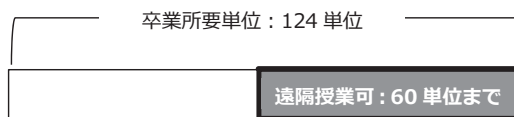
以上、述べたことを図に示すと次のようになります。共通科目は、主として1、2年次で学習し、3、4年次に専門共通科目として、専門的な学習に移ります。学科科目は、1、2年次から基礎的な学習が始まり、3、4年次により専門的に学ぶようになります。これをくさび型カリキュラムと呼びます。



（４）遠隔授業の単位数上限

卒業所要単位に算入することができる遠隔授業の単位数は、大学設置基準（文部科学省令）及び本学学則により、**60 単位を上限**とすることとなっています。履修計画を立てる際は、十分注意してください。

なお、令和4（2022）年度までに修得した遠隔授業の単位数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特例措置として、上記の60 単位上限の対象外となります。



令和6年度授業実施方法 ※詳細はmanabaで通知します

面接授業	64 単位以上の修得が必要	1.面接授業	全ての回を対面により実施
		2.面接授業（ハイブリッド）	面接授業（半数以上）と遠隔授業を併用して実施
遠隔授業	60 単位の上限に含まれる	3.遠隔授業（ハイブリッド）	遠隔授業と面接授業（半数未満）を併用して実施
		4. リアルタイム配信	Zoom 等によるリアルタイム配信を中心に全ての回を遠隔授業（一部オンデマンドを取り入れることもあり得る）で実施
		5. オンデマンド（時間割指定あり）	一定の受講期間を設けたオンデマンド授業を中心とするが、一部の回で時間割の日時にリアルタイム配信や小テストを実施するなど時間割を指定する場合がある ※同時限に配置される科目との同時履修は不可 ※リアルタイムの試験（定期試験を含む）を実施する場合がある
		6. オンデマンド（時間割指定なし）	全ての回を一定の受講期間を設けたオンデマンド授業とし、時間割等の日時を指定した小テスト等は実施しない ※時間割の制約なく履修可能（どの時限の科目とも同時履修が可能） ※リアルタイムの試験（定期試験を含む）は実施しない

※遠隔授業を実施する授業時数が半数を超えない範囲で行われる場合は、面接授業として取り扱う。

※面接授業か遠隔授業であるかの分類は、学生の履修登録時点で公開されている授業実施方法によって分類される。そのため、履修登録時点で「面接授業」に分類された科目の単位を修得した場合、「遠隔授業」の単位としてカウントされることはない。

※「1.面接授業」であっても、休講の代替措置として、遠隔授業による補講を行うことがある。

※「2.面接授業（ハイブリッド）」において、履修する全ての学生に対し、半数以上の授業時数を対面で受講する機会を設けたものの、病気等の事情により、結果として対面での授業時数が半数未満となった学生についても、面接授業を受講したものとして取り扱う。

※各科目の授業実施方法は、年度によって変更されることがあるため、十分注意すること。

(5) 卒業に必要な単位数

1) 共通科目

区分		単位数	備考
共通科目	基礎科目	知の基礎	6 単位以上
		人間と文化	} 20 単位以上
		社会と人間	
		自然と環境	
		健康科学	
	外国語科目	12 単位以上	英語 I ・ 英語 II 必修 英語以外の 3 外国語のうちから 1 外国語 を選択必修
自由選択 (共通科目の単位数欄に 掲げる単位を超える単位)		14 単位	
計		52 単位	

2) 学科科目

●経済学科、商学科（商学科英語専修を除く）、企業法学科、社会情報学科共通

区 分	単 位 数	備 考
コース基幹科目	24 単位	1. コース基幹科目の 24 単位を超える単位は、コース発展科目の単位に含めることができる。 2. 商学科英語専修科目及びコース自由科目は、以下の科目を卒業所要単位に含めることができる。※ ・経済学入門 ・経済理論 ・国際経済と現代 ・英語コミュニケーションⅠ ・英語コミュニケーションⅡ ・比較文化Ⅰ ・比較文化Ⅱ ・法学 ・国際法 3. 3年以上4年未満の在学で卒業する場合は、研究指導4単位をコース発展科目に認定する。
コース発展科目 (卒業論文4単位を含む)	40 単位	
専門共通科目		
コース自由科目		
研究指導	8 単位	
計	72 単位	
卒業所要単位	124 単位	

(注)

1. コース基幹科目とは、経済学科、商学科（英語専修科目を除く）、企業法学科及び社会情報学科の基幹科目をいい、コース発展科目とは、経済学科、商学科（英語専修科目を除く）、企業法学科及び社会情報学科の発展科目をいう。コース自由科目とは、経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科の自由科目をいう。
2. 進級に必要な単位数
 ア 3年次に進級するためには、46単位（卒業所要単位に算入される単位に限る。）以上修得しなければならない。
 イ 上記「ア」の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。
3. 研究指導の履修方法
 ア 研究指導は原則として必修科目とする。
 イ 例外的措置として研究指導を履修しないことが認められた者は、学科科目のうちから別に8単位を履修しなければならない。

※算入区分

	経済学入門	経済理論	国際経済と現代	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	比較文化Ⅰ	比較文化Ⅱ	法学	国際法
英語専修以外	コース基幹	コース基幹	コース発展	コース自由	コース自由	コース自由	コース自由	コース基幹	コース発展
英語専修	コース基幹	コース基幹	コース発展	コース基幹	コース発展	コース基幹	コース発展	コース基幹	コース発展

●商学科英語専修

区 分	単 位 数	備 考
コース基幹科目	24 単位	1. 英語専修基幹科目から 12 単位含めること。コース基幹科目の 2 4 単位を超える単位は、コース発展科目の単位に含めることができる。 2. コース発展科目には英語学概論Ⅲ及び英作文Ⅰを含め英語専修発展科目から 2 8 単位以上 3. コース自由科目は、以下の科目を卒業所要単位に含めることができる。 ・経済学入門 ・経済理論 ・国際経済と現代 ・法学 ・国際法 4. 3年以上4年未満の在学で卒業する場合は、研究指導4単位をコース発展科目に認定する。
コース発展科目 (卒業論文4単位を含む)	40 単位	
専門共通科目		
コース自由科目		
研究指導	8 単位	
計	72 単位	
卒業所要単位	124 単位	
(注) 1. コース基幹科目とは、経済学科、商学科、企業法学科及び社会情報学科の基幹科目をいい、コース発展科目とは、経済学科、商学科、企業法学科及び社会情報学科の発展科目をいう。コース自由科目とは、経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科の自由科目をいう。 2. 進級に必要な単位数 ア 3年次に進級するためには、4 6 単位（卒業所要単位に算入される単位に限る。）以上修得しなければならない。 イ 上記「ア」の単位数を2年を超えて修得した者は、修得した年度の終了後2年以上在学しなければならない。 3. 研究指導の履修方法 ア 研究指導は原則として必修とする。 イ 例外的措置として研究指導を履修しないことが認められた者は、学科科目のうちから別に8単位を履修しなければならない。		

[商学科英語専修について]

2019 年度から、商学科に英語専修が新設されました（2019 年度入学生から適用）。商学科英語専修に所属するためには、まず、商学科に所属しなければなりません。

教職科目のうち、英語に関する科目が学科の基幹科目及び発展科目に配置され、英語の教員免許の取得を目的としたカリキュラムになっています。英語専修に所属した場合は、3年次の終わりまでに、教職共通科目のうちから原則として2 1 単位以上修得しなければなりません。

※卒業所要単位には含まれませんが、英語専修に所属しなくても、英語の教育職員免許状の取得は可能です。

II. 開講科目

1. 令和6年度 開講科目（夜間主コース）

令和6年度の開講科目は、以下のとおりです。

修正・変更がある場合がありますので、manabaを確認してください。

（注）教員名の前の△は、非常勤講師であることを示しています。

（1）共通科目

ア 基礎科目

系	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
人間と文化	哲学	2	I・II				非開講
	倫理学	2	I・II	前期	水6	宮田賢人	
	心理学Ⅰ	2	I・II	前期	火7	杉山成	
	心理学Ⅱ	2	I・II				非開講
	教育学	2	I・II				非開講
	日本文学Ⅰ	2	I・II	前期	木6	中村史	
	日本文学Ⅱ	2	I・II				
	人文科学特別講義（文化論）	【2】	I・II				非開講
	人文学特別講義（宗教学）	【2】	I・II	後期	木6	△堀雅彦	※1
	言語・文学特別講義（ラテンアメリカ文化研究）	【2】	I・II				非開講
	言語・文学特別講義（中国近世文学）	【2】	I・II				非開講
	言語・文学特別講義（言語学）	【2】	I・II				非開講
	言語・文学特別講義（文学理論）	【2】	I・II				非開講
	言語・文学特別講義（ドイツ文学論）	【2】	I・II	後期	木6	△鈴木将史	
外国事情	2	I				※2	
社会と人間	歴史学Ⅰ	2	I・II				非開講
	歴史学Ⅱ	2	I・II	前期	金7	△醍醐龍馬	
	社会思想史Ⅰ	2	I・II	前期	水7	西永亮	
	社会思想史Ⅱ	2	I・II				非開講
	政治学Ⅰ	2	I・II				非開講
	政治学Ⅱ	2	I・II	後期	時間割を指定しないオンデマンド	△野間俊希	
	社会学Ⅰ	2	I・II				非開講
	社会学Ⅱ	2	I・II	後期	水7	須永将史	
	社会科学特別講義（文化人類学）	【2】	I・II	後期	時間割を指定しないオンデマンド	△北原モコット ウナシ	※1
	社会科学特別講義（社会科学）	【2】	I・II				非開講
自然と環境	数学Ⅰ	2	I・II	前期	月6	後藤良彰	
	数学Ⅱ	2	I・II				非開講
	物理学Ⅰ	2	I・II				非開講
	物理学Ⅱ	2	I・II	後期	月6	杉之原立史	
	化学Ⅰ	2	I・II	前期	木6	沼田ゆかり	
	化学Ⅱ	2	I・II				非開講
	生物学Ⅰ	2	I・II	後期	月6	片山昇	
	生物学Ⅱ	2	I・II				非開講
	環境科学	2	I・II				非開講

※最新の情報は、時間割にて確認してください。

系	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
知の基礎	総合科目Ⅰ	2	I	前期	金7	△倉田稔 外	学問原論
	総合科目Ⅱ	2	I	後期	時間割を指定しないオンデマンド	江頭進 近藤公彦 △奥田和重	社会調査法 非開講
							社会科学入門
	基礎数学	2	I	後期	火7	赤塚広隆	
	基礎ゼミナール	2	I	前期	水6	中村史 後藤良彰	
	社会連携実践Ⅰ	2	I			大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a)ヒューマン・インター シップ基礎
							b)サービスマネジメント 基礎 非開講
c)プロフェッショナル・マネ ジメント基礎 非開講							
社会連携実践Ⅱ	2	I・II			大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a)ヒューマン・インター シップ応用	
						b)サービスマネジメント 応用 非開講	
						c)プロフェッショナル・マネ ジメント応用 非開講	
健康科学	生活と健康	2	I・II				非開講
	予防の医学	2	I・II	後期	木6	高橋恭子	
	健康スポーツⅠ	1	I・II	前期	月6	石崎香理	
	健康スポーツⅡ	1	I・II				非開講
	健康スポーツⅡc (スキー)	1	I・II	冬季集中	未定	中川喜直 外	※3

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

- ※1 履修に注意が必要です。詳しくは「3. 昼間コース科目の履修について」を確認してください。
 ※2 「外国事情」の単位については、学則第 47 条の 2 の規定に基づくギャップイヤープログラム履修生の単位認定に充てます。詳細については、詳細については、学生支援課国際交流室から別途通知します。
 ※3 平成 30 年度以前に、

- ・「健康スポーツ a」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅠ」を履修することができません。
- ・「健康スポーツ b」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅡ」を履修することができません。
- ・「健康スポーツ f 又は g」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅡc (スキー)」を履修することができません。

<夜間主コース学生による昼間コース科目の履修について>

- ・夜間主コース科目「健康スポーツⅠ」と昼間コース科目「健康スポーツⅠa」は同一科目です。
- ・夜間主コース科目「健康スポーツⅡ」と昼間コース科目「健康スポーツⅠb」は同一科目です。
- ・夜間主コース学生は、昼間コース科目「健康スポーツⅠc」「健康スポーツⅡa」「健康スポーツⅡb」を履修することが可能です。

イ 外国語科目

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
英語 I	1	I	前期	月7/金6	羽村貴史 石川友和	
英語 I	1	I	後期	月7/金6	於保 淳 武部エイミー	
英語 II	1	II	前期	月6/金7	朱易安	
英語 II	1	II	後期	月6/金7	△カルヤヌダニエラ △リームストピーター △ケンブジェイミー 外	
ドイツ語 I-1	2	I	前期	火6/木7	林弘晃	
ドイツ語 I-2	2	I	後期	火6/木7	△杉浦康則	
フランス語 I-1	2	I	前期	火6/木7	尾形弘人	
フランス語 I-2	2	I	後期	火6/木7		
中国語 I-1	2	I	前期	火6/木7	章天明 △路勝楠	
中国語 I-2	2	I	後期	火6/木7	△森若裕子	
語学研修	【2】	I・II				※1

※1 「語学研修」の単位については、学則第38条の規定に基づく留学の単位認定に充てます。詳細については、「Ⅵ. 3. 留学による単位認定について」の「(3) 語学研修における単位認定について」を参照してください。

※最新の情報は、時間割にて確認してください。

(2) 学科科目

ア 経済学科

授業科目		単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
基礎経済学	基幹科目	経済学入門	2	I	前期	時間割を指定しないオンデマンド 土居直史	※1
		経済理論	2	II	前期	月7 天野大輔	
		経済と統計	2	II	後期	時間割を指定しないオンデマンド △水村陽一	
		経済史	2	II	前期	金6 松家仁	
	科目発展	経済思想史	2	III・IV			非開講
応用経済学	科目基幹	応用ミクロ経済学	2	II	前期	火6 中島大輔	
	発展科目	公共政策	2	III・IV			非開講
		金融経済	2	III・IV	前期	月6 平井進 △阿部のぞみ	
		国際経済と現代	2	III・IV	前期	時間割を指定しないオンデマンド 柴山千里	
発展科目	科目基幹	経済学と現代	2	II	後期	時間割を指定しないオンデマンド △阿部達也	
	発展科目	経済書講読Ⅰ	2	III・IV	後期	月6 △新海哲哉	
		経済書講読Ⅱ	2	III・IV			非開講
		経済学演習Ⅰ	2	III・IV			非開講
		経済学演習Ⅱ	2	III・IV	前期	月7 △佐野学	
		社会連携実践Ⅲ	2	II	通年	大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a)「ビジネス・インターンシップ」 発展
					後期	大津晶	b)「サステナブル・エコノミクス」発展
				通年	大津晶	c)「デジタル・エコノミクス」 発展	
	卒業研究	4	III				※2
	自由科目	日本史	2	I			
外国史		2	I	前期	水5 △吉嶺茂樹		
地理学		2	I				非開講
法学		2	I	前期	木6 橋本伸 外		
国際法		4	II				非開講
研究指導	8	III・IV	通年	水6/水7	白田康洋		
					廣瀬健一		
卒業論文	4	IV	通年	金7	廣瀬健一		

(注) 自由科目は主に教員免許状を取得するための科目です。

(注) 卒業論文を執筆予定の学生は、各自で履修登録を行うこと。履修登録を行わなかった場合、論文を完成させても単位認定されないことがありますので注意してください。

※1 夜間主コース「経済学入門」と昼間コース「経済学入門Ⅰ」は同一科目です。

※2 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち4単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

イ 商学科

		授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
商学	科目 基幹	市場システム論Ⅰ	2	Ⅱ	前期	木 6	高橋史早	
		市場システム論Ⅱ	2	Ⅱ				非開講
	発展科目	金融システム論Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木 6	齋藤一朗	
		金融システム論Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		国際市場論	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
経営学	科目 基幹	経営学原理	2	Ⅱ	後期	木 6	木田世界	※1
		経営管理論	2	Ⅱ	前期	水 7	加賀田和弘	
	発展科目	経営史	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 6	戴秋娟	
		現代企業管理論Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		現代企業管理論Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
会計学	科目 基幹	簿記原理	2	Ⅰ	後期	木 6	市原啓善	
		会計学原理	2	Ⅱ	後期	月 7	市原啓善	
	発展科目	財務会計概論	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	金 6	石井孝和	
		原価計算概論	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	月 6	岡田龍哉	
	発展科目	社会連携実践Ⅲ	2	Ⅱ	通年		大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a)ビジネス・インターンシップ 発展
					後期		大津晶	b)サービスマネージング 発展
					通年		大津晶	c)グローバル・ラーニング 発展
		卒業研究	4	Ⅲ				※2
英語専修	基幹科目	英語学概論Ⅰ	2	Ⅰ	前期	金 4	於保淳	
		英語学概論Ⅱ	2	Ⅰ	後期	木 4	西口純代	
		英文学史Ⅰ	2	Ⅰ	前期	木 3	高橋優季	
		英文学概論Ⅰ	2	Ⅰ	前期	月 5	羽村貴史	
		英語コミュニケーションⅠ	2	Ⅰ	前期	水 1	石川友和	
	発展科目	比較文化Ⅰ	2	Ⅰ	後期	水 1	石川友和	
		言語学概論	2	Ⅱ				非開講
		英語学概論Ⅲ	2	Ⅱ	前期	木 1	西口純代	
		英語学Ⅰ	2	Ⅱ	後期	木 1	西口純代	
		英語学Ⅱ	2	Ⅱ				非開講
		英文学史Ⅱ	2	Ⅱ				非開講
		英文学概論Ⅱ	2	Ⅱ	後期	水 3	羽村貴史	
		英文学Ⅰ	2	Ⅱ	前期	水 1	高橋優季	
		英文学Ⅱ	2	Ⅱ				非開講
		英作文Ⅰ	2	Ⅱ	後期	金 5	△カルヤヌダニエラ	
		英作文Ⅱ	2	Ⅱ				非開講
		英語コミュニケーションⅡ	2	Ⅱ				非開講
		英語コミュニケーションⅢ	2	Ⅱ	後期	火 3	未定	
		英語コミュニケーションⅣ	2	Ⅱ				非開講
比較文化Ⅱ	2	Ⅱ				非開講		
比較文化Ⅲ	2	Ⅱ	後期	火 1	未定			
比較文化Ⅳ	2	Ⅱ				非開講		

※最新の情報は、時間割にて確認してください。

授業科目		単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
科自由	職業指導	2	Ⅱ	後期	火 6	△高橋陽	
	研究指導	8	Ⅲ・Ⅳ	通年	水 6	石井孝和	
					水 7	金鎔基	
	卒業論文	4	Ⅳ	通年	水 6	金鎔基	

(注) 英語専修の科目及び自由科目は、主に英語の教育職員免許状を取得するための科目です。卒業所要単位への算入については、「Ⅰ. 教育課程」の「3.小樽商科大学の教育課程 (4) 卒業に必要な単位数」を参照してください。

(注) 卒業論文を執筆予定の学生は、各自で履修登録を行うこと。履修登録を行わなかった場合、論文を完成させても単位認定されないことがありますので注意してください。

- ※ 1 夜間主コース「経営学原理」と昼間コース「経営学原理Ⅰ」は同一科目です。
- ※ 2 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち 4 単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

ウ 企業法学科

授業科目		単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考	
基礎法	基幹科目	法学	2	I	前期	時間割を指定しないオンデマンド	橋本伸 外	
		憲法Ⅰ	2	Ⅱ	前期	月 7	小倉一志	※1
		民法Ⅰ	2	Ⅱ	後期	火 7	橋本伸	※1
		刑法	2	Ⅱ				非開講
		行政法Ⅰ	2	Ⅱ				非開講
	発展科目	憲法Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	木 7	坂東雄介	
		民法Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		国際法	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		基礎法特講	2	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				非開講
		企業法	基幹科目	商法Ⅰ	2	Ⅱ	前期	時間割を指定しないオンデマンド
商法Ⅱ	2			Ⅲ・Ⅳ				非開講
発展科目	経済法		2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
	知的財産法		2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
	労働法		2	Ⅲ・Ⅳ	前期	月 6	國武英生	
	社会保障法		2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
	国際経済法		2	Ⅲ・Ⅳ	前期	時間割を指定しないオンデマンド	小林友彦	
	企業法特講		2	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				非開講
発展科目	社会連携実践Ⅲ	2	Ⅱ	通年		大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a) ビジネス・インターンシップ 発展	
				後期		大津晶	b) サービス・ラーニング 発展	
				通年		大津晶	c) デジタル・エクサラーニング 発展	
	卒業研究	4	Ⅲ				※ 2	
自由科目	日本史	2	I				非開講	
	外国史	2	I	前期	水 5	△吉嶺茂樹		
	地理学	2	I				非開講	
	経済学入門	2	I	前期	時間割を指定しないオンデマンド	土居直史	※3	
	経済理論	2	Ⅱ	後期	月 7	天野大輔		
	国際経済と現代	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	時間割を指定しないオンデマンド	柴山千里		
研究指導	8	Ⅲ・Ⅳ	通年	水 6	小倉一志			
				水 7	小倉一志			
	卒業論文	4	Ⅳ	通年	金 7	小倉一志		

(注) 卒業論文を執筆予定の学生は、各自で履修登録を行うこと。履修登録を行わなかった場合、論文を完成させても単位認定されないことがありますので注意してください。

- ※ 1 夜間主コース「憲法Ⅰ」と昼間コース「憲法・基礎Ⅰ」は同一科目です。
夜間主コース「民法Ⅰ」と昼間コース「民法・基礎Ⅰ」、「民法・基礎Ⅱ」は同一科目です。
夜間主コース「刑法」と昼間コース「刑法Ⅰ」は同一科目です。
- ※ 2 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち 4 単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

※最新の情報は、時間割にて確認してください。

Ⅱ 社会情報学科

授業科目		単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
計画科学	基幹 計画数学	2	Ⅱ	後期	木 7	佐藤剛	※ 1
	発展科目 オペレーションズ・リサーチ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
	社会計画	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	時間割を指定しないオンデマンド	大津晶	※ 1
	計画科学	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	火 6	ジョーダンチャールズ	※ 1
組織と情報	発展科目 社会情報論	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
	組織情報論	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	木 6	阿部孝太郎	
	情報システム論	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
社会と情報	基幹科目 情報処理基礎	2	Ⅱ	後期	金 6	三谷和史	
	知識科学基礎	2	Ⅱ	前期	木 7	芳沢聡	
	発展科目 情報処理	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	月 7	片岡駿	※ 1
	コンピュータネットワーク論	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
	情報と職業	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 6	△奥村稔	
社会と情報	基幹科目 社会情報入門	2	Ⅰ	後期	時間割を指定しないオンデマンド	阿部孝太郎 木村泰知	※ 1
	発展科目 社会連携実践Ⅲ	2	Ⅱ	通年		大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a) ビジネス・インターンシップ 発展
				後期		大津晶	b) サービス・ラーニング 発展
				通年		大津晶	c) デジタル・インターンシップ 発展
	卒業研究	4	Ⅲ				※ 2
科目自由 職業指導	2	Ⅱ	後期	火 6	△高橋陽		
研究指導	8	Ⅲ・Ⅳ	通年	水 6	木村泰知		
				水 7	沼澤政信		
卒業論文	4	Ⅳ	通年	水 6	沼澤政信		

(注) 卒業論文を執筆予定の学生は、各自で履修登録を行うこと。履修登録を行わなかった場合、論文を完成させても単位認定されないことがありますので注意してください。

- ※1 夜間主コース「計画数学」と昼間コース「計画数学Ⅰ」、「計画数学Ⅱ」は同一科目です。
夜間主コース「社会計画」と昼間コース「社会計画Ⅰ」、「社会計画Ⅱ」は同一科目です。
夜間主コース「計画科学」と昼間コース「計画科学Ⅰ」、「計画科学Ⅱ」は同一科目です。
夜間主コース「社会情報入門」と昼間コース「社会情報入門Ⅰ」、「社会情報入門Ⅱ」は同一科目です。
夜間主コース「情報処理」と昼間コース「情報処理Ⅰ」、「情報処理Ⅱ」は同一科目です。
- ※2 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち4単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

才 専門共通科目

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
人間と文化論	2	Ⅱ				非開講
現代社会と歴史論	2	Ⅱ				非開講
自然と科学	2	Ⅱ				非開講
人間科学論	2	Ⅱ	後期	木 6	中川喜直	
研究指導	8	Ⅲ・Ⅳ	通年	水 6	西口純代	
					羽村貴史	
卒業論文	4	Ⅳ	通年	金 7	羽村貴史	

カ 教職共通科目（昼間コース・夜間主コース共通）

	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考	令和7年度 開講予定
教職に関する科目	教職論	2	Ⅱ	前期	火 4	須田珠生		○
	教育原理（教育の歴史）	2	Ⅱ	前期	月 5	須田珠生		○
	教育心理	2	Ⅰ	前期	金 2	△浅村亮彦		○
	教育制度	2	Ⅰ	後期	月 4	須田珠生		○
	★特別支援教育	1	Ⅱ・Ⅲ	前期	火 6	△古原祥子		○
	商業科教育法Ⅰ	2	Ⅱ・Ⅲ				非開講	○
	商業科教育法Ⅱ	2	Ⅱ・Ⅲ				非開講	○
	★社会科教育法Ⅰ	2	Ⅱ・Ⅲ				非開講	○
	★社会科教育法Ⅱ	2	Ⅱ・Ⅲ				非開講	○
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	Ⅱ・Ⅲ	前期	金 2	△堂徳将人		×
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	Ⅱ・Ⅲ	後期	金 2	△堂徳将人		×
	英語科教育法Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	金 4	三ツ木真実		○
	英語科教育法Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	木 3	武部エイミー		○
	英語科教育法Ⅲ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	金 3	石川友和		○
	★英語科教育法Ⅳ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	金 4	小林敏彦		○
	情報科教育法Ⅰ	2	Ⅱ・Ⅲ	前期	水 3	△金子義之		×
	情報科教育法Ⅱ	2	Ⅱ・Ⅲ	後期	水 3	△金子義之		×
	道徳教育	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	月 6	須田珠生		○
	教育課程論	2	Ⅱ	後期	金 6	岡部善平		○
	★「総合的な学習の時間」指導法	1	Ⅱ・Ⅲ				非開講	○
	特別活動論	1	Ⅱ	後期	火 5	岡部善平 他		×
	教育方法	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	月 4	岡部善平 △奥村稔		○
	生徒指導	2	Ⅱ	前期	月 6	岡部善平		○
	教育相談	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	水 1	△渡邊誠		○
	事前・事後指導	1	Ⅳ			岡部善平		○
	教育実習Ⅰ	2	Ⅳ			須田珠生		○
教育実習Ⅱ	2	Ⅳ			三ツ木真実 武部エイミー		○	
教職実践演習（中・高）	2	Ⅳ	後期	月 5	岡部善平 外		○	
その他	情報機器概論	2	Ⅰ	前期	火 4	△金子義之		○

(注) *のついた授業科目は学則上廃止された科目です。

(注) ★がついている科目は、2019年度以降の入学生のみ履修可能です。

(注) 6講目に開講されている教職共通科目は、昼間コースの学生も履修できます。

(3) 国際交流科目

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
グローバルマネジメント入門	2	I	後期	火 5	猪口純路 小林広治 △鈴木智子 △山田政樹	
ビジネス経済学 I	2	I	後期	月 3/金 4	池田真介	秋クォーター
ビジネス経済学 II	2	II	後期	月 4/木 1	池田真介	冬クォーター
実証研究入門	2	II	後期	月 4/木 1	小野塚祐紀	秋クォーター
グローバルフィールドワーク I	2	III・IV	前期	月 4/月 5	松本朋哉 王力勇	夏クォーター
グローバルフィールドワーク II	2	III・IV	後期	金 3/金 4	松本朋哉	冬クォーター
日本経済	2	II	前期	月 4/月 5	松本朋哉	春クォーター
国際開発協力	2	III・IV	後期	金 2/金 3	松本朋哉	秋クォーター
アジア太平洋におけるマーケティング戦略	2	III	前期	月 3/木 2	王力勇	夏クォーター
世界の中の日本企業	2	III	後期	火 2/木 2	小林広治	秋クォーター
日本的経営入門	2	II	前期	月 2/水 2	小林広治	夏クォーター
観光マーケティング	2	II	前期	月 2/水 2	王力勇	春クォーター
グローバル経済学特講	[2]	III・IV	未定	未定	未定	
グローバル商学特講	[2]	III・IV	未定	未定	未定	
グローバルインターンシップ I	2	I	前期 後期		松本朋哉 池田真介 (後期)	未定
グローバルインターンシップ II	2	I	前期 後期		松本朋哉 池田真介 (前期)	未定
グローバルセミナー I	2	I	後期	金 5	デバークヒラベ良子	
グローバルセミナー II	2	II	前期	金 5	ブラート カロラス 松本朋哉 王力勇 小林広治 デバークヒラベ良子 ジョーダンチャールズ	
グローバルセミナー III	2	III・IV	前期	木 4	松本朋哉	a)経済系
			後期	木 4	池田真介	
			前期	木 4	王力勇	b)商学系
			後期	木 4	小林広治	
グローバルセミナー IV	2	III・IV	前期	木 4	松本朋哉	a)経済系
			後期	木 4	池田真介	
			前期	木 4	王力勇	b)商学系
			後期	木 4	小林広治	
研究論文 I	2	III・IV	前期	木 5	松本朋哉 王力勇 小林広治	a1 b1 b2
			後期	木 5	松本朋哉 池田真介 小林広治	a1 a2 b2
研究論文 II	2	III・IV	前期	木 5	松本朋哉 王力勇 小林広治	a1 b1 b2
			後期	木 5	松本朋哉 池田真介 小林広治	a1 a2 b2

(注) 国際交流科目のうち、本学の学生が上記の科目を履修した場合、別表の授業科目区分に算入します。

別表

授業科目	単位数	本学の学生が履修した場合の授業科目区分
グローバルマネジメント入門	2	学科科目(商学科・発展科目) ※1
ビジネス経済学Ⅰ	2	学科科目(経済学科・発展科目)
ビジネス経済学Ⅱ	2	学科科目(経済学科・発展科目)
実証研究入門	2	学科科目(経済学科・発展科目)
グローバルフィールドワークⅠ	2	学科科目(経済学科／商学科・発展科目) ※2
グローバルフィールドワークⅡ	2	学科科目(経済学科／商学科・発展科目) ※2
日本経済	2	学科科目(経済学科・発展科目)
国際開発協力	2	学科科目(経済学科・発展科目)
アジア太平洋におけるマーケティング戦略	2	学科科目(商学科・発展科目)
世界の中の日本企業	2	学科科目(商学科・発展科目)
日本の経営入門	2	学科科目(商学科・発展科目)
観光マーケティング	2	学科科目(商学科・発展科目) ※1
グローバル経済学特講	【2】	学科科目(経済学科・発展科目) ※1
グローバル商学特講	【2】	学科科目(商学科・発展科目) ※1

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

- ※1 令和3年度以降に当該科目を履修した場合、上記の授業科目区分に算入します。
- ※2 グローバルフィールドワークⅠ・Ⅱは、経済学科・発展科目に算入されます。ただし、令和3年度以降に履修した者が商学科に所属する場合、商学科・発展科目に算入されます。

2. カリキュラム開講計画（夜間主コース）

（1）共通科目

系	授業科目	単位数	配当基準年次	開講計画		
				令和7年度	令和8年度	令和9年度
人間と文化	哲学	2	I・II	○	×	
	倫理学	2	I・II	×	○	
	心理学Ⅰ	2	I・II	×	○	
	心理学Ⅱ	2	I・II	○	×	
	教育学	2	I・II			
	日本文学Ⅰ	2	I・II	×	○	
	日本文学Ⅱ	2	I・II	○	×	
	人文科学特別講義	[2]	I・II	未定	未定	
	言語・文学特別講義	[2]	I・II	未定	未定	未定
外国事情	2	I				
社会と人間	歴史学Ⅰ	2	I・II	○	×	
	歴史学Ⅱ	2	I・II	×	○	
	社会思想史Ⅰ	2	I・II	×	○	×
	社会思想史Ⅱ	2	I・II	○	×	○
	政治学Ⅰ	2	I・II	○	×	○
	政治学Ⅱ	2	I・II	×	○	×
	社会学Ⅰ	2	I・II	○	×	
	社会学Ⅱ	2	I・II	×	○	
社会科学特別講義	[2]	I・II	未定	未定	未定	
自然と環境	数学Ⅰ	2	I・II	×	○	×
	数学Ⅱ	2	I・II	○	×	○
	物理学Ⅰ	2	I・II	○	×	○
	物理学Ⅱ	2	I・II	×	○	×
	化学Ⅰ	2	I・II	×	○	×
	化学Ⅱ	2	I・II	○	×	○
	生物学Ⅰ	2	I・II	×	○	×
	生物学Ⅱ	2	I・II	○	×	○
	環境科学	2	I・II	×	○	×
知の基礎	総合科目Ⅰ	2	I	×	×	×
	総合科目Ⅱ	2	I	○	○	○
	基礎数学	2	I	○	○	○
	基礎ゼミナール	2	I	○	○	○
	社会連携実践Ⅰ	2	I			
	社会連携実践Ⅱ	2	I・II			

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

系	授業科目	単位数	配当基準年次	開講計画		
				令和7年度	令和8年度	令和9年度
健康科学	生活と健康	2	I・II	○	×	
	予防の医学	2	I・II	×	○	
	健康スポーツ I	1	I・II	×	○	
	健康スポーツ II	1	I・II	○	×	
	健康スポーツ IIc (スキー)	1	I・II	○	○	
外国語科目	英語 I A	1	I	○	○	○
	英語 I B	1	I	○	○	○
	英語 I C	1	I	○	○	○
	英語 I D	1	I	○	○	○
	英語 II A 1	1	II	○	○	○
	英語 II A 2	1	II	○	○	○
	英語 II B 1	1	II	○	○	○
	英語 II B 2	1	II	○	○	○
	ドイツ語 I	4	I	○	×	×
	フランス語 I	4	I	○	○	○
	中国語 I	4	I	○	○	○
語学研修	【2】	I・II				

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

(2) 学科科目

ア 経済学科

講座	授業科目		単位数	配当基準年次	開講計画		
					令和7年度	令和8年度	令和9年度
基礎経済学	基幹科目	経済学入門	2	I	○	○	○
		経済理論	2	II	○	○	○
		経済と統計	2	II	○	○	○
		経済史	2	II	○	○	○
	発展科目	経済思想史	2	III・IV	○	×	○
応用経済学	基幹科目	応用ミク口経済学	2	II	○	○	○
	発展科目	公共政策	2	III・IV	○	×	○
		金融経済	2	III・IV	×	○	×
		国際経済と現代	2	III・IV	×	○	×
基礎経済学	基幹科目	経済学と現代	2	II	○	○	○
	発展科目	経済書講読Ⅰ	2	III・IV	×	○	×
		経済書講読Ⅱ	2	III・IV	○	×	○
		経済学演習Ⅰ	2	III・IV	○	×	○
		経済学演習Ⅱ	2	III・IV	×	○	×
		社会連携実践Ⅲ	2	II			
卒業研究	4	III					
自由科目	☆日本史	2	I	○	×	○	
	☆外国史	2	I	×	○	×	
	☆地理学	2	I	○	×	○	
	☆法学	2	I	○	○	○	
	☆国際法	2	III・IV	○	×	○	
	研究指導	8	III・IV				
	卒業論文	4	IV				

イ 商学科

講座	授業科目		単位数	配当基準年次	開講計画		
					令和7年度	令和8年度	令和9年度
商学	科目 基幹	市場システム論Ⅰ	2	Ⅱ			
		市場システム論Ⅱ	2	Ⅱ			
	発展科目	金融システム論Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ			
		金融システム論Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ			
		国際市場論	2	Ⅲ・Ⅳ			
経営学	科目 基幹	経営学原理	2	Ⅱ			
		経営管理論	2	Ⅱ			
	発展科目	経営史	2	Ⅲ・Ⅳ			
		現代企業管理論Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ			
		現代企業管理論Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ			
会計学	科目 基幹	簿記原理	2	Ⅰ			
		会計学原理	2	Ⅱ			
	発展科目	財務会計概論	2	Ⅲ・Ⅳ			
		原価計算概論	2	Ⅲ・Ⅳ			
		管理会計概論	2	Ⅲ・Ⅳ			
科目 発展	社会連携実践Ⅲ	2	Ⅱ				
	卒業研究	4	Ⅲ				
英語専修	基幹科目	英語学概論Ⅰ	2	Ⅰ			
		英語学概論Ⅱ	2	Ⅰ			
		英文学史Ⅰ	2	Ⅰ			
		英文学概論Ⅰ	2	Ⅰ			
		英語コミュニケーションⅠ	2	Ⅰ			
		比較文化Ⅰ	2	Ⅰ			
	発展科目	言語学概論	2	Ⅱ			
		英語学概論Ⅲ	2	Ⅱ			
		英語学Ⅰ	2	Ⅱ			
		英語学Ⅱ	2	Ⅱ			
		英文学史Ⅱ	2	Ⅱ			
		英文学概論Ⅱ	2	Ⅱ			
		英文学Ⅰ	2	Ⅱ			
		英文学Ⅱ	2	Ⅱ			
		英作文Ⅰ	2	Ⅱ			
		英作文Ⅱ	2	Ⅱ			
		英語コミュニケーションⅡ	2	Ⅱ			
		英語コミュニケーションⅢ	2	Ⅱ			
		英語コミュニケーションⅣ	2	Ⅱ			
		比較文化Ⅱ	2	Ⅱ			
比較文化Ⅲ	2	Ⅱ					
比較文化Ⅳ	2	Ⅱ					
自由科目	☆職業指導	2	Ⅱ	×	○	×	
	研究指導	8	Ⅲ・Ⅳ				
	卒業論文	4	Ⅳ				

ウ 企業法学科

講座	授業科目		単位数	配当基準年次	開講計画		
					令和7年度	令和8年度	令和9年度
基礎法	基幹科目	法学	2	I	○	○	○
		憲法 I	2	II	○	○	○
		民法 I	2	II	○	○	○
		刑法	2	II	○	×	○
		行政法 I	2	II	○	×	○
	発展科目	憲法 II	2	III・IV	×	○	×
		民法 II	2	III・IV	×	○	×
		国際法	2	III・IV	○	×	○
		基礎法特講	[2]	II・III・IV	×	×	×
企業法	基幹科目	商法 I	2	II	○	○	○
	発展科目	商法 II	2	III・IV	○	×	○
		経済法	2	III・IV	×	×	×
		知的財産法	2	III・IV	○	×	○
		労働法	2	III・IV	×	○	×
		社会保険法	2	III・IV	○	×	○
		国際経済法	2	III・IV	×	○	×
		企業法特講	[2]	II・III・IV	×	×	×
科目 発展	社会連携実践Ⅲ	2	II				
	卒業研究	4	III				
自由科目	☆日本史	2	I	○	×	○	
	☆外国史	2	I	×	○	×	
	☆地理学	2	I	○	×	○	
	☆経済学入門	2	I	○	○	○	
	☆経済理論	2	II	○	○	○	
	☆国際経済と現代	2	III・IV	×	○	×	
	研究指導	8	III・IV				
	卒業論文	4	IV				

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

工 社会情報学科

講座	授業科目		単位数	配当基準年次	開講計画		
					令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画科学	基幹科目	計画数学	2	Ⅱ	○	○	×
	発展科目	ホ ^ホ レ ^ホ ン ^ホ ス ^ホ ・ ^ホ リ ^ホ チ	2	Ⅲ・Ⅳ	○	×	○
		社会計画	2	Ⅲ・Ⅳ	×	○	×
		計画科学	2	Ⅲ・Ⅳ	×	○	×
		社会情報論	2	Ⅲ・Ⅳ	○	×	○
		組織情報論	2	Ⅲ・Ⅳ	×	○	×
		情報システム論	2	Ⅲ・Ⅳ	○	×	○
社会と情報	基幹科目	情報処理基礎	2	Ⅱ	○	○	○
		知識科学基礎	2	Ⅱ	×	○	○
	発展科目	情報処理	2	Ⅲ・Ⅳ	×	○	×
		コンピュータネットワーク論	2	Ⅲ・Ⅳ	○	×	○
		情報と職業	2	Ⅲ・Ⅳ	○	○	○
基幹科目	社会情報入門	2	Ⅰ	○	○	○	
	発展科目	社会連携実践Ⅲ	2	Ⅱ			
		卒業研究	4	Ⅲ			
	自由科目	☆職業指導	2	Ⅱ	×	○	×
		研究指導	8	Ⅲ・Ⅳ			
		卒業論文	4	Ⅳ			

才 専門共通科目

授業科目	単位数	配当基準年次	開講計画		
			令和7年度	令和8年度	令和9年度
人間と文化論	2	Ⅱ	×	未定	
現代社会と歴史論	2	Ⅱ	×	未定	
自然と科学	2	Ⅱ	○	×	○
人間科学論	2	Ⅱ	×	×	
研究指導	8	Ⅲ・Ⅳ			
卒業論文	4	Ⅳ			

3. 昼間コース科目の履修について

夜間主コースの学生は、昼間コースの共通科目、学科科目（研究指導を除く）を60単位まで履修できます。ただし、**昼間、夜間主で同一科目が同一年度に開講している科目は履修できません。**また、共通科目、企業法学科科目及び社会情報学科科目では、昼間コースの科目を履修するにあたり、【例外的措置】を取りますので、必ず下記を確認してください。

その他、下記に示した以外にも、科目によっては履修制限をしている場合がありますので、**各科目のシラバスの履修上の注意事項や、manabaでのお知らせに留意してください。**

なお、教職共通科目については、昼夜共通での開講のため、60単位を超えて履修できます。

【例外的措置】

● 共通科目

共通科目のうち、次の科目については、科目名が違っていても同一科目とみなしますので、昼間及び夜間主で開講している場合、昼間コースの科目を履修できません。

- ・「人文科学特別講義（夜）」は、年度によって「宗教学（昼）」または「文化論（昼）」と同一科目とみなします。

令和6年度	「人文科学特別講義（夜）」は「宗教学（昼）」と同様の内容となりますので、夜間主コース学生は「宗教学（昼）」を履修することができません。また、既に「宗教学（昼）」を修得済みの学生は「人文科学特別講義（夜）」を履修できません。
-------	---

- ・「社会科学特別講義（夜）」は、年度によって、「科学方法論（昼）」及び「文化人類学（昼）」と同一科目とみなします。

令和6年度	「社会科学特別講義（夜）」は「文化人類学（昼）」と同様の内容となりますので、夜間主コース学生は「文化人類学（昼）」を履修することができません。また、既に「文化人類学（昼）」を修得済みの学生は「社会科学特別講義（夜）」を履修できません。
-------	---

● 経済学科

経済学科の科目のうち、次の科目については、科目名が違っていても同一科目とみなしますので、昼夜同時開講している場合、夜間主コースの科目を履修してください。たとえば、経済学入門（夜）が開講されている場合、経済学入門Ⅰ（昼）は履修できません（夜間主コースで非開講ならば、昼間コースでの履修が可能です）。

- ・「経済学入門（夜）」と「経済学入門Ⅰ（昼）」は同一科目とみなす。

ただし、平成30年度までに修得したものについては、両方を修得していても構わないものとする。

● 商学科

商学科の科目のうち、次の科目については、科目名が違っていても同一科目とみなしますので、昼夜同時開講している場合、夜間主コースの科目を履修してください。

- ・「経営学原理（夜）」と「経営学原理Ⅰ（昼）」は同一科目とみなす。

ただし、平成29年度までの修得については、両方を修得していてもかまわないものとする。

●企業法学科

- ① 企業法学科の科目で、次の科目については、科目名が違っていても同一科目とみなしますので、昼夜同時開講している場合は、夜間主コースの科目を履修してください。（夜間主コースで非開講ならば、昼間コースでの履修が可能です）。
- ・「刑法（夜）」と「刑法Ⅰ（昼）」は同一科目とみなす。
 - ・「憲法Ⅰ（夜）」と「憲法・基礎Ⅰ（昼）」は同一科目とみなす。
 - ・「民法Ⅰ（夜）」と「民法・基礎Ⅰ（昼）」、「民法・基礎Ⅱ（昼）」は同一科目とみなす。
- ② 企業法学科科目では、上記①が原則ですが、例外的に次のケースで昼間コース科目の履修を認めます。
- ・昼間コースの科目が4単位、夜間主コースの科目が2単位で開講されている場合（例えば、昼間コース「経済法」が4単位、夜間主コース「経済法」が2単位で開講されている場合、昼間コース「経済法」4単位の履修を認めます。）

●社会情報学科

- ① 社会情報学科の科目で、次の科目については、科目名が違っていても同一科目とみなしますので、昼夜同時開講している場合は、夜間主コースの科目を履修してください。たとえば、計画数学（夜）が開講されている場合、計画数学Ⅰ、Ⅱ（昼）は履修できません（夜間主コースで非開講ならば、昼間コースでの履修が可能です）。
- ・「計画数学（夜）」と「計画数学Ⅰ（昼）」、「計画数学Ⅱ（昼）」は同一科目とみなす。
 - ・「社会計画（夜）」と「社会計画Ⅰ（昼）」、「社会計画Ⅱ（昼）」は同一科目とみなす。
 - ・「計画科学（夜）」と「計画科学Ⅰ（昼）」、「計画科学Ⅱ（昼）」は同一科目とみなす。
 - ・「社会情報入門（夜）」と「社会情報入門Ⅰ（昼）」、「社会情報入門Ⅱ（昼）」は同一科目とみなす。
 - ・「情報処理（夜）」と「情報処理Ⅰ（昼）」、「情報処理Ⅱ（昼）」は同一科目とみなす。
- ② 次の社会情報学科の学科科目は、夜間主コースと昼間コースで配当年次が異なります。

科目名	配当年次	
	夜間主コース	昼間コース
オペレーションズ・リサーチ	Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ
社会計画（夜）/社会計画Ⅰ（昼）	Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ
情報処理基礎	Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ
情報処理（夜）/情報処理Ⅰ・Ⅱ（昼）	Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ

これらの科目を、昼間コースで履修する場合は、夜間主コースにおける配当年次に従ってください（もちろん、昼夜同時開講している場合は履修できません）。たとえば、昼間コースの「情報処理Ⅰ・Ⅱ」の場合、その配当年次はⅡですが、夜間主コースの同科目の配当年次はⅢ・Ⅳとなっています。したがって、これを履修できるのは3、4年生のみで、2年生は履修できません。

1. 令和6年度 開講科目（昼間コース）

(注) 最新の情報は、時間割で確認してください。教員名の前の△は、非常勤講師であることを示しています。

(注) A又はB（a又はb）等の2つ以上にクラスが分かれている場合は、どれか一つのクラスしか履修できません。

(1) 共通科目

ア 基礎科目

系	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
人間と文化	哲学	2	I	後期	A水2/B水3	宮田賢人	A・B
	倫理学	2	I	前期	水3	宮田賢人	
	宗教学	2	I	後期	時間割を指定しないオンデマンド	△堀雅彦	
	心理学Ⅰ	2	I	前期	火3	杉山成	
	心理学Ⅱ	2	I	後期	A火3/B木3	杉山成	A・B
	教育学	2	I				非開講
	日本文学Ⅰ	2	I	前期	水2	中村史	
	日本文学Ⅱ	2	I	後期	A水3/B金5	中村史	A・B
	文化論	2	I	前期	火2	△田中佑実	
	言語・文学特別講義（英米文学Ⅰ）	[2]	I				非開講
	言語・文学特別講義（英米文学Ⅱ）	[2]	I	前期	月3	高橋優季	
	言語・文学特別講義（漢字・漢語学）	[2]	I・II	後期	木3	嘉瀬達男	
	言語・文学特別講義（言語学）	[2]	I	後期	月3	権恩熙	※2
	外国語コミュニケーションⅠ（スペイン語）	[2]	I				非開講
	外国語コミュニケーションⅠ（フランス語）	[2]	I	後期	火3	△小澤卓哉	
	外国語コミュニケーションⅠ（韓国語）	[2]	I	後期	月5	権恩熙	
	外国語コミュニケーションⅡ（スペイン語）	[2]	I				非開講
	外国語コミュニケーションⅡ（韓国語）	[2]	I	前期	木3	権恩熙	
	外国語コミュニケーションⅡ（ドイツ語）	[2]	I	後期	金3	△杉浦康則	
	外国事情	2	I				
社会と人間	科学方法論	2	I				非開講
	社会科学	2	I	前期	木4	△佐々木邦子	
	歴史学Ⅰ	2	I	前期	金5	△藤本健太郎	
	歴史学Ⅱ	2	I	後期	水1		
	社会思想史Ⅰ	2	I	前期	金4	西永亮	
	社会思想史Ⅱ	2	I	前期	A木2/B木3	西永亮	A・B
	政治学Ⅰ	2	I	前期	金3	△崔碩鎭	
	政治学Ⅱ	2	I	後期	金3	△崔碩鎭	
	社会学Ⅰ	2	I	前期	A火2/B木2	須永将史	A・B
	社会学Ⅱ	2	I	後期	火2	須永将史	
	文化人類学	2	I	後期	時間割を指定しないオンデマンド	△北原モコットウナシ	

系	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
自然と環境	数学Ⅰ	2	I	前期	月5	後藤良彰	
	数学Ⅱ	2	I	A 前期	A 水3	後藤良彰	A・B
				B 後期	B 火2		
	物理学Ⅰ	2	I	前期	A 月4/B 月5	杉之原立史	A・B
	物理学Ⅱ	2	I	後期	金5	杉之原立史	
	化学Ⅰ	2	I	前期	木3	沼田ゆかり	
	化学Ⅱ	2	I	後期	月3	沼田ゆかり	
	生物学Ⅰ	2	I	後期	月1	片山昇	
	生物学Ⅱ	2	I	後期	A 水1/B 水3	片山昇	A・B
環境科学	2	I	夏季集中	8/26-8/30	沼田ゆかり △小寺史浩 △安東義乃		
知(地)の基礎	総合科目Ⅰ	2	I	夏季集中	9/2-9/6	△醍醐龍馬 外	a) 小樽学
				前期	金2	佐山公一 △高橋大洋 △吉田政弘	b)地域とインター ネットメディアの リテラシー
				後期	時間割を指定しないオンデマンド	△竹中康弘	c) ビジネスにお ける AI テータ利 活用
	総合科目Ⅱ	2	I	前期	水3	大津晶	a) 大学の学びと 社会
				前期	その他	市原啓善	b)一般教育演習 (フレッシュマン セミナー)
				前期	水3	田島貴裕	c)社会調査とデ ータ活用
	総合科目Ⅲ	2	I	後期	水2	大津晶 中島大輔 市原啓善 才原慶道 深田秀美 外	a) エバグリーン 講座
							b)キャリアオーナ ーシップ演習 非開講
	基礎数学	2	I	A 前期	火3	赤塚広隆	A・B
			B 後期				
基礎ゼミナール	2	I	前期	月1	白田康洋		
				月3	小野塚祐紀 天野大輔 中村健一 木田世界 菅沼真也子 沼澤政信 赤塚広隆 後藤良彰 須田珠生 沼田ゆかり 中村史 杉山成 須永将史 西出崇 山田久就 石井登 田島貴裕		
					デバークヒラベ良子	英語で開講(グロ ーカルコース学生 専用)	
				水1	宮田賢人		
				金5	長村知幸 片岡駿 高橋恭子 岡部善平 西永亮 小林敏彦 藤原健祐		

系	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
知(地)の基礎	地域活性化システム論	2	I	夏季集中	8/28-9/2	加賀田和弘 鈴木和宏 長村知幸	土・日除く 2～5 講目
	北海道学	2	I	前期	水 1	△高野宏康	
	北海道産業論 I	2	I	前期	火 2	北川泰治郎 玉井健一 △李濟民	
	北海道産業論 II	2	I				非開講
	社会連携実践 I	2	I	通年		大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a) ビジネス・インター ンシップ 基礎
							b) サービス・ラーニング 基礎 非開講
							c) プロジェクト・ラーニ ング 基礎 非開講
	社会連携実践 II	2	I・II	通年		大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a) ビジネス・インター ンシップ 応用
							b) サービス・ラーニング 応用 非開講
							c) プロジェクト・ラーニ ング 応用 非開講
健康科学	生活と健康	2	I	前期	A 月 4/B 月 5	中川喜直	A・B
	予防の医学	2	I				非開講
	健康スポーツ I a	1	I・II	前期		石崎香理	※4
	健康スポーツ I b	1	I・II	後期		△花輪啓一	※4
	健康スポーツ I c	1	I・II	後期		△細川賢一	※4
	健康スポーツ II a	1	I・II	前期		中川喜直	※4
	健康スポーツ II b	1	I・II	後期		△瀧澤一騎	※4
	健康スポーツ II c (スキー)	1	I・II	冬季集中	未定	中川喜直 △平岡英樹 △星野宏司 △片岡崇弥 △吉田充 △木本理可 △塚本未来	※4

(注) 健康スポーツで同じアルファベットの科目 (a1 と a2 等) は、どれか一つのクラスしか履修できません。

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

※1 「外国文学 I」を修得済みの学生は、「言語・文学特別講義 (英米文学 II)」を履修することができます。

※2 「言語学」を修得済みの学生は、「言語・文学特別講義 (言語学)」を履修することができません。

※3 「外国事情」の単位については、学則第 47 条の 2 の規定に基づくギャップイヤープログラム履修生の単位認定に充てます。詳細については、学生支援課国際交流室から別途通知します。

※4 平成 30 年度以前に、

- ・「健康スポーツ a」を修得済みの学生は、「健康スポーツ I a」を履修することができません。
- ・「健康スポーツ b」を修得済みの学生は、「健康スポーツ I b」を履修することができません。
- ・「健康スポーツ c」を修得済みの学生は、「健康スポーツ II a」を履修することができません。
- ・「健康スポーツ d」を修得済みの学生は、「健康スポーツ II b」を履修することができません。
- ・「健康スポーツ f 又は g」を修得済みの学生は、「健康スポーツ II c (スキー)」を履修することができません。

イ 外国語科目

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考	
英語ⅠA	1	I	前期/後期		クランキー ショーン 羽村貴史 高橋優季 西口純代 三ツ木真実 於保淳 石川友和 武部エイミー 小林敏彦 デバークヒラベ良子 朱易安 △カルヤヌダニエラ △サーマンジョン △マークホルスト △中津川雅宣 △川内裕子 △山本久雄 △ケンプジェイミー △パロウスティーヴン △ブランクリーティモシー △フリーゼンケンレー △マーフィーマーティン △マンビイアン △リームストピーター		
英語ⅠB	1	I					
英語ⅠC	1	I					
英語ⅠD	1	I					
英語ⅡA1/B1	1	II					
英語ⅡA2/B2	1	II					
英語ⅡA3	1	II					
英語ⅡA4	1	II					
ドイツ語Ⅰ-1	2	I	前期	火1/木1	林弘晃 △高橋希衣 △杉浦康則 △鈴木将史 △佐藤和枝		
ドイツ語Ⅰ-2	2	I	後期	火1/木1			
ドイツ語ⅡA-1	2	II	前期	火2/木2			
ドイツ語ⅡA-2	2	II	後期	火2/木2			
ドイツ語ⅡB-1	1	II	前期	火2			
ドイツ語ⅡB-2	1	II	後期	火2			
フランス語Ⅰ-1	2	I	前期	火1/木1	尾形弘人 △高野真理子 △小澤卓哉 △櫻井典夫		
フランス語Ⅰ-2	2	I	後期	火1/木1			
フランス語ⅡA-1	2	II	前期	火2/木2			
フランス語ⅡA-2	2	II	後期	火2/木2			
フランス語ⅡB-1	1	II	前期	木2			
フランス語ⅡB-2	1	II	後期	木2			
中国語Ⅰ-1	2	I	前期	火1/木1	嘉瀬達男 章天明 △日野杉匡大 △大沼尚子 △霜鳥かおり △楊志剛 △呉秀娟 △劉少英 △龐涛 △網谷義男 △胡慧君		
中国語Ⅰ-2	2	I	後期	火1/木1			
中国語ⅡA-1	2	II	前期	火2/木2			
中国語ⅡA-2	2	II	後期	火2/木2			
中国語ⅡB-1	1	II	前期	火2/木2			
中国語ⅡB-2	1	II	後期	火2/木2			
スペイン語Ⅰ-1	2	I	前期	火1/木1		石井登 △村瀬幸代	
スペイン語Ⅰ-2	2	I	後期	火1/木1			
スペイン語ⅡA-1	2	II	前期	火2/木2			
スペイン語ⅡA-2	2	II	後期	火2/木2			
スペイン語ⅡB-1	1	II	前期	木2			
スペイン語ⅡB-2	1	II	後期	火2			

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
ロシア語Ⅰ-1	2	I	前期	火1/木1	山田久就	
ロシア語Ⅰ-2	2	I	後期	火1/木1		
ロシア語ⅡA-1	2	Ⅱ	前期	火2/木2		
ロシア語ⅡA-2	2	Ⅱ	後期	火2/木2		
ロシア語ⅡB-1	1	Ⅱ	前期	火2		
ロシア語ⅡB-2	1	Ⅱ	前期	木2		
韓国語Ⅰ-1	2	I	前期	火1/木1	権恩熙 △千永柱 △金昌九 △田泰昊	
韓国語Ⅰ-2	2	I	後期	火1/木1		
韓国語ⅡA-1	2	Ⅱ	前期	火2/木2		
韓国語ⅡA-2	2	Ⅱ	後期	火2/木2		
韓国語ⅡB-1	1	Ⅱ	前期	木2		
韓国語ⅡB-2	1	Ⅱ	後期	木2		
語学研修	【2】	I・Ⅱ				※1

※1 「語学研修」の単位については、学則第38条の規定に基づく留学の単位認定に充てます。詳細については、「Ⅴ. 3. 留学による単位認定について」の「(3) 語学研修における単位認定について」を参照してください

ウ 日本語科目

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
上級日本語Ⅰ	2	I	前期	火1/木1	大澤幸	
上級日本語Ⅱ	2	I	後期	火1/木1	大澤幸	
上級日本語Ⅲ	2	Ⅱ	前期	火2/木2	大澤幸	
上級日本語Ⅳ	2	Ⅱ	後期	火2/木2	大澤幸	
日本事情Ⅰ	2	I	後期	火3	大澤幸	
日本事情Ⅱ	2	Ⅱ				非開講
日本語Ⅰ	3	I	後期	月2/火4/水2	△山本さやか △武部裕	※短プロ生 向け科目
日本語Ⅱ	3	I	前期	火2/水1/金2	△高田裕子 △山本さやか	
			後期	月1/水3/金1	△武部裕	
日本語Ⅲ	3	Ⅱ	前期	火3/木3/金2	大澤幸 △武部裕	※短プロ生 向け科目
語学教育実習	1	I				非開講 ※短プロ生 向け科目

(2) 学科科目

ア 経済学科

		授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
基礎経済学	基幹科目	マクロ経済学	4	Ⅱ	後期	月 3/木 3	小寺寛彰	
		ミクロ経済学	4	Ⅱ	前期	月 3/木 3	白田康洋	
		統計学	2	Ⅰ	前期	金 3	寺坂崇宏	A
		経済史	2		後期	金 3	田中晋矢	B
		計量経済学	4	Ⅱ	後期	月 2/水 2	田中晋矢	※ 1
		統計演習	2	Ⅱ	前期	水 2	田中晋矢	A
			2		後期	金 4	寺坂崇宏	B
	発展科目	現代経済理論Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	月 5	中島大輔	
		現代経済理論Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		数理統計学	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 2	寺坂崇宏	
		* 経済データ解析論	4	Ⅲ・Ⅳ				
		経済学史	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	金 1/金 2	△吉井哲	
		日本経済史	2	Ⅱ				非開講
		外国経済史Ⅰ	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	水 1/水 2	平井進	
外国経済史Ⅱ	4	Ⅲ・Ⅳ				非開講		
応用経済学	科目基幹	国際経済学	2	Ⅱ	後期	火 3	柴山千里	
	発展科目	公共経済学	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 3/金 3	佐野博之	
		労働経済学	4	Ⅱ	後期	金 3/金 5	中村健一	
		産業組織論	4	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		財政学	4	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		金融論	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	木 1/木 2	廣瀬健一	
		国際金融と世界経済	4	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		現代ファイナンス理論	4	Ⅲ・Ⅳ	後期	木 1/木 2	廣瀬健一	
		国際貿易理論	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		国際マクロ経済学	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
基礎科目	経済数学	2	Ⅱ	前期	月 2	赤塚広隆		
	経済学入門Ⅰ	2	Ⅰ・Ⅱ	前期	時間割を指定しないオンデマンド	土居直史		
	経済学入門Ⅱ	2	Ⅰ・Ⅱ	後期	月 4	佐野博之 中島大輔 土居直史 田中晋矢 小寺寛彰		
	経済学特別講義（市場構造と企業戦略）	【2】	Ⅱ				非開講	
	経済学特別講義（環境経済学）	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講	
	経済学特別講義（応用ミクロ経済学）	【2】	Ⅱ				非開講	
	経済学特別講義（R による経済データ分析）	【2】	Ⅱ				非開講	
	経済学特別講義（パーソナルファイナンス論）	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講	
	経済学特別講義（ゲーム理論と不完全競争）	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講	
	経済学特別講義（北海道経済論）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	夏季集中	8/26-30	△遠藤正寛		
	経済学特別講義（金融経済）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	月 6	平井進 △阿部のぞみ		
	社会連携実践Ⅲ	2	Ⅱ	通年			大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅	a) ビジネス・インターンシップ発展
				後期			大津晶	b) サービス・ラーニング発展
				通年			大津晶	c) アソシエイト・ラーニング発展
	卒業研究	6	Ⅲ				※ 2	

授業科目		単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
自由科目	日本史	2	I				非開講
	外国史	2	I	前期	水 5	△吉嶺茂樹	
	地理学	2	I				非開講
	法学	2	I	前期	木 2	橋本伸 外	
	国際法	4	II	前期	月 3 / 月 4	張博一	
研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	通年	火 4-5 or 木 4-5			

(注) 自由科目は主に教員免許状を取得するための科目です。

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

(注) *のついた授業科目は学則上廃止された科目です。

※1 平成 28 年度以前の入学生については、経済学科発展科目としての算入となります。

※2 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち 6 単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

イ 商学科

		授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
商学	科目 基幹	マーケティング入門	2	I・II	前期	金4	鈴木和宏	
		流通システム論	2	II	後期	月2	未定	
	発展科目	マーケティング戦略	4	II	前期	月5/火3	近藤公彦	
		地域ブランド論	2	III・IV	後期	火2	長村知幸	
		マーケティング行動論	4	III・IV	前期	木1/木2	猪口純路	
		マーケティング各論 I	2	III・IV	後期	金2	高橋史早	
		マーケティング各論 II	2	III・IV				非開講
		国際マーケティング	4	III・IV				非開講
		保険論	4	III・IV				非開講
		金融市場論	2	III・IV				非開講
		商学特講（地域金融と信用金庫）	[2]	III・IV	前期	金2	中浜隆 齋藤一朗 外	北海道信用金庫 提供講義
		商学特講（金融取引の基本と金融リテラシー）	[2]	III・IV	前期	木2	齋藤一朗	北洋銀行・SMBC コンシューマーファイナンス提供講義
	商学特講（生命保険を考える）	[2]	III・IV	前期	月4	中浜隆 外	生命保険協会提供講義	
商学特講（財務・金融行政から見た北海道の現状・課題・将来性）	[2]	III・IV				非開講		
経営学	基幹科目	経営学原理 I	2	I・II	後期	木6	木田世界	※2
		経営学原理 II	2	II	前期	水2	木田世界	
		経営管理論	4	II	前期	月3/月4	玉井健一	
	発展科目	経営史	4	II	後期	金3/金5	戴秋娟	
		経営学説史	4	III・IV				非開講 R7は2単位で開講予定
		経営組織論	2	III・IV	後期	水3	西村友幸	
		労務管理論	4	III・IV				非開講
		財務管理論	2	III・IV	前期	月4	手島直樹	
		国際経営論	2	III・IV				非開講
		企業と社会	4	III・IV	後期	月2/水2	加賀田和弘	
		中小企業論	4	III・IV	後期	月3/月4	林松国	
		経営学特講	[2]	III・IV	夏季集中	9/9-9/13	△加藤敬太	
		経営学特講（北海道未来学）	[2]	III・IV	前期	金3	加賀田和弘	コープさっぽろ提供講座
経営戦略論	4	III・IV				非開講		
会計学	基幹科目	簿記原理	2	I	後期	金4	未定	A
					後期	木3	市原啓善	B
		応用簿記	2	II	前期	火2	石井孝和	
	発展科目	経営と会計	2	II	A 前期/B 後期	その他	旗本智之	A・B
		財務会計論	4	II	後期	火1/金1	石川業	
		原価計算論	4	II	後期	月3/月4	堺昌彦	
		管理会計論	4	III・IV	前期	月3/火3	岡田龍哉	
		監査論	4	III・IV	後期	火3/金3	未定	
		国際会計論	4	III・IV				非開講
		組織と会計	2	III・IV	前期	月2	乙政佐吉	
		税務会計論	4	III・IV				非開講
		会計学特講（北海道税理士会租税講座）	[2]	II III IV				非開講
		会計学特講（財務会計論特講）	[2]	III・IV	前期	火2	石川業	
発展科目	社会連携実践Ⅲ	2	II	通年		大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅 外	a) ビジネス・インターシップ [®] 発展	
				後期		大津晶	b) サービス・ラーニング [®] 発展	
				通年		大津晶	c) プロジェクト・ラーニング [®] 発展	
科目 自由	卒業研究	6	II				※4	
				アントレプレナーシップ概論	2	I	後期	火6

		授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考	
英語専修	基幹科目	英語学概論Ⅰ	2	I	前期	金 4	於保淳		
		英語学概論Ⅱ	2	I	後期	木 2	西口純代		
		英文学史Ⅰ	2	I	前期	木 3	高橋優季		
		英文学概論Ⅰ	2	I	前期	月 5	羽村貴史		
		英語コミュニケーションⅠ	2	I	前期	金 1	石川友和		
		比較文化Ⅰ	2	I	後期	水 1	石川友和		
	発展科目	言語学概論	2	Ⅱ					非開講
		英語学概論Ⅲ	2	Ⅱ	前期	木 1	西口純代		
		英語学Ⅰ	2	Ⅱ	後期	木 1	西口純代		
		英語学Ⅱ	2	Ⅱ					非開講
		英文学史Ⅱ	2	Ⅱ					非開講
		英文学概論Ⅱ	2	Ⅱ	後期	水 3	羽村貴史		
		英文学Ⅰ	2	Ⅱ	前期	水 1	高橋優季		
		英文学Ⅱ	2	Ⅱ					非開講
		英作文Ⅰ	2	Ⅱ	後期	金 5	△カルヤヌダニエラ		
		英作文Ⅱ	2	Ⅱ					非開講
		英語コミュニケーションⅡ	2	Ⅱ					非開講
		英語コミュニケーションⅢ	2	Ⅱ	後期	火 3	未定		
		英語コミュニケーションⅣ	2	Ⅱ					非開講
		比較文化Ⅱ	2	Ⅱ					非開講
比較文化Ⅲ	2	Ⅱ	後期	火 1	未定				
比較文化Ⅳ	2	Ⅱ					非開講		
自由科目	英語上級Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ					非開講※5	
	英語上級Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ					非開講※5	
	英語上級Ⅲ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	金 5	△カルヤヌダニエラ		※5	
	英語上級Ⅳ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	金 3	武部エイミー		※5	
	ビジネス英語Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木 2	クランキー ショーン		※5	
	ビジネス英語Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	水 1	クランキー ショーン		※5	
	英語学特講Ⅰ	2	Ⅱ	後期	水 3	於保淳			
	英語学特講Ⅱ	2	Ⅱ					非開講※5	
	英文学特講Ⅰ	2	Ⅱ	前期	水 3	羽村貴史			
	英文学特講Ⅱ	2	Ⅱ					非開講※5	
職業指導	2	Ⅱ	後期	火 6	△高橋陽				
研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	通年	火 4-5 or 木 4-5					

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

(注) 英語専修の科目及び自由科目は、主に英語の教育職員免許状を取得するための科目です。卒業所要単位への算入については、「Ⅰ. 教育課程」の「3.小樽商科大学の教育課程 (3) 卒業に必要な単位数」を参照してください。

※1 「商学特講 (地域金融と信用金庫)」は、平成 30 年度開講の「商学特講」を修得済みの学生は履修できません。

※2 「経営学原理Ⅰ」は、昼夜開講科目として 6 講目に開講されます。

※3 「会計学特講 (北海道税理士会租税講座)」は、2019 年度に開講した「会計学特講 (日税連寄附講座)」、平成 29 年度・30 年度に開講した「会計学特講」を修得済みの学生は履修できません。

なお、「会計学特講 (財務会計論特講)」は、2019 年度に開講した「会計学特講 (財務会計 (発展))」、とは別科目となります。

※4 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち 6 単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

※5 これらの自由科目について平成 30 年度以前の入学生は「専門共通科目」として卒業所要単位へ算入することができます。

ウ 企業法学科

授業科目		単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考	
基礎法	基幹科目	憲法・基礎Ⅰ	2	I・II	後期	月3	坂東雄介	
		憲法・基礎Ⅱ	2	II	前期	水2	坂東雄介	
		行政法Ⅰ	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	時間割を指定しないオンデマンド	△齋藤健一郎	
		民法・基礎Ⅰ	2	I・II	後期	火3	橋本伸	
		民法・基礎Ⅱ	2	II	前期	木1	橋本伸	
		刑法Ⅰ	4	II	前期	月2/火3	菅沼真也子	
	発展科目	法学	2	I	前期	木2	橋本伸 外	
		憲法Ⅱ	4	II	後期	月3/月4	小倉一志	
		行政法Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		租税法	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木2	△石黒匡人	
		民法Ⅱ	4	II	後期	火3/木3	岩本尚禮	
		民法Ⅲ	2	Ⅲ・Ⅳ	夏季集中	9/2-9/6	△竹村壮太郎	
		民法Ⅳ	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		刑法Ⅱ	2	II	夏季集中	8/26-8/30	△伊比智	
企業法	科目基幹	商法Ⅰ	4	II	後期	時間割を指定しないオンデマンド	河森計二	
	発展科目	商法Ⅱ	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	火2/水3	多木誠一郎	
		商法Ⅲ	4	Ⅲ・Ⅳ				非開講
		経済法	4	Ⅲ・Ⅳ	夏季集中	8/19-8/23	△姜連甲	
		知的財産法	4	Ⅲ・Ⅳ	後期	月2/水2	才原慶道	
		労働法	4	Ⅲ・Ⅳ	後期	月5/木2	國武英生	
		社会保険法	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	火3/木3	片桐由喜	
		国際経済法	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	金2/金3	小林友彦	
	企業法特講(民事手続法)	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	火1	△佐藤真紀世		
	発展科目	社会連携実践Ⅲ	2	II	通年		大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅 外	a) ビジネス・インターンシップ発展
後期						大津晶	b) サービス・ラーニング発展	
通年						大津晶	c) プロジェクト・ラーニング発展	
卒業研究		6	Ⅲ				※1	
自由科目	日本史	2	I				非開講	
	外国史	2	I	前期	水5	△吉嶺茂樹		
	地理学	2	I				非開講	
	経済学入門Ⅰ	2	I・II	前期	時間割を指定しないオンデマンド	土居直史		
	経済学入門Ⅱ	2	I・II	後期	月4	佐野博之 中島大輔		
	国際経済学	2	II	後期	火3	柴山千里		
	研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	通年	火4-5 or 木4-5			

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

※1 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち6単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

Ⅱ 社会情報学科

		授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
計画科学	基幹科目	オペレーションズ・リサーチ	2	Ⅱ	前期	時間割を指定しないオンデマンド	ジョーダンチャールズ	
		統計科学	2	Ⅱ	前期	木 1	小泉大城	
		計画数学Ⅰ	2	Ⅱ	前期	水 2	小泉大城	
		計画数学Ⅱ	2	Ⅱ	前期	月 3	小泉大城	
	発展科目	社会計画Ⅰ	2	Ⅱ	前期	金 5	大津晶	※ 1
		社会計画Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	木 2	大津晶	※ 1
		計画科学Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	月 2	ジョーダンチャールズ	※ 2
		計画科学Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	夏季集中	8/19-8/23	△原口和也	※ 2
		意思決定論Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木 2	片岡駿	※ 3
		意思決定論Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ			非開講 ※ 3	
組織と情報	基幹科目	経営システム基礎	2	Ⅱ	後期	月 5	深田秀実	
		情報システム管理論	2	Ⅱ	後期	水 2	三浦克宜	
	発展科目	プロジェクトマネジメント	2	Ⅱ	後期	火 3	平沢尚毅 深田秀実	※ 4
		組織コミュニケーション論	2	Ⅱ	後期	火 1	阿部孝太郎	
		デジタルデザイン論	2	Ⅱ	前期	月 4	平沢尚毅	
		システム戦略論	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	金 3	深田秀実	
		組織情報論	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木 3	阿部孝太郎	
		社会情報論	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	月 1	平沢尚毅	
		情報システム構築論	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	金 4	三浦克宜	
		ビジネスシステム論	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	時間割を指定しないオンデマンド △石井和乎		
社会と情報	基幹科目	知識科学基礎	2	Ⅱ	後期	金 5	木村泰知	
		情報処理Ⅰ	2	Ⅱ	前期	火 3	加地太一	※ 5
		情報処理Ⅱ	2	Ⅱ	後期	金 3	木村泰知	※ 5
	発展科目	情報数理	2	Ⅱ	前期	火 1	沼澤政信	
		ソフトウェア科学	4	Ⅱ	後期	月 3	加地太一	※ 6
		認知科学Ⅰ	2	Ⅱ	前期	金 3	佐山公一	※ 7
		認知科学Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	水 2	佐山公一	※ 7
		コンピュータネットワーク論	4	Ⅲ・Ⅳ	前期	金 4	三谷和史	他) 夏季集中: 9/2-6
		情報と職業	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	月 5	△奥村稔	
				応用情報論Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ		
基幹科目		応用情報論Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	水 3	佐山公一	
		社会情報入門Ⅰ	2	Ⅰ	前期	金 4	木村泰知 三浦克宜	
		社会情報入門Ⅱ	2	Ⅰ・Ⅱ	後期	木 3	大津晶 片岡駿	
		情報処理基礎	2	Ⅰ・Ⅱ	後期	金 4	沼澤政信	

授業科目		単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考	
発展科目	社会情報特講Ⅰ	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講	
	社会情報特講Ⅱ	【2】	Ⅲ・Ⅳ	夏季集中	8/26-8/30	△穴澤務		
	社会情報特講Ⅲ	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講	
	社会連携実践Ⅲ	2	Ⅱ	通年			大津晶 土居直史 石川業 多木誠一郎 平沢尚毅 外	a) ビジネス・インク・マガジン 発展
				後期			大津晶	b) サービス・ラーニング発展
				通年			大津晶	c) プロジェクト・ラーニング発展
卒業研究	6	Ⅲ				※8		
科目自由	職業指導	2	Ⅱ	後期	火6	△高橋陽		
	研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	通年	火4-5 or 木4-5			

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

- ※1 「社会計画」を修得済みの学生は、「社会計画Ⅰ」「社会計画Ⅱ」を履修することができません。
- ※2 「計画科学」を修得済みの学生は、「計画科学Ⅰ」「計画科学Ⅱ」を履修することができません。
- ※3 「意思決定論」を修得済みの学生は、「意思決定論Ⅰ」「意思決定論Ⅱ」を履修することができません。
- ※4 「プロジェクトマネジメント基礎」を修得済みの学生は、「プロジェクトマネジメント」を履修することができません。
- ※5 「情報処理」を修得済みの学生は、「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」を履修することができません。
- ※6 「ソフトウェア科学」については、2019年度以前入学生は、従来どおり3年次以上にならなければ履修できません。
- ※7 「認知科学」を修得済みの学生は、「認知科学Ⅰ」「認知科学Ⅱ」を履修することはできません。
- ※8 「卒業研究」は早期卒業者を対象とした科目です。早期卒業の場合は、研究指導の単位のうち6単位が、「卒業研究」として学科発展科目に認定されます。

オ 専門共通科目

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
現代哲学論	2	Ⅱ				非開講
現代心理学	2	Ⅱ				非開講
文学と人間	2	Ⅱ			中村史	
現代思想	2	Ⅱ	前期	水 3	西永亮	
現代の社会	2	Ⅱ				非開講
歴史と社会	2	Ⅱ				非開講
現代の化学	2	Ⅱ				非開講
自然と物理学	2	Ⅱ				非開講
現代の生物学	2	Ⅱ	後期	金 2	片山昇	
現代の数学Ⅰ	2	Ⅱ				非開講
現代の数学Ⅱ	2	Ⅱ				非開講
人間科学論	2	Ⅱ				非開講
科学技術と社会の展望	2	Ⅱ	後期	金 2	大津晶 外	
アントレプレナーシップセミナーⅠ	4	Ⅱ	通年	その他	泉貴嗣 筈井俊輔 藤原健祐	
アントレプレナーシップセミナーⅡ	4	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	通年	その他	旗本智之 猪口純路 大津晶	
アントレプレナーシップセミナーⅢ	4	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	通年	その他	旗本智之 猪口純路 大津晶	
国際コミュニケーションⅠ	【2】	Ⅱ				非開講
国際コミュニケーションⅠ (スペイン語)	【2】	Ⅱ				非開講
国際コミュニケーションⅡ	【2】	Ⅱ				非開講
外国語上級Ⅰ(ドイツ語)	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅰ(フランス語)	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅰ(中国語)	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅰ(スペイン語)	2	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅰ(ロシア語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅰ(韓国語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅱ(ドイツ語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅱ(フランス語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅱ(中国語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅱ(スペイン語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅱ(ロシア語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅱ(韓国語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅲ(ドイツ語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	木 3	△鈴木将史	
外国語上級Ⅲ(フランス語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 3	尾形弘人	
外国語上級Ⅲ(中国語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 3	嘉瀬達男	
外国語上級Ⅲ(スペイン語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 3	石井登	
外国語上級Ⅲ(ロシア語)	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 3	山田久就	

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当者	備考
外国語上級Ⅲ（韓国語）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	前期	火 3	△田泰昊	
外国語上級Ⅳ（ドイツ語）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	後期	火 3	林弘晃	
外国語上級Ⅳ（フランス語）	【2】	Ⅲ・Ⅳ				非開講
外国語上級Ⅳ（中国語）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	後期	火 3	嘉瀬達男	
外国語上級Ⅳ（スペイン語）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	後期	火 3	石井登	
外国語上級Ⅳ（ロシア語）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	後期	火 3	山田久就	
外国語上級Ⅳ（韓国語）	【2】	Ⅲ・Ⅳ	後期	火 3	権恩熙	
アジア・オセアニア事情	2	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	前期 後期		ブラートカロラス 松本朋哉	
ヨーロッパ事情	2	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	後期		王力勇	
アメリカ事情	2	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	前期 後期		小林広治 デバークヒラベ良子	
研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	通年	火 4-5 or 木 4-5		

(注) 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ異なる授業科目として履修し単位を修得することができます。

2. 科目の新設・廃止・統合、配当年次・単位数・科目区分・名称変更等がある科目について

※科目対応表については、本学ホームページを参照してください。

令和6年度からの変更について

学科科目

科目の新設

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
アントレプレナーシップセミナーⅡ	専門共通科目	4	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
アントレプレナーシップセミナーⅢ	専門共通科目	4	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

令和5年度からの変更について

共通科目

科目の単位数変更

●昼間コース

令和5年度以降入学生				令和4年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
外国語コミュニケーションⅠ	基礎科目	<u>【2】</u>	I	外国語コミュニケーションⅠ	基礎科目	2	I
外国語コミュニケーションⅡ	基礎科目	<u>【2】</u>	I	外国語コミュニケーションⅡ	基礎科目	2	I

※ 単位欄中の数値に【 】が付いている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれの授業科目として履修することができます。

学科科目

科目の新設

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
統計演習	経済学科基幹科目	2	Ⅱ
アントレプレナーシップセミナーⅠ	専門共通科目	4	Ⅱ

科目の廃止

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
経済データ解析論	経済学科発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ

科目の分割

●昼間コース

令和5年度以降入学生				令和4年度以前入学生			
<u>認知科学Ⅰ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	<u>Ⅱ</u>	<u>認知科学</u>	社会情報学科 発展科目	<u>4</u>	<u>Ⅲ・Ⅳ</u>
<u>認知科学Ⅱ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	<u>Ⅲ・Ⅳ</u>				

※ 「認知科学」を修得済みの学生は、「認知科学Ⅰ」「認知科学Ⅱ」を履修することはできません。

令和4年度からの変更について

共通科目

科目の新設

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次	備考
北海道産業論Ⅱ	基礎科目	2	I	

科目の名称変更

●昼間コース

令和4年度以降入学生				令和3年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
<u>北海道学</u>	基礎科目	2	I	<u>グローバルイズム と地域経済</u>	基礎科目	2	I
<u>北海道産業論Ⅰ</u>	基礎科目	2	I	<u>地域学</u>	基礎科目	2	I

※ 令和3年度以前入学生で右記科目のいずれかを修得済みの場合、令和4年度以降に開講の対応する左記科目の履修はできません。

学科科目

科目の新設

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
地域ブランド論	商学科発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ
マーケティング各論Ⅰ	商学科発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ
マーケティング各論Ⅱ	商学科発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ
アントレプレナーシップ概論	商学科自由科目	2	I
科学技術と社会の展望	専門共通科目	2	Ⅱ

科目の廃止

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
貿易論	商学科発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ
チャンネル・マネジメント	商学科発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ

科目の名称変更

●昼間コース

令和4年度以降入学生				令和3年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
<u>マーケティング 入門</u>	商学科 基幹科目	2	I・II	<u>流通システム論 I</u>	商学科 基幹科目	2	I・II
<u>流通システム論</u>	商学科 基幹科目	2	II	<u>流通システム論 II</u>	商学科 基幹科目	2	II
<u>マーケティング 戦略</u>	商学科 発展科目	4	II	<u>マーケティング</u>	商学科 発展科目	4	II

※ 令和3年度以前入学生で右記科目のいずれかを修得済みの場合、令和4年度以降に開講の対応する左記科目の履修はできません。

配当年次の変更

●昼間コース

令和4年度以降入学生				令和3年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
会計学特講	商学科 発展科目	【2】	<u>II・III・IV</u>	会計学特講	商学科 発展科目	【2】	<u>III・IV</u>

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

令和3年度からの変更について

共通科目

科目の新設

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
言語・文学特別講義	基礎科目	【2】	I

●夜間主コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
言語・文学特別講義	基礎科目	【2】	I・II

●昼間コース、夜間主コース共通

科目名	科目区分	単位数	配当年次
語学研修	外国語科目	【2】	I・II

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

※ 「語学研修」は、学則 38 条の規定に基づく留学の単位認定に充てます。詳細については「V.3.留学による単位認定について」の「(3) 語学研修における単位認定について」を参照してください。

科目の新設に伴う廃止

以下の科目は、「言語・文学特別講義」の新設に伴い令和 2 年度をもって廃止となりました。

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
外国文学Ⅰ	基礎科目	2	I
外国文学Ⅱ	基礎科目	2	I
言語学	基礎科目	2	I
日本語学	基礎科目	2	I
比較日本文化論	基礎科目	2	I
ことばと文化	基礎科目	2	I

●夜間主コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
外国文学	基礎科目	2	I・II
言語学	基礎科目	2	I・II
ことばと文化	基礎科目	2	I・II

学科科目

配当年次の変更

●昼間コース

令和 3 年度以降入学生				令和 2 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
刑法Ⅱ	企業法学科 発展科目	2	<u>II</u>	刑法Ⅱ	企業法学科 発展科目	2	<u>III・IV</u>

令和 2 年度からの変更について

共通科目

科目の廃止

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
論理学	基礎科目	2	I

学科科目

科目の廃止

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
実践プロジェクト マネジメント	社会情報学科 発展科目	2	III・IV

配当年次の変更

●昼間コース

令和2年度以降入学生				2019年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
金融論	経済学科 発展科目	4	<u>Ⅲ・Ⅳ</u>	金融論	経済学科 発展科目	4	<u>Ⅱ</u>
現代ファイナ ンス理論	経済学科 発展科目	4	<u>Ⅲ・Ⅳ</u>	現代ファイナ ンス理論	経済学科 発展科目	4	<u>Ⅱ</u>
ソフトウェア 科学	社会情報学科 発展科目	4	<u>Ⅱ</u>	ソフトウェア 科学	社会情報学科 発展科目	4	<u>Ⅲ・Ⅳ</u>

※ 「金融論」「現代ファイナンス理論」については、2019年度以前入学生は、従来どおり2年次からの履修が可能です。「ソフトウェア科学」については、2019年度以前入学生は、従来どおり3年次以上にならないと履修できません。

科目の分割・名称変更

●昼間コース

令和2年度以降入学生				2019年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
<u>プロジェクト マネジメント</u>	社会情報学科 発展科目	2	Ⅱ	<u>プロジェクトマ ネジメント基礎</u>	社会情報学科 発展科目	2	Ⅱ

令和2年度以降入学生				2019年度以前入学生			
<u>情報処理Ⅰ</u>	社会情報学科 基幹科目	<u>2</u>	Ⅱ	<u>情報処理</u>	社会情報学科 基幹科目	<u>4</u>	Ⅱ
<u>情報処理Ⅱ</u>	社会情報学科 基幹科目	<u>2</u>	Ⅱ				

※ 「プロジェクトマネジメント基礎」を修得済みの学生は、「プロジェクトマネジメント」を履修することはできません。

※ 「情報処理」を修得済みの学生は、「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」を履修することはできません。

2019年度からの変更について

共通科目

配当年次の変更

「外国事情」の単位については、学則第38条に基づく学生の派遣留学において、留学を認める学生を2年次以上から1年次以上に引き下げたことに伴い、配当年次が2年次から1年次に変更されました。

●昼間コース、夜間主コース共通

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
外国事情	基礎科目	2	<u>Ⅰ</u>	外国事情	基礎科目	2	<u>Ⅱ</u>

科目名・配当年次の変更

2019年度より、健康スポーツは下記のとおり、科目名、配当年次等が変更になりましたので、履修の際は注意してください。

●昼間コース

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
健康スポーツⅠa	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツa	基礎科目	1	<u>I</u>
健康スポーツⅠb	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツb	基礎科目	1	<u>I</u>
健康スポーツⅠc	基礎科目	1	<u>I・II</u>				
健康スポーツⅡa	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツc	基礎科目	1	<u>II</u>
健康スポーツⅡb	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツd	基礎科目	1	<u>II</u>
2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
廃止				健康スポーツe (水泳)	基礎科目	1	<u>I</u>
健康スポーツⅡc (スキー)	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツf (スキーⅠ)	基礎科目	1	<u>I</u>
				健康スポーツg (スキーⅡ)	基礎科目	1	<u>II</u>

※履修上の注意

平成30年度以前に

- ・「健康スポーツa」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅠa」を履修することができません。
- ・「健康スポーツb」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅠb」を履修することができません。
- ・「健康スポーツc」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅡa」を履修することができません。
- ・「健康スポーツd」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅡb」を履修することができません。
- ・「健康スポーツf又はg」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅡc(スキー)」を履修することができません。

●夜間主コース

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
健康スポーツⅠ	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツa	基礎科目	1	<u>I</u>
健康スポーツⅡ	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツb	基礎科目	1	<u>I</u>
廃止				健康スポーツe (水泳)	基礎科目	1	<u>I</u>
健康スポーツⅡc (スキー)	基礎科目	1	<u>I・II</u>	健康スポーツf (スキーⅠ)	基礎科目	1	<u>I</u>
				健康スポーツg (スキーⅡ)	基礎科目	1	<u>II</u>

※履修上の注意

平成30年度以前に、

- ・「健康スポーツa」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅠ」を履修することができません。
- ・「健康スポーツb」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅡ」を履修することができません。
- ・「健康スポーツf又はg」を修得済みの学生は、「健康スポーツⅡc(スキー)」を履修することができません。

<夜間主コース学生による昼間コース科目の履修について>

- ・夜間主コース科目「健康スポーツⅠ」と昼間コース科目「健康スポーツⅠa」は同一科目です。

- ・夜間主コース科目「健康スポーツⅡ」と昼間コース科目「健康スポーツⅠb」は同一科目です。
- ・夜間主コース学生は、昼間コース科目「健康スポーツⅠc」「健康スポーツⅡa」「健康スポーツⅡb」を履修することが可能です。

単位数の変更

2019年度から特別講義の取扱が変更になり、複数の講義題目により行われる場合は、それぞれ一つの授業科目として履修することができるようになりました。

なお、平成30年度以前の入学生で、これらの科目の単位を修得済みであっても、講義題目（講義内容）が異なる場合は履修が可能です。

●夜間主コース

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
人文科学特別講義	基礎科目	<u>【2】</u>	I・II	人文科学特別講義	基礎科目	<u>2</u>	I・II
社会科学特別講義	基礎科目	<u>【2】</u>	I・II	社会科学特別講義	基礎科目	<u>2</u>	I・II

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

学科科目

単位数・配当年次の変更

2019年度から学科科目の特別講義の取扱が変更になり、複数の講義題目により行われる場合は、それぞれ一つの授業科目として履修することができるようになりました。それに伴い、下記のとおり単位数、配当年次が変更になりましたので注意してください。

なお、平成30年度以前の入学生で、これらの科目の単位を修得済みであっても、講義題目（講義内容）が異なる場合は履修が可能です。

●昼間コース

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
経済学特別講義	経済学科発展科目	<u>【2】</u>	<u>II・III・IV</u>	経済学特別講義	経済学科発展科目	<u>4</u>	<u>III・IV</u>
商学特講	商学科発展科目	<u>【2】</u>	III・IV	商学特講	商学科発展科目	<u>4</u>	III・IV
経営学特講	商学科発展科目	<u>【2】</u>	III・IV	経営学特講	商学科発展科目	<u>2</u>	III・IV
会計学特講	商学科発展科目	<u>【2】</u>	III・IV	会計学特講	商学科発展科目	<u>2</u>	III・IV
基礎法特講	企業法学科発展科目	<u>【2】</u>	<u>II・III・IV</u>	基礎法特講Ⅰ 基礎法特講Ⅱ 基礎法特講Ⅲ	企業法学科発展科目	<u>2</u> <u>2</u> <u>2</u>	II・III・IV II・III・IV <u>III・IV</u>
企業法特講	企業法学科発展科目	<u>【2】</u>	<u>II・III・IV</u>	企業法特講Ⅰ 企業法特講Ⅱ 企業法特講Ⅲ	企業法学科発展科目	<u>2</u> <u>2</u> <u>2</u>	II・III・IV II・III・IV <u>III・IV</u>

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
社会情報特講Ⅰ	社会情報学科 発展科目	<u>[2]</u>	Ⅲ・Ⅳ	社会情報特講Ⅰ	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ
社会情報特講Ⅱ		<u>[2]</u>	Ⅲ・Ⅳ	社会情報特講Ⅱ		<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ
社会情報特講Ⅲ		<u>[2]</u>	Ⅲ・Ⅳ	社会情報特講Ⅲ		<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ
国際コミュニケーションⅠ	専門共通科目	<u>[2]</u>	Ⅱ	国際コミュニケーションⅠ	専門共通科目	<u>2</u>	Ⅱ
国際コミュニケーションⅡ		<u>[2]</u>	Ⅱ	国際コミュニケーションⅡ		<u>2</u>	Ⅱ
外国語上級Ⅰ		<u>[2]</u>	Ⅱ	外国語上級Ⅰ		<u>2</u>	Ⅱ
外国語上級Ⅱ		<u>[2]</u>	Ⅲ・Ⅳ	外国語上級Ⅱ		<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ
外国語上級Ⅲ		<u>[2]</u>	Ⅲ・Ⅳ	外国語上級Ⅲ		<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ
外国語上級Ⅳ		<u>[2]</u>	Ⅲ・Ⅳ	外国語上級Ⅳ		<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

●夜間主コース

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
基礎法特講	企業法学科 発展科目	<u>[2]</u>	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	基礎法特講	企業法学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
企業法特講	企業法学科 発展科目	<u>[2]</u>	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	企業法特講	企業法学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

※ 単位欄中の数値に【 】がついている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一つの授業科目として履修することができます。

科目の新設

以下の科目は、教員免許法改正に伴う本学教職課程の再課程認定により、2019年度から新設された科目です。これらの科目は、2019年度以降の入学生のみに履修可能です。

●昼間コース、夜間主コース共通

科目名	科目区分	単位数	配当年次
特別支援教育	教職共通科目	1	Ⅱ
英語科教育法Ⅳ	教職共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ
「総合的な学習の時間」指導法	教職共通科目	1	Ⅱ

●夜間主コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次	備考
社会情報論	社会情報学科 コース発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ	平成30年度以前の入学生も履修可能です。

科目の新設に伴う廃止

以下の科目は、「社会情報論」の新設に伴い平成30年度をもって廃止となりました。

●夜間主コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
プロジェクトマネジメント基礎	社会情報学科 コース発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ

科目区分・配当年次の変更

次ページの科目は、2019年度から商学科に英語専修が新設されたことに伴い、科目区分が変更されました。また、配当年次が変更になっている科目がありますので、注意してください。

●昼間コース

2019年度以降入学生				平成30年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
英語学概論Ⅰ	商学科 英語専修 基幹科目	2	I	英語学概論Ⅰ	教職共通科目 英語専修	2	I
英語学概論Ⅱ		2	I	英語学概論Ⅱ		2	I
英文学史Ⅰ		2	I	英文学史Ⅰ		2	I
英文学概論Ⅰ		2	I	英文学概論Ⅰ		2	I
英語コミュニケーションⅠ	商学科英語専修 基幹科目	2	I	英語コミュニケーションⅠ	商学科 自由科目	2	I
比較文化Ⅰ		2	I	比較文化Ⅰ		2	I
言語学概論	商学科 英語専修 発展科目	2	Ⅱ	言語学概論	教職共通科目 英語専修	2	Ⅱ
英語学概論Ⅲ		2	Ⅱ	英語学概論Ⅲ		2	Ⅱ
英語学Ⅰ		2	Ⅱ	英語学Ⅰ		2	Ⅱ
英語学Ⅱ		2	Ⅱ	英語学Ⅱ		2	Ⅱ
英文学史Ⅱ		2	Ⅱ	英文学史Ⅱ		2	Ⅱ
英文学概論Ⅱ		2	Ⅱ	英文学概論Ⅱ		2	Ⅱ
英文学Ⅰ		2	Ⅱ	英文学Ⅰ		2	Ⅱ
英文学Ⅱ		2	Ⅱ	英文学Ⅱ		2	Ⅱ
英作文Ⅰ		2	Ⅱ	英作文Ⅰ		2	Ⅱ
英作文Ⅱ		2	Ⅱ	英作文Ⅱ		2	Ⅱ
英語コミュニケーションⅡ	商学科 英語専修 発展科目	2	Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ	商学科 自由科目	2	Ⅱ
英語コミュニケーションⅢ		2	Ⅱ	英語コミュニケーションⅢ		2	Ⅱ
英語コミュニケーションⅣ		2	Ⅱ	英語コミュニケーションⅣ		2	Ⅱ
比較文化Ⅱ		2	Ⅱ	比較文化Ⅱ		2	Ⅱ
比較文化Ⅲ		2	Ⅱ	比較文化Ⅲ		2	Ⅱ
比較文化Ⅳ		2	Ⅱ	比較文化Ⅳ		2	Ⅱ
英語上級Ⅰ		商学科 自由科目 ※2	2	Ⅲ・Ⅳ		英語上級Ⅰ	専門共通科目
英語上級Ⅱ	2		Ⅲ・Ⅳ	英語上級Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	
英語上級Ⅲ	2		Ⅲ・Ⅳ	英語上級Ⅲ	2	Ⅲ・Ⅳ	
英語上級Ⅳ	2		Ⅲ・Ⅳ	英語上級Ⅳ	2	Ⅲ・Ⅳ	
ビジネス英語Ⅰ	2		Ⅲ・Ⅳ	ビジネス英語Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	
ビジネス英語Ⅱ	2		Ⅲ・Ⅳ	ビジネス英語Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	
英語学特講Ⅰ	2		Ⅱ	英語学特講Ⅰ	2	Ⅱ	
英語学特講Ⅱ	2		Ⅱ	英語学特講Ⅱ	2	Ⅱ	
英文学特講Ⅰ	2		Ⅱ	英文学特講Ⅰ	2	Ⅱ	
英文学特講Ⅱ	2		Ⅱ	英文学特講Ⅱ	2	Ⅱ	

※ 商学科英語専修所属学生以外が、商学科英語専修基幹科目、商学科英語専修発展科目を単位修得しても、自学科基幹科目、自学科発展科目の卒業所要単位には含まれませんので注意してください。

※ 2 平成 30 年度以前入学生については、従来どおり専門共通科目として履修することが可能です。

●夜間主コース

2019 年度以降入学生				平成 30 年度以前入学生					
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次		
英語学概論 I	商学科 英語専修 基幹科目	2	I	英語学概論 I	教職共通科目 英語専修	2	I		
英語学概論 II		2	I	英語学概論 II		2	I		
英文学史 I		2	I	英文学史 I		2	I		
英文学概論 I		2	I	英文学概論 I		2	I		
英語コミュニケーション I	商学科英語専修 基幹科目	2	I	英語コミュニケーション I	商学科 自由科目	2	I		
比較文化 I		2	I	比較文化 I		2	I		
言語学概論	商学科 英語専修 発展科目	2	II	言語学概論	教職共通科目 英語専修	2	II		
英語学概論 III		2	II	英語学概論 III		2	II		
英語学 I		2	II	英語学 I		2	II		
英語学 II		2	II	英語学 II		2	II		
英文学史 II		2	II	英文学史 II		2	II		
英文学概論 II		2	II	英文学概論 II		2	II		
英文学 I		2	II	英文学 I		2	II		
英文学 II		2	II	英文学 II		2	II		
英作文 I		商学科 英語専修 発展科目	2	II		英作文 I	商学科 自由科目	2	II
英作文 II			2	II		英作文 II		2	II
英語コミュニケーション II	2		II	英語コミュニケーション II	2	II			
英語コミュニケーション III	2		II	英語コミュニケーション III	2	II			
英語コミュニケーション IV	2		II	英語コミュニケーション IV	2	II			
比較文化 II	2		II	比較文化 II	2	II			
比較文化 III	2		II	比較文化 III	2	II			
比較文化 IV	2		II	比較文化 IV	2	II			

※ 商学科英語専修所属学生以外が、商学科英語専修基幹科目、商学科英語専修発展科目を単位修得しても、コース基幹科目、コース発展科目の卒業所要単位には含まれませんので注意してください。

平成 30 年度からの変更について

共通科目

科目の名称変更

「朝鮮語」は、以下のとおり名称変更が行われました。

●昼間コース

平成 30 年度以降入学生				平成 29 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
韓国語Ⅰ-1	外国語科目	2	I	朝鮮語Ⅰ-1	外国語科目	2	I
韓国語Ⅰ-1		2	I	朝鮮語Ⅰ-1		2	I
韓国語ⅡA-1		2	II	朝鮮語ⅡA-1		2	II
韓国語ⅡA-2		2	II	朝鮮語ⅡA-2		2	II
韓国語ⅡB-1		1	II	朝鮮語ⅡB-1		1	II
韓国語ⅡB-2		1	II	朝鮮語ⅡB-2		1	II

※ 平成 29 年度以前入学生で、「朝鮮語Ⅰ」「朝鮮語Ⅱ」を修得済みの学生は、「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」を履修できません。

学科科目

配当年次の変更

以下の科目は、平成 30 年度から配当年次が引き下げられました。

●昼間コース

平成 30 年度以降入学生				平成 29 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
統計学	経済学科 基幹科目	2	<u>I</u>	統計学	経済学科 基幹科目	2	<u>I・II</u>
基礎法特講Ⅰ	企業法学科 発展科目	2	<u>II・III・IV</u>	基礎法特講Ⅰ	企業法学科 発展科目	2	<u>III・IV</u>
基礎法特講Ⅱ	企業法学科 発展科目	2	<u>II・III・IV</u>	基礎法特講Ⅱ	企業法学科 発展科目	2	<u>III・IV</u>
企業法特講Ⅰ	企業法学科 発展科目	2	<u>II・III・IV</u>	企業法特講Ⅰ	企業法学科 発展科目	2	<u>III・IV</u>
企業法特講Ⅱ	企業法学科 発展科目	2	<u>II・III・IV</u>	企業法特講Ⅱ	企業法学科 発展科目	2	<u>III・IV</u>

※ 「基礎法特講Ⅰ」「基礎法特講Ⅱ」「企業法特講Ⅰ」「企業法特講Ⅱ」は、平成 30 年度から 2 年次以上の学生が履修可能です。

科目の名称変更

平成 30 年度から「環境経営論」「食糧生産と環境」「教育の歴史」は、それぞれ「企業と社会」「現代の生物学」「教育原理」に名称変更となりました。

●昼間コース

平成 30 年度以降入学生				平成 29 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
<u>企業と社会</u>	商学科 発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ	<u>環境経営論</u>	商学科 発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ
<u>現代の生物学</u>	専門共通科目	2	Ⅱ	<u>食糧生産と環境</u>	専門共通科目	2	Ⅱ
<u>教育原理</u>	教職共通科目	2	Ⅱ	<u>教育の歴史</u>	教職共通科目	2	Ⅱ

※ 平成 29 年度以前入学生で「環境経営論」「食糧生産と環境」「教育の歴史」の単位を修得済みの学生は、「企業と社会」「現代の生物学」「教育原理」を履修することはできません。

科目の分割

以下の科目は平成 30 年度から、科目の分割が行われました。

●昼間コース

平成 30 年度以降入学生				平成 29 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
<u>社会計画Ⅰ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	<u>Ⅱ</u>	<u>社会計画</u>	社会情報学科 発展科目	<u>4</u>	<u>Ⅲ・Ⅳ</u>
<u>社会計画Ⅱ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ				
<u>計画科学Ⅰ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ	<u>計画科学</u>	社会情報学科 発展科目	<u>4</u>	Ⅲ・Ⅳ
<u>計画科学Ⅱ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ				
<u>意思決定論Ⅰ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ	<u>意思決定論</u>	社会情報学科 発展科目	<u>4</u>	Ⅲ・Ⅳ
<u>意思決定論Ⅱ</u>	社会情報学科 発展科目	<u>2</u>	Ⅲ・Ⅳ				

※ 社会計画Ⅰについては、平成 29 年度入学生から履修可能です。

※ 「社会計画」「計画科学」「意思決定論」の単位を修得済みの学生は、分割後の科目を履修することはできません。

科目の廃止

以下の科目は、平成 29 年度をもって廃止となりました。数年間は、経過措置として開講される場合がありますので、計画的に履修してください。なお、平成 30 年度以降の入学生は、下記の科目を履修できませんので、注意してください。

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
民事手続法	企業法学科 発展科目	4	Ⅱ
倒産処理法	企業法学科 発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ
国際取引法	企業法学科 発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ
政治心理学	専門共通科目	2	Ⅱ
国際関係論	専門共通科目	2	Ⅱ
現代の数学Ⅲ	専門共通科目	2	Ⅱ
現代の数学Ⅳ	専門共通科目	2	Ⅱ

※ 1 平成 30 年度「倒産処理法」は「企業法特講Ⅲ」として開講。

※ 2 2019 年度、令和 2 年度の「民事手続法」は「企業法特講（民事手続法）」として開講。

●夜間主コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
民事手続法	企業法学科 コース発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ
国際取引法	企業法学科 コース発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ
国際関係論	専門共通科目	2	Ⅱ

※ 1 平成 30 年度「民事手続法」は「企業法特講」として開講。

科目区分の新設

以下の科目は、平成 30 年度から新設された科目です。

●昼間コース科目

科目名	科目区分	単位数	配当年次	備考
基礎法特講Ⅲ	企業法学科 発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ	平成 29 年度以前の入学生も履修可能です。
企業法特講Ⅲ	企業法学科 発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ	

●夜間主コース科目

科目名	科目区分	単位数	配当年次	備考
基礎法特講	企業法学科 コース発展科目	2	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	平成 29 年度以前の入学生も履修可能です。
企業法特講	企業法学科 コース発展科目	2	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	

平成 29 年度からの変更について

共通科目

科目の名称変更

●昼間コース、夜間主コース共通

平成 29 年度以降入学生				平成 28 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
ことばと文化	基礎科目 (人間と文化)	2	I	言語コミュニケーション論	基礎科目 (人間と文化)	2	I

※ 平成 28 年度以前入学生で、「言語コミュニケーション論」を修得済みの学生は、「ことばと文化」を履修できません。

学科科目

配当年次の変更

●昼間コース

平成 29 年度以降入学生				平成 28 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
統計学	経済学科 基幹科目	2	<u>I・II</u>	統計学	経済学科 基幹科目	2	<u>II</u>
現代経済理論 I	経済学科 発展科目	2	<u>III・IV</u>	現代経済理論 I	経済学科 発展科目	2	<u>II</u>
数理統計学	経済学科 発展科目	4	<u>III・IV</u>	数理統計学	経済学科 発展科目	4	<u>II</u>

単位数の変更

以下の科目については、平成 29 年度以降 2 単位で開講されます。

●昼間コース

科目名	科目区分	単位数	配当年次
国際貿易理論	経済学科発展科目	<u>2</u>	III・IV
租税法	企業法学科発展科目	<u>2</u>	III・IV
国際機構論	企業法学科発展科目	<u>2</u>	III・IV

科目区分の変更

「計量経済学」は、経済学科の「発展科目」から「基幹科目」へ区分が変更になりました。

●昼間コース

平成 29 年度以降入学生				平成 28 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
計量経済学	経済学科 基幹科目	4	II	計量経済学	経済学科 発展科目	4	II

※ 平成 28 年度以前の入学生が平成 29 年度以降に単位修得した場合、「経済学科発展科目」への算入となります。

科目の統合・名称変更

●昼間コース

平成 29 年度以降入学生				平成 28 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
現代の化学	専門共通科目	2	Ⅱ	環境の分析化学Ⅰ	専門共通科目	2	Ⅱ
				環境の分析化学Ⅱ	専門共通科目	2	Ⅱ
外国語上級Ⅰ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ	ドイツ語上級Ⅰ フランス語上級Ⅰ 中国語上級Ⅰ スペイン語上級Ⅰ ロシア語上級Ⅰ 朝鮮語上級Ⅰ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ
外国語上級Ⅱ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ	ドイツ語上級Ⅱ フランス語上級Ⅱ 中国語上級Ⅱ スペイン語上級Ⅱ ロシア語上級Ⅱ 朝鮮語上級Ⅱ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ
外国語上級Ⅲ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ	ドイツ語上級Ⅲ フランス語上級Ⅲ 中国語上級Ⅲ スペイン語上級Ⅲ ロシア語上級Ⅲ 朝鮮語上級Ⅲ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ
外国語上級Ⅳ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ	ドイツ語上級Ⅳ フランス語上級Ⅳ 中国語上級Ⅳ スペイン語上級Ⅳ ロシア語上級Ⅳ 朝鮮語上級Ⅳ	専門共通科目	2	Ⅲ・Ⅳ

※平成 28 年度以前入学生で右記科目のいずれかを修得済みの場合、平成 29 年度以降に開講の対応する科目の履修はできません。科目対応表（本学HPに掲載）も併せて確認すること。

科目の新設

●昼間コース科目

科目名	科目区分	単位数	配当年次	備考
経営戦略論	商学科発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ	平成 28 年度以前の入学生も履修可能です。

平成 28 年度からの変更について

共通科目

科目の統合・名称変更

平成 28 年度より「インターンシップ」と「地域連携キャリア開発」は、キャリア教育科目間の連携をはかり、効果的、効率的にキャリア教育を実施するための体制整備をするとともに、インターンシップの多様化への対応を図ることを目的に、科目分割および名称変更が行われました。入学年次により科目区分・単位数・配当年次が異なりますので、注意してください。なお、履修方法は、掲示及びオリエンテーションにより通知します。

●昼間コース、夜間主コース共通

平成 28 年度以降入学生				平成 27 年度入学生				平成 26 年度入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
社会連携実践Ⅰ	共通科目 (知(地)の基礎)	2	I	社会連携実践Ⅰ	各学科 発展科目	2	Ⅱ	地域連携 キャリア開発	各学科 発展科目	4	Ⅱ
社会連携実践Ⅱ	共通科目 (知(地)の基礎)	2	I・Ⅱ	社会連携実践Ⅱ	各学科 発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ	インターン シップ	各学科 発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ
社会連携実践Ⅲ	各学科 発展科目	2	Ⅱ	社会連携実践Ⅲ	各学科 発展科目	2	Ⅲ・Ⅳ				

学科学目

科目の名称変更

平成 28 年度から「組織行動論」は、「経営組織論」に名称変更となりました。

●昼間コース

平成 28 年度以降入学生				平成 27 年度以前入学生			
科目名	科目区分	単位数	配当年次	科目名	科目区分	単位数	配当年次
<u>経営組織論</u>	商学科 発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ	<u>組織行動論</u>	商学科 発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ

※ 平成 27 年度以前入学生で「組織行動論」の単位を修得済みの学生は、「経営組織論」を履修することはできません。

平成 27 年度からの変更について

共通科目

平成 27 年度より「総合科目 I」は、地域に関する科目の充実を図ることを目的に、以下のとおり科目分割及び名称変更が行われました。科目履修の際に以下の点に注意してください。

●昼間コース（平成 27 年度以降入学生）

科目名	単位数	配当年次
総合科目 I	2	I
地域活性化システム論	2	I
グローバリズムと地域経済	2	I

※履修上の注意

1. 平成 27 年度以降入学者について

「総合科目 I」、「地域活性化システム論」及び「グローバリズムと地域経済」のいずれの科目も履修できます。

Ⅲ. 外国語科目の 履修方法

1. 外国語科目の履修方法（全語共通）

（1）必修12単位の履修方法

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の4外国語が開設され、下表のとおり科目ごとに単位認定が行われます。

1) 外国語科目は次を必修とします。

- ・英語ⅠはA、B、C及びDを各1単位、計4単位を修得しなければなりません。
- ・英語ⅡはA1、A2、B1及びB2を各1単位、計4単位を修得しなければなりません。
- ・英語以外の外国語Ⅰは、ドイツ語、フランス語、中国語からひとつ選択し、半期2単位、計4単位を修得しなければなりません。

2) 英語は週1回、半期15週の授業に出席した上で、また、英語以外の外国語は週2回、半期15週の授業に出席した上で、定期試験等により成績評価がなされます。なお、「秀、優、良、可」の評価基準については、各教員のシラバスを参照してください。

3) 英語以外の外国語は、Ⅰ－1を単位修得済みでなければ、Ⅰ－2を履修することはできません。

夜間主コース

英語ⅠA	1単位
英語ⅠB	1単位
英語ⅠC	1単位
英語ⅠD	1単位
英語ⅡA1	1単位
英語ⅡA2	1単位
英語ⅡB1	1単位
英語ⅡB2	1単位
ドイツ語Ⅰ－1	2単位
ドイツ語Ⅰ－2	2単位
フランス語Ⅰ－1	2単位
フランス語Ⅰ－2	2単位
中国語Ⅰ－1	2単位
中国語Ⅰ－2	2単位

（2）外部試験による単位認定（大学以外の教育施設等における学修の単位認定）

外国語の外部試験（実用英語技能検定、TOEFL、TOEIC、ドイツ語技能検定試験等）で一定以上の成績を修めて申請すると、本学の外国語科目として単位が認定されます。申請にあたっては「**V.2.大学以外の教育施設等における学修の単位認定**」を参照してください。

2. 英語の履修方法

1) クラス名のうち、Eで始まる数字と記号は、英語のクラス別を表します。Eに続く1又は2は履修基準年次で、それぞれ1年次、2年次配当クラスであることを表します。残りの数字がクラスを表します。その後の記号と数字は科目を表します。



2) 令和6年度入学生の英語のクラスは学生の自由選択によって決定されます。manabaの学内掲示に従い、所定の期間中に、希望するクラスをmanabaより登録してください。2年生以上の英語については、学年度末(3月中旬頃)にmanaba上で履修希望登録を行いますので、掲示に従い、必ず所定の期間中に必要な手続きを行ってください。なお、定員を超えたクラスについては、抽選によって決定します。

令和6年度の英語クラスは次表のとおりです。

夜間主1年生

英語 I A (前期)	英語 I B (後期)	英語 I C (前期)	英語 I D (後期)
E11A Kemp【基礎】	E11B 朱【基礎】	E11C Caluianu【基礎】	E11D Caluianu【基礎】
E12A 羽村	E12B 羽村	E12C Reemst	E12D Reemst

夜間主2年生

英語 II A1 (前期)	英語 II A2 (後期)	英語 II B1 (前期)	英語 II B2 (後期)
E21A1 Reemst【基礎】	E23A2 Reemst【基礎】	E21B1 Kemp【基礎】	E23B2 朱【基礎】
E22A1 石川	E24A2 於保	E22B1 武部	E24B2 武部

3) 1年次配当の英語は、I A・I B・I C・I Dに分かれており、それぞれから1クラス1単位ずつ、合計4クラス4単位を、必ず修得しなければなりません(必修)。

4) 2年次配当の英語は、II A1・II A2・II B1・II B2に分かれており、それぞれから1クラス1単位ずつ、合計4クラス4単位を必ず修得しなければなりません(必修)。

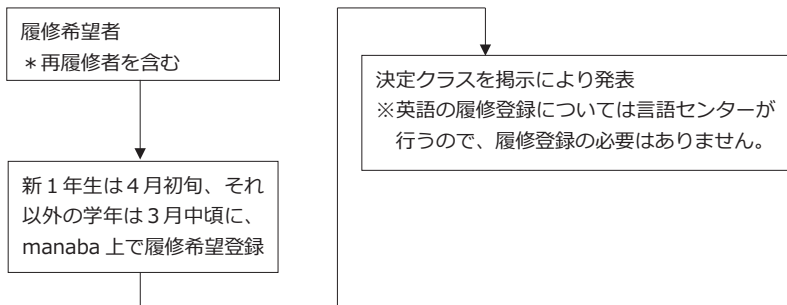
5) 「英語 I」「英語 II」の各科目には、標準的なクラスのほかに基礎クラスが設けられています。基礎クラスでは、高等学校までの英語教育で養成された基礎的な英語の力を補強し、さらに多様で高度な英語に対応できるよう、必要な語彙や構文の理解を深め、基礎的な会話能力の向上を目指します。なお、各クラスとも30名程度を上限とし、それ以上に履修希望者がいる場合は抽選となります。

6) 「英語 I」を未修得の学生は、「英語 I A」、「英語 I B」、「英語 I C」又は「英語 I D」(各1単位)の中から未修得の科目を履修し、必要な単位を修得してください。「英語 II」を未修得の学生は、「英語 II

A1」、「英語ⅡA2」、「英語ⅡB1」又は「英語ⅡB2」（各1単位）の中から未修得の科目を履修し、必要な単位を修得してください。

7) 新1年生の「英語Ⅰ」は4月初旬に、新2年生の「英語Ⅱ」と全ての科目の再履修については学年度末（3月中旬頃）に、それぞれmanaba上で履修希望登録します。掲示に従って必要な手続きを行ってください。

英語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD、英語ⅡA1・ⅡA2・ⅡB1・ⅡB2



3. 英語以外の外国語科目の履修方法

令和6年度のドイツ語・フランス語・中国語の開講科目は、次表のとおりです。

前期

	ドイツ語 I - 1	フランス語 I - 1	中国語 I - 1
火	林	尾形	路
木	杉浦	尾形	森若

後期

	ドイツ語 I - 2	フランス語 I - 2	中国語 I - 2
火	林	尾形	章
木	杉浦	尾形	森若

1) 履修言語の決定

英語以外の外国語は、アンケート（令和6年度の新入生の場合、入学手続き類に同封する注意喚起文書『外国語の履修について』）に従って、言語センターホームページ「外国語への招待」にて）で志望順位登録を行います。これを基に抽選にて履修言語を決定し、初回授業の前に発表（令和6年度は言語センターホームページ「外国語への招待」にて）します。

※言語センターホームページ「外国語への招待」URL:<https://lang.otaru-uc.ac.jp/invitation>

2) 履修上の注意

- 後期の I - 2 を履修するためには、前期の I - 1 の 2 単位を修得しておかなければなりません。
- 前期の外国語 I - 1 が不合格の場合、翌年度以降の前期に再履修することになります。
- 後期の外国語 I - 2 が不合格の場合、翌年度以降の後期に再履修することになります。

3) 単位認定

単位認定に関わる定期試験を受験するためには、原則として、授業回数の少なくとも 2 / 3 以上の出席が必要です。これを満たした上で、定期試験等により成績評価が行われ、合格または不合格の単位認定が行われます。なお、「秀、優、良、可」の評価基準については、各教員のシラバスを参照してください。

4) 選択言語の変更

前年度（あるいはそれ以前）に選択していた外国語を他の言語に変更する場合、次の扱いとなります。

- ① 英語 I および外国語 I の 2 言語 8 単位に不足がある場合、新入生と同じく抽選の対象となります。具体的な手続きは、下記の 7) に準じます。
- ② 英語 I および外国語 I の 2 言語 8 単位を修得済みの場合については、下記の 5) の扱いとなります。

5) 第三外国語

英語 I 及び外国語 I の 2 言語 8 単位を修得済みの場合、新たにもうひとつの外国語の履修が可能になります。その場合、前年度末（3 月頃）に行われるアンケート（令和 6 年度の授業に対しては manaba アンケート、令和 7 年度の授業に対しても manaba を使う予定）に必ず回答する必要があります。

- ① 当該言語を第三外国語とする場合、その単位は共通科目の自由選択区分に算入されます。
- ② 既習の外国語 I に代えて当該言語を必修単位に含める場合、変更前の外国語 I の単位は、共通科目の自由選択区分に算入されます。

6) 外部試験による単位認定に関する注意

外国語 I として履修登録した言語とは別の言語について「1.（2）外部試験による単位認定」が認められた場合、単位の扱いは以下のとおりです。

- ① 英語 I 及び外国語 I の 2 言語 8 単位に不足のある場合、共通科目の自由選択区分に算入されます。
- ② 英語 I 及び外国語 I の 2 言語 8 単位を修得済みの場合、上記 5) に準じます。

7) 再履修の手続き

外国語 I の再履修については、次のようになります。

- ① 選択する言語を変更しようとする場合、新入生と同じ抽選の対象となります。
- ② 選択する言語を変更しない場合は、前年度と同じ言語の履修が認められます。
 - ①、②の両方で、前年度末（3月頃）に行われるアンケート（令和6年度の授業に対しては manaba アンケート、令和7年度の授業に対しても manaba を使う予定）に必ず回答する必要があります。

8) 昼間コースの外国語科目の履修

- ① 夜間主コースのドイツ語 I、フランス語 I、中国語 I の4単位を履修した場合、昼間コースのドイツ語 II、フランス語 II、中国語 II の履修が可能となります（単位は共通科目の自由選択区分に算入されます）。ただしその場合は、前年度末（3月頃）に行われるアンケート（令和6年度の授業に対しては manaba アンケート、令和7年度の授業に対しても manaba を使う予定）に必ず回答する必要があります。
- ② 上記の①のように外国語 I の4単位を修得した場合、夜間主では開設されていないスペイン語 I、ロシア語 I、韓国語 I も、昼間コースで履修が可能です（単位は共通科目の自由選択区分に算入されます）。その場合は、前年度末（3月頃）に行われるアンケート（令和6年度の授業に対しては manaba アンケート、令和7年度の授業に対しても manaba を使う予定）に必ず回答する必要があります。ただし、クラス定員の管理のため履修制限を加える場合があります。
- ③ 同じく、スペイン語 II、ロシア語 II、韓国語 II も、昼間コースで履修が可能です（単位は共通科目の自由選択区分に算入されます）。ただし、原則として、それぞれの外国語 I の4単位を修得しておかなければなりません。この場合も、前年度末（3月頃）に行われるアンケート（令和6年度の授業に対しては manaba アンケート、令和7年度の授業に対しても manaba を使う予定）に必ず回答する必要があります。
- ④ 夜間主コースでは開設していないスペイン語、ロシア語、韓国語について「1.（2）外部試験による単位認定」が認められた場合、昼間コース授業科目として共通科目の自由選択区分に算入されます。

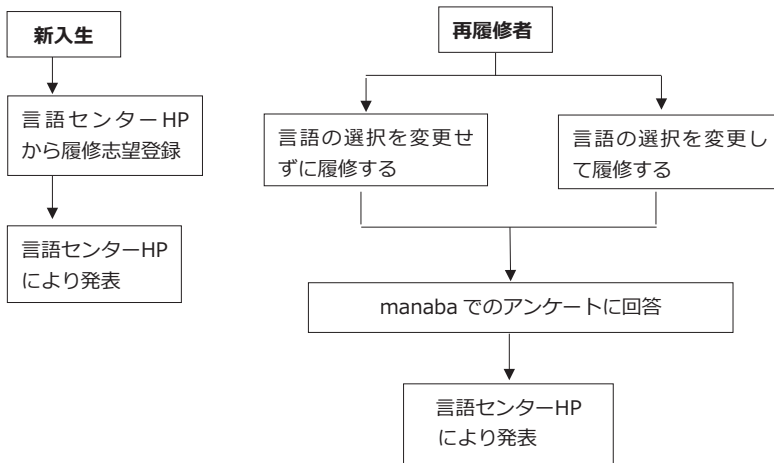
※言語センター事務室連絡先

お問い合わせフォーム

<https://www.otaru-uc.ac.jp/inquiry/form/>

※「外国語科目の履修・クラス分け」を選択してください。

ドイツ語 I ・ フランス語 I ・ 中国語 I （令和6年度の授業）



※言語センターHP「外国語への招待」URL:<https://lang.otaru-uc.ac.jp/invitation>

IV. 履修要領等

1. 授業について

(1) 授業と時間割について

「I-3 小樽商科大学教育課程(カリキュラム)」に基づき、毎年開講する授業科目が決定されています。授業の期間は年間 30 週を目標としているので、休講(担当教員の公務又は学会のための出張若しくは大学の行事等によるもの)に対する補講、定期試験等の時間を考慮して、年間 35 週程度置かれています。

時間割は、毎年授業開始前に発表しており、前期又は後期の半年間で開講する科目(半期制科目)と 1 年間開講する科目(通年科目)があり、また、夏季又は冬季休業中に集中講義があります。

科目ごとの授業内容や成績評価の方法等については学務情報システム(Campus Square)内のシラバスで確認することができます。シラバスは、学生の履修科目選択・履修計画・科目履修にあたっての事前準備等に役立てるために作成されており、今年度開講する全ての科目を掲載しています。なお、授業の実施にあたっては一部内容を変更して実施することがあります。その場合、manaba により通知しますので注意してください。

(2) 単位制について

大学での授業は単位制度により実施されており、授業科目を履修し、試験を受け、合格することにより単位が与えられます。

○ 単位の計算方法について

大学の単位制度は、「①教員が教室等で授業を行う時間」及び「②学生が事前・事後に教室外で準備学習・復習を行う時間」を合わせて 45 時間の学修を 1 単位として構成されています。

各授業科目の単位は、この 1 単位 45 時間の学修を標準として、授業時間数を、15 時間から 45 時間の範囲で大学が定めることとしています(大学設置基準第 21 条)。

これに基づいて、本学では、1 単位あたり、講義及び研究指導は 15 時間、語学及び実技等は 30 時間の授業を行い、45 時間に満たない時間は学生が自主的に学修(予習、復習、調査、研究)する時間となります。

授業科目の区分	単位数	授業時間数	学生が自主的に学修する時間数の基準	合計
講義 研究指導	1 単位	15 時間	30 時間	45 時間
	2 単位	30 時間	60 時間	90 時間
語学	1 単位	30 時間	15 時間	45 時間
	2 単位	60 時間	30 時間	90 時間
実技 実習	1 単位	30 時間	15 時間	45 時間
	2 単位	60 時間	30 時間	90 時間

本学では 1 つの授業時間を 90 分とし、前期、後期とも各 15 週実施しています(単位の計算上は、1 つの授業時間を 2 時間に換算します)。例えば前期に 2 単位の講義の単位を修得しようという場合、1 時限 2 時間の授業を 15 週受け(30 時間)、60 時間の自主的な学修が必要になります。

本学は、学生が単位制度の趣旨に則って学修し、授業内容の理解にとどまらず、自ら主体的に課題を探索し、解決するための能力を育成するために、1 週間の学修時間を、授業 20 時間、授業以外の自主的な学修を 40 時間に設定しました。これが、後に記載する履修登録上限制(キャップ制)の趣旨です。

2. 履修科目選択について

(1) 履修科目選択期間とは

授業開始日から履修登録期間前日までを「履修科目選択期間」とします。

履修科目選択期間(初回授業)は、学生が履修登録する科目を決定するための期間であり、第1回目の授業では、授業の進行方法や履修制限について説明される場合がありますので、履修する(検討している)科目のシラバスを熟読し、授業に出席してください。

当該期間には、イントロダクション(導入授業)を行う科目と第1回目の講義を開始する科目が混在することになりますが、2回目以降は現行どおり通常授業を実施します。

【履修科目選択期間】

- ◎前期・通年開講科目 4月8日(月)～4月12日(金)
- ◎後期開講科目 9月25日(水)～10月1日(火)

【注意事項】

- ・2回目以降は通常授業となるため、週2回授業を行う4単位科目及びクォーター科目に注意してください。
- ・初回授業において履修制限を行う科目もあるため、シラバス及びmanabaを必ず確認してください。

(2) 基礎ゼミナールの履修方法

基礎ゼミナール(基礎ゼミ)の履修者は、以下スケジュールのとおり、選考により決定しますので、事前に各基礎ゼミのシラバス及びmanabaコースを確認してください。各基礎ゼミのmanabaコースを閲覧するためには、自己登録が必要となります。また、この科目は他の一般的な科目と異なり、少人数教育(1クラス18名程度)を行うため、希望者が多い場合は、履修を希望しても認められないことがあります。

<基礎ゼミナール履修までのスケジュール>

時期	実施内容
4月4日(木) ～ 4月5日(金)	① 各基礎ゼミナールのシラバス確認期間 ② 第1志望申込期間 manabaコース「2024年度基礎ゼミナール選考」内のアンケート「第1志望基礎ゼミ応募フォーム」から、第1志望の基礎ゼミ名及び志望理由を登録してください。また、第1志望として登録した基礎ゼミについては、必ずmanabaコースの自己登録を行い、自己登録したコースのアンケートから志望理由を登録してください。
4月8日(月) ～ 4月12日(金)	③ 第1志望選考期間 教員より選考方法が異なります。自己登録した第1志望の基礎ゼミのmanabaコースから、選考の方法を確認してください。 (選考方法の例) ・志望理由から内定者を決定 ・志望者の中から抽選で内定者を決定 ・別課題を設けて内定者を決定 ・面接を実施し内定者を決定 ※1回目から授業が行われる場合もあるので、必ずmanabaコースを確認してください。
4月15日(月) ～ 4月17日(水)	④ 第1志望選考結果発表及び追加募集告知期間 各基礎ゼミのmanabaコースで、担当教員から内定者の発表・追加募集の有無及び選考方法が発表されます。 ⑤ 追加募集選考期間及び結果発表 追加募集の選考からは複数の基礎ゼミに申し込むことができます。第1志望の選考で所属が決まらなかった学生は、各基礎ゼミのmanabaコースで発表される追加募集の選考方法を確認し応募してください。内定者は各基礎ゼミナールのmanabaコースで発表されます。 ※複数の内定を受けた場合、内定を辞退する教員へ速やかに内定辞退を申し出てください。
4月15日(月) ～ 4月19日(金)	⑥ 履修登録期間 基礎ゼミの所属が決定した学生は、必ず履修登録期間に、学務情報システム(Campus Square)から決定した基礎ゼミの履修登録を行ってください。 内定を得ていない基礎ゼミを履修登録した場合は、その科目の成績は「0点」となりますので、必ず間違いが無いよう確認してから履修登録をしてください。

3. 履修登録について

(1) 履修登録について

学務情報システム（Campus Square）より履修を希望する科目の登録を行います。「Ⅶ. 教務システム利用の手引き」に操作方法を掲載していますので確認してください。

期間	登録可能科目
履修登録期間 4月15日（月）～19日（金）	前期・通年科目 夏季集中講義※ 後期科目 冬季集中講義
履修登録変更期間 10月2日（水）～8日（火）	後期科目 冬季集中講義

※ 夏季集中講義は、**前期に履修登録する必要があり、成績は後期に通知されます。**なお、**夏季集中講義（8月・9月）の科目は、9月卒業の対象科目とはなりませんので、注意してください。**

【注意事項】

- 科目の履修は、各人の属する年次に配当された科目とし、高年次配当の科目の履修（上位履修）は認められません。本学の授業は、学年の年次を基準として計画し編成されているため、低年次の科目を後で履修しなければならないような事態が生じると、その後の履修計画に支障を来すこととなります。学年ごとの配当科目をできる限り履修し、単位を修得するよう注意してください。科目は、それぞれ配当年次が決められていますが、種々の事情によっては、年度により配当年次が変更になることがありますので、十分に留意してください。
- 履修登録をしなかった科目は、たとえ出席していたとしても、単位を修得できません。
- いったん履修登録を行い、承認を受けた科目は、その変更を認めません。また一度単位を修得した科目は、再度履修することができません。
- 教室等の収容人数を超える履修者がいる場合には、授業担当教員が当該授業科目の履修者数について制限することがあります。
- 研究指導は、昼間コース及び夜間主コースともに原則として必修科目となります。研究指導を履修しようとする学生は、担当教員の承認を得るとともに3年次から4年次にわたり4学期まで履修しなければなりません。また、研究指導を履修しないことを認められる学生（ノンゼミ）は、夜間主コースの場合、学科科目のうちから8単位を別に履修しなければなりません。
- 下記の科目の履修登録にあたっては、事前に manaba を確認してください。

- ・ 英語
- ・ 研究指導
- ・ 履修制限を行っている科目で教務課が取りまとめているもの。
- ・ 社会連携実践
- ・ 事情科目
- ・ グローカルフィールドワーク
- ・ グローカルインターンシップ など

※ 期間内に履修登録を行っていない科目は、授業を受けていても単位を修得することができません。履修登録が完了したら、履修登録がきちんと行われているか、必ず確認してください。

(2) 履修登録上限制（キャップ制）について

本学では、1年間に履修登録できる単位数に上限を設けています。

よって、履修登録にあたっては科目履修の要領を遵守し、授業科目の配当年次に従って履修計画を立てる必要があります。キャップ制の取り扱いは次のとおりですので、留意してください。

- ① 1年間に履修できる単位数の上限は40単位までです。
- ② 当該年度に「不可」になった授業科目（成績が0点となった授業科目を除く。）がある場合、**翌年度に限り**、40単位を超えて履修することができます。
- ③ 40単位を超えて履修することができる単位数は、「不可」となった授業科目に相当する単位数とし、8単位を限度として履修できます。
- ④ 研究指導の履修登録については、4年次において夜間主コースの学生は8単位を、上限の40単位に含めて行います。

【履修登録の上限（40単位）に含まれない科目について】

以下の科目は、履修登録上限（40単位）に含めません。

2019年度以降入学生	2015年度～2018年度入学生
①教職共通科目 ②商学科英語専修科目及び自由科目のうち、卒業所要単位数に算入されない科目 ③学則に基づいて留学し、留学先大学等で修得した単位数で本学の単位として認定されたもの。 ④大学以外の教育施設等における学修で本学の単位として認定されたもの。（履修中の科目を除く） ⑤「社会連携実践Ⅰ」、「社会連携実践Ⅱ」、「社会連携実践Ⅲ」 ⑥国際交流科目 ⑦「アジア・オセアニア事情」、「ヨーロッパ事情」、「アメリカ事情」	①教職共通科目 ②自由科目のうち、卒業所要単位数に算入されない科目 ③学則に基づいて留学し、留学先大学等で修得した単位数で本学の単位として認定されたもの。 ④大学以外の教育施設等における学修で本学の単位として認定されたもの。（履修中の科目を除く） ⑤「社会連携実践Ⅰ」、「社会連携実践Ⅱ」、「社会連携実践Ⅲ」 ⑥国際交流科目 ⑦「アジア・オセアニア事情」、「ヨーロッパ事情」、「アメリカ事情」

4. 定期試験について

(1) 受験資格

定期試験は、各授業科目の講義、実験、実習及び実技のそれぞれの時間数の 3 分の 2 以上出席しなければ受験することができません。ただし、授業担当教員が教育上有益と判断した場合には受験することができます。各授業科目のシラバスを確認してください。

(2) 定期試験の種類

期末試験を 2 回と半期 4 単位制科目を対象とした中間試験を 2 回実施します。この他、定期試験期間外に試験を行う場合があります。原則、中間試験及び期末試験の時間割は、授業時間割に基づいて作成し、試験期間の 2 週間前頃に manaba にて通知します。

(3) 試験の方法

担当教員の方針によることになっており、筆記試験もしくはレポート等によるのが通例です。

(4) 試験の受験にかかる注意事項

以下の注意事項を厳守し、自己の不利益とならないようにしてください。また、試験の通知の際にも注意事項をお知らせしますので、manaba を確認してください。

1. 指定された座席に着席すること（試験開始 5 分前には着席していること）。
随時行う試験では、座席を指定しないことがある。
2. 学生証（仮学生証）を携帯すること（座席の受験番号横に置くこと）。
3. 試験開始時刻に遅れた場合、原則として、受験できない。ただし、やむを得ない事情により遅れてきた者で試験開始 2 0 分以内の場合は、監督者の判断で受験の可否を決める。
4. 試験開始 2 0 分以内は、退室できない。
5. 試験終了 1 0 分前以降は、退室できない。
6. 持込みを禁止された試験において、「筆記用具、学生証、時計」以外のものはすべて鞆の中に入れておくこと。それらを机の中や上着等のポケットの中に入れることを禁止する。
7. 持込みを許可された試験において、それらの貸借を禁止する。
8. 携帯電話、スマートフォン・タブレット端末等、全ての電子機器の電源を切って鞆の中に入れておくこと。これらを時計として利用することはできない。また、時計は時計機能だけのものしか使用できない。
9. 試験室において、私語その他いやしくも不正行為の疑惑を招くような行為を禁止する。
10. 上記 6 から 9 の禁止事項を行った場合は不正行為とみなす。
11. 試験中の不正行為については、学則に照らし厳重に処分されるので厳正な態度で受験すること。さらに、不正行為を行った者に対しては、**その学期に履修した科目の全ての単位が認定されない**。したがって、在学期間が 1 年以上延長することもある。
12. 答案は、必ず提出し、これを持ち帰ってはならない。
13. その他試験場内において、監督者の指示に従わない場合は退場させる。
14. 履修登録していない科目についての受験は認められない。
15. **追試験（科目試験に欠席したものに対して、改めて行う試験）は原則として行わない。**ただし、病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験することができなかった場合は、欠席事由を証明する書類を添付し「欠席届」を提出することができる。その場合、授業担当教員が必要と認めた時に限り代替措置が講じられることがある。
16. 不合格となった科目の再試験は一切行わない。

(5) 試験教室・座席指定について

試験教室及び座席番号は、試験当日の朝までに manaba にてお知らせします。

(6) 定期試験を欠席する場合の欠席届について

※ 関係諸規程をホームページで公開しています。「Ⅷ. 1. 学則及び関係諸規程」を確認してください。

定期試験を欠席する場合の欠席届については、原則として定期試験開始までに授業担当教員に連絡し、かつ試験実施日を含め3日以内（申請期限日が休業日の場合は、その翌日まで）に授業担当教員に提出しなければなりません。「欠席届」の取扱いは、授業担当教員に一任されています。授業担当教員は、学生の事情を勘案しつつ、代替措置の実施について検討し、代替措置の有無等について学生に回答します。

欠席届の様式は、本学ホームページ「在学生」→「学生手続き一覧」→「やむを得ない事情で授業又は定期試験を欠席するとき」からダウンロードしてください。

5. 成績評価について

(1) 成績評価・GPA 制度について

成績評価は、秀、優、良、可、不可の5段階により評価します。GPA 制度は、5 段階の成績評価をもとに、受講した全科目の習熟度（GPA：Grade Point Average）の平均を算出するものです。この制度は、学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。また、5 段階評価や GPA 制度は、外国の多くの大学が採用しており、国際化に対応した成績評価方法です。これから、留学や大学院進学等を希望する場合には、必要な制度と考えられます。

詳細は、以下の表を参考にしてください。

可否区分	評価	評点	グレードポイント
合格	秀 (A)	100 点～90 点	4.0
	優 (B)	89 点～80 点	3.0
	良 (C)	79 点～70 点	2.0
	可 (D)	69 点～60 点	1.0
不合格	不可 (F)	59 点以下	0.0
履修取消	W (Withdrawal)	GPA 計算対象外	

[GPA の算出方法]

GPA とは、1 単位あたりの成績の平均値を示すものです。GPA を以下のとおりに計算し、Web 上で各人に通知します。ただし、平成 27 年度以前入学者の GPA の算出に対象となる科目は、インターンシップを除く、すべての科目です。

算出式：

$$\frac{4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不可」の単位数を含む）}}$$

- ※ GPA の計算は、小数第 2 位以下を四捨五入します。
- ※ 「履修取消 (W)」は、計算式に含みません。
- ※ 「総履修登録単位数」には、不合格科目を再履修し合格の評価を得た場合及び再履修の結果再び不合格の評価であった場合、それぞれ再履修前の不合格評価については、通算の GPA には算入しません。ただし、年度ごとに算出する GPA にはそれぞれ算入します。

(2) 履修取消制度について

授業を受けてみたものの単位を修得することが難しい場合、その科目の成績を GPA 計算対象外にすることで、GPA が下がることを回避するための特別な制度です。「履修取消」を行った科目の成績は、“W (Withdrawal)”となり、GPA の算出対象外となります。

- ※ 「履修取消」は履修登録自体を無効にするものではありませんので、前期に「履修取消」をした科目分の単位数を後期に追加することはできません。また、「不可 (0 点を除く)」とは異なり、翌年度の履修登録上限 (キャップ) も増えません。
- ※ 「履修取消」を行った授業科目については、卒業や進級、就職などいかなる理由があっても、「履修取消」の申請を取り下げ、履修を復活させることはできません。

○ 申請方法

前期：6月10日（月）～14日（金）、後期：11月20日（水）～26日（火）に履修取消期間を設けています。期間中に、学務情報システム（Campus Square）の履修取消画面から取消申請を行ってください。

※クォーター科目の履修取消期間は、行事予定表に記載しているとおりです。

※集中講義及び一部科目は、上記期間外に履修取消期間を定めますので、必ず manaba を確認してください。

（3）学科科目の成績評価基準について

本学には、商学部としての成績評価基準に加え、経済学科と社会情報学科には、学科として成績評価基準が定められています。科目ごとの成績評価の方法の詳細については、シラバスを参照してください。

【商学部 成績評価基準】

評価（評点）	評価基準
秀（100～90）	当該科目の達成目標を十分に満たし、特に優秀である
優（89～80）	当該科目の達成目標を十分に満たしている。
良（79～70）	当該科目の達成目標を満たしている。
可（69～60）	当該科目の達成目標を最低限満たしている。
不可（59～0）	当該科目の達成目標を満たしていない。

【経済学科 成績評価の統一基準】

秀（100～90）	講義内容について秀でた理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について秀でた分析をすることができる。
優（89～80）	講義内容について優れた理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について優れた分析をすることができる。
良（79～70）	講義内容について良い理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について良い分析をすることができる。
可（69～60）	講義内容について理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済分析について分析をすることができる。
不可（59～0）	講義内容について十分な理解力を持たず、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について分析をすることができない。

【社会情報学科 標準成績評価基準】

秀（100～90）	当該科目について秀でた理解力、及び応用力を有している。
優（89～80）	当該科目について優れた理解力、及び応用力を有している。
良（79～70）	当該科目について良い理解力、及び応用力を有している。
可（69～60）	当該科目について理解力、及び応用力を有している。
不可（59～0）	当該科目について十分な理解力、又は応用力を有していない。

(4) 成績評価の内容確認、不服がある場合について

成績評価の内容を確認したい場合、または疑問がある場合は、授業担当教員に直接問い合わせください。

成績評価に対して不服がある場合、成績公開後7日以内（卒業判定等に関係する場合は3日以内）であれば不服申し立てをすることができます。不服申し立てを行う場合は、お問い合わせフォームから問い合わせてください。不服申立があった場合は、授業担当教員に事情を確認し、書面により回答します。

【お問い合わせ】 <https://www.otaru-uc.ac.jp/inquiry/form/>

※お問い合わせフォームから【教務関連】 - 【授業・履修登録・試験・成績（学部）】を選択してください。

なお、成績評価に対する確認は、成績への疑問に明確な根拠がある場合に限り、単に再評価を願い出るのみで疑問の内容を具体的に示していないものや、いわゆる救済目的、懇願的な内容のものは受け付けません。

具体的な事例は次のとおりです。

1. 受付できる事例

- 1) 成績の誤記入等、明らかに授業担当教員の誤りと思われるもの。
- 2) シラバスに記載されている成績評価の基準及び方法に照らして、明らかな誤りがあると思われるもの。
※明らかな誤りの場合は、直接授業担当教員に問い合わせることで、早期に解決することもあります。

2. 受付できない事例

- 1) 担当教員に情状の考慮を求めるもの。（卒業に関わる（この単位があれば卒業できる）、等）
 - 2) 他の学生との対比上の不満を訴えるもの。（友人は優だが、なぜ自分は良なのか、等）
 - 3) 具体的な根拠がなく、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。（がんばったと思うのだが、どうして可なのか、等）
- ※ 2）、3）の場合であっても、明確な根拠の提示がある場合は受け付けます。

6. 学科所属について

2年次から、経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科のいずれかの学科に所属します。そのための手続き（申込等）は、1年次の12月～1月に行われ、教授会において決定の上、次年度（2年次）に学務情報システム（Campus Square）上の「学籍情報参照画面」と「履修成績参照画面」に所属学科名を記載し、各人に通知します。

各学科にはそれぞれ定員を定めており、下記の方法にしたがって所属学科が決定しますので、必ずしも第1希望とする学科に所属できるとは限りません。第1希望の学科に所属するためには、対象科目について、極力、「秀」の評価を得ることが望まれます。できるだけ高い成績を得られるよう、1年次から意欲的に学修に取り組むようにしてください。

（1）学科所属の決定方法について

〔学科所属決定方法〕

- ①希望順位にしたがって、成績基準の素点合計の高い者から順に学科所属を決定していきます。
- ②所属希望者が各学科定員を超えた場合は、教務委員会において振り分けを決定します。

〔成績基準〕

次の科目区分に該当する科目の素点合計

基礎科目（成績得点の高い順に）	6科目以上 12単位
外国語科目（成績の高い順に、英語及び日本語2科目＋英語以外の外国語1科目）	3科目

- ※ 健康スポーツ等の1単位科目は得点を1/2とします。健康スポーツ等の1単位科目を1科目（1単位）しか修得していない場合は他の2単位科目の得点を1/2にして健康スポーツ等と合計し、2単位分を算出します。
- ※ 不可科目は、計算対象外になります。
- ※ 「V. 1. 他大学等での単位認定制度について」、「V. 2. 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について」により認定された1年次配当科目は計算に含まれます。また、「V. 3. 留学による単位認定について」により、学則上の科目に読み替えて認定された1年次配当科目も同様です。
- ※ 2～4年次配当科目は、対象となりません。

（2）学科所属オリエンテーションについて

1年次生を対象に、オンデマンドにて学科オリエンテーションを開催します。このオリエンテーションでは、各学科の教員から学科に関する詳細な説明があります。所属を希望する学科の順位を決める参考になりますので、必ず聴講してください。

詳細はmanabaにて通知します。

（3）学科所属の申請期間について

所属学科の決定にあたり、各学生の所属希望調査を行います。申請方法及び申請期間は、12月開催のオリエンテーションで説明します。

7. 進級要件について

本学では、2年次から3年次に進級するための要件を以下の通り定めています。

【各学科共通】

	単位数	備考
昼間コース	46 単位 (2年次終了までに)	卒業所要単位数に算入される単位数に限りです。
夜間主コース		

上記要件に掲げる単位を修得できない場合は、この単位を修得するまでは2年次から3年次に進級することができません。したがって、卒業が1年以上延期されます。

3年次に進級できない場合は、研究指導に所属することはもちろん、ノンゼミ承認申請を行うこともできません。また、進級要件を満たしてから少なくとも2年間以上在学しなければ、卒業できません。

8. 研究指導（及び卒業論文執筆要領）について

（1）研究指導の履修方法

研究指導（ゼミナール）は、原則として必修とし、8単位を修得しなければなりません。研究指導は、毎週2時間、3年次から2年間の継続授業で8単位です。

- ※ ノンゼミ、研究指導の所属の変更を検討している場合は、お問い合わせフォームからお問い合わせください。
- ※ 4年次になって研究指導の所属を取りやめる場合には、4月の履修登録期限までにノンゼミ移行申請書を学科長宛に提出し、許可を得る必要があります。詳細は、お問い合わせフォームからお問い合わせください。

【お問い合わせ】 <https://www.otaru-uc.ac.jp/inquiry/form/>

※お問い合わせフォームから【教務関連】 - 【授業・履修登録・試験・成績（学部）】を選択してください。

1）留年による研究指導の単位の取り扱い

- (1) 研究指導は、2年間の学習を総合して成績評価を受け、単位認定が行われます。本学では、研究指導は、半期（前期または後期）ごとの4つのユニットによって構成されるものとみなして取り扱っています。研究指導の単位認定を受けるためには、この4つのユニットを満たしていることが条件です。

（一般的な例）

学年	前期	後期
3年次	第1ユニット	第2ユニット
4年次	第3ユニット	第4ユニット

- (2) 研究指導の単位を残したまま留年した場合は、第4ユニットが欠けていることになるので、再度第4ユニット分（半期）を履修する必要があります。従って、翌年度の前期の段階で研究指導の単位が認められた場合、9月卒業をすることができます。また、1年間留年する場合は、後期から履修することが可能です。その場合は、研究指導教員と学部教務係に必ず申し出てください。

2）卒業論文の取り扱い

- (1) 卒業論文の単位を修得するためには、2つの学期を履修することになります。
- (2) 卒業論文の単位を修得できない場合は、再度2つ目の学期の履修が必要です。

3）留学による研究指導の単位の取り扱い

本学規程の派遣留学（協定大学への交換留学）に参加する学生は、留学先の大学で、本学の指導教員が指定している科目を履修し、単位を修得した場合は、留学期間中も研究指導が継続されているとみなします。必要手続きを怠らないようにしてください。

【研究指導を履修中の場合（3年次もしくは4年次に留学する場合）】

【留学前】

- ① 指導教員が指定する科目を、科目履修届に記載する。
 - ② 指導教員の承認を受けた上で、「留学に伴う研究指導の継続承認書」を学部教務係に提出する。
- ※ 「留学に伴う研究指導の継続承認書」は、本学ホームページ「在学生」→「学生手続き一覧」→「研究指導（ゼミナール）に関する手続きを行うとき」からダウンロードしてください。

[留学後]

- ① 学部教務係から「留学に伴う研究指導の継続承認書」を受け取り、指導教員の承認を受け、再び学部教務係に提出する。

※ 第4ユニットにおいて留学する場合

第4ユニットは、必ず本学に在籍し、履修する必要があります（留学中の場合は、単位認定を受けられません）。ただし、第4ユニット途中（3月卒業においては12月まで、9月卒業においては6月まで）に帰国した場合は、この限りではありません。

【研究指導を履修前（2年次後期）に留学する場合】

- ① 留学前に研究指導の所属を希望する教員に相談し、留学のため選考期間不在となること及び帰国時期を伝え、内諾を得ておくこと。
- ② 2年次の後期開始頃、manabaにて研究指導募集手続きについて通知するので、当該通知を確認の上、手続きを行うこと。
※事前に教員から内諾を得ていた場合も、この手続きは必須となるので注意すること。

(2) 卒業論文執筆要領

夜間主コースの学生については、卒業論文の提出は必須ではありません。卒業論文を執筆予定の場合は、各自「卒業論文」の履修登録を行ってください。

卒業論文の作成要領について一般的な原則を記しますが、論文の形式は専攻分野ごとに、用語、文献の引用方式、記号の利用等に差があるので、指導教員の指示に従ってください。

1) 提出期限

2025年1月31日(金)19時(時間厳守)

(9月卒業予定者は、2024年7月31日(水)19時まで)

提出手順について、9月卒業は7月、3月卒業については12月にmanabaにて通知予定ですので、その要領に従って卒業論文を提出してください。

表紙のみ、目次程度又は序章程度といった論文とは認めがたい卒業論文は、受理しません。

※みなさんが提出した卒業論文は、学生・教職員の求めに応じて閲覧に供されることとなります。卒業論文を閲覧に供することにより自分や他人の思想・信条・プライバシー等が侵害されるおそれがあるため閲覧を希望しない場合には、附属図書館での図書返却確認時にカウンター職員に申し出てください。閲覧不可とする申請書をお渡しします。なお申請には、指導教員による承認が必要となります。

2) 体裁等

○体裁及び1ページの文字数等については、指導教員の指示に従うこと。

○文字は楷書とし、誤字・脱字に注意すること。

○多色にする必要がある場合にも一定の方針を立てて統一し、必要最低限の多色化にとどめること。

3) 表紙

○表紙には、①論文のタイトル、②学生番号、③氏名、④ゼミナール名(教員名+ゼミナール)、⑤提出年度(令和6年度提出)を記すこと。

○論文のタイトルは、成績原簿に記入され、成績証明書、図書館データベース等の場合に必要になるので、正確に書くこと。副題を付ける場合には、その左右を棒線で挟む。なお、論文のタイトル全てを「」や『』等で囲んではいけない。

表紙の記入事項

① 卒業論文題目

② 学生番号 ① 氏名
④ ゼミナール名
⑤ 提出年度

共同執筆の場合は、必ず共同執筆者全員の学生番号、氏名を記入してください。

例

2021××× 苫米地 英俊

2021××× 大野 純一

2021××× 長谷部 亮一

渡辺 龍聖ゼミナール

令和6年度提出

4) 「はしがき」と「目次」

- 「はしがき」（「まえがき」「序」）には、テーマを選択した動機等を書く。指導や助言を受けた人たち、調査等に協力した人たちに対する謝辞もここに書く。ただし、「はしがき」は省略してもよい。
- 「はしがき」と「あとがき」の両方を書くことは、卒業論文の場合、概して不適当である。
- 「目次」は、「表紙」又は「はしがき」の次の用紙に書く。必要に応じて「表目次」、「図目次」を別に付け加えてもよい。

5) 本文

- 文体は、「・・・である」の形とし、なるべく簡潔な文章とする。
- 新しい章は、新しいページから始める。
- 章題と文章、あるいは章題と節題の間は1行あける。
- 章（節）の番号と章（節）題の間は、1マスあける。
- 各節の間は、2行あける。
- 新しいパラグラフの初めは、1マスあける。
- 句読点等は、1字とする。ただし、行末の句読点は、「ブラサゲ」として、マスの欄外に書き、次行の始めにはもっていかない。また句読点の次のマスをあけてはいけない。
- 数式は、必ずしもマスや行にこだわらず見やすいように余裕をもって書いてよい。
- 文章の中の欧字と算用数字は、原則として、2字で1マスとする。
- 欧文イタリック文字は、単語の下又は文章の下にアンダーラインを引いて示す。

6) 図表

- 表とグラフは、番号と見出しを付け、本文との対応を明らかにする。原稿用紙と同じサイズになるように、グラフ用紙や集計用紙に書いて、そのまま1ページ分としてとじ込むとよい。
- 「別表」として論文の末尾にまとめることもできる。
- 図表には、資料の出所を明記しなければならない。他の文献等の図表のコピーをそのまま利用することは、特別の場合を除いて避けるべきである。

7) 「注」

- 説明の補足や引用・参照を示すため、注を用いる。注の付け方としては、脚注や後注等がある。
- 一つの注を3ページ以上に分けることは不適当であることから、長い注については、工夫が必要である。後注として注を各章の終わりにまとめて書いてもよい。このとき、注番号は、各章ごとに1から始めてよい。
- 注の中に注を書いてはいけない。

8) 引用文献、参考文献及び引用

論文作成において、文献の参照と引用の明示は、最も注意すべき点である。

- 文献からの引用には、必ず「」（欧文引用のときには“ ”）を付け、その文献を番号のついた注等で明示する。
- 注番号は、例えば、「・・・である。^(注1)」、「・・・である。⁽¹⁾」等のように書く。肩付きのできないパソコン等の場合は、「・・・である（注1）」としてもよい。
- 原典自体の中に「」（又は“ ”）が含まれる場合は、原典中「」（又は“ ”）を『』（又は' ）に代える。
- 要約して引用する場合は、原文の文意を損なわないようにし、さらに、要約引用の範囲が分かるように、出典と引用箇所（例えば、注を用いて）を明示する。「孫引き」は、できるだけ避けて、原典に当たってチェックすべきであるが、やむを得ない場合は、再引用であることを明記する。
- 引用文献、参考文献は、注番号を明示した上で、脚注部分に記載するか又は論文末尾（又は各章末尾）に一括して記載する。

文献記載の原則は、次のとおりである。

和書

著者名『書名』、出版社名、出版年

又は、

著者名『書名』（出版社名、出版年）

引用ページを明示する場合には、この後に引用ページを書く。

<例> 小宮隆太郎・天野明弘『国際経済学』、岩波書店、1972年、p.10

藤瀬浩司『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房、1980年）、56ページ

翻訳書の場合にも、

<例1> J. ブーヴィエ（井上隆一郎訳）『ロスチャイルド』（河出書房新社、1960年）

<例2> 第3章 R.A.Mundell, International Economics, NewYork: Macmillan,1968, (渡辺・箱木・井川訳『国際経済学』,ダイヤモンド社,1971年)

等が通常の形式である。

和雑誌の中の論文（及び論文集の中の一つの論文）

著者名「論文名」、『雑誌名』第△△巻、第△△号（発行年）

著者名「論文名」、編集名『書名』出版社名、出版年

又は、

著者名「論文名」、『書名』（編集名）出版社名、出版年

等とする。

<例> 関口尚志「イングランド銀行パーミンガム支店」、『経済学論集』（東京大学）第47巻第2号、xxページ

岡田純一「近代経済学とスミス」、経済学史学会編『国富論の成立』、岩波書店、1976年、p.345.
(複数ページの場合、pp.345~351.)

洋書及び洋雑誌の中の論文

著者名,書名(注1),出版地:出版社,出版年

著者名,"論文名",雑誌名,Vol. 巻数,No.,号数(発行年)

等とする。ただし、出版地:出版社を()に入れることもある。

また、"論文名",雑誌名の代わりに"論文名",雑誌名とすることも多い。著者名は、A.smith とする場合と、Smith,A. とする場合の両方があるが、著者名が二つ以上並ぶ(共著)場合に、二人目以降の人名については、A.Smith(またはAdam Smith)のようにファースト・ネームを先に書くのが一般である。

雑誌のNo.号数は、しばしば省略する。また、Vol.及びNo.の代わりにvol.及びno.とすることも多い。

これらについては、標準的な図書及び雑誌を参照して、最も適当と思われるものを選択した上で、統一して使用する。

さらに、op.cit.,loc.cit.,ibid(又はIbid.,)(注2)等もよく利用される。辞書等で意味を調べて、誤用しないことが必要である。

(注1) 書名、雑誌名についているアンダーラインは、イタリックを使用せよという指示である。

(注2) op.cit.,loc.cit.,ibid., は、引用によってローマン体を使うかイタリック体を使うかによって変わる。

<例> op.cit.,(前掲の意味)で、前掲が論文名であればローマン体、前掲が書名、雑誌名であればイタリック体を使用する。loc.cit.,(上記引用文中)、ibid.,(同上)も同様である。

なお、ibid.,については、先頭にくるときは、Ibid.,のように大文字となる。

参考文献

斉藤孝、西岡達裕著『学術論文の技法(新訂版)』（日本エディタースクール出版部、2005年）

米国現代語学文学協会編(原田敬一訳編)『MLA新英語論文の手引』（北星堂書店、第2版、1986年）

トウラビアン著(高橋作太郎訳)『英語論文の書き方』（研究社出版、1982年）

9. 履修指導について

1年次及び2年次の学生に対し、修学や履修登録に関する事項について指導・助言等を行うために、「履修指導教員制度」を設けています。履修指導教員は、各オフィスアワーを設定し、研究室等において学生からの相談を受け付けています。修学及び履修登録に関してわからないこと、困ったことがあれば、気軽に相談してください。※成績状態が芳しくない学生を呼び出し、面談を行うことがあります。

令和6年度の履修指導教員は以下のとおりです。教員の連絡先については、「10. 教員との連絡の取り方について」を確認してください。

1年次担当

事項 学科	履修指導 教員名	研究室 番号	オフィスアワー
経済学科	天野 大輔	337	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	佐野 博之	436	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	寺坂 崇宏	430	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
商学科	鈴木 和弘	528	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	木田 世界	537	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	石井 孝和	326	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
企業法学科	多木 誠一郎	435	随時。予約は不要ですが、研究室不在の場合もあるので事前に連絡してもらえれば、より確実です。
	小倉 一志	510	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
社会情報学科	佐山 公一	320	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	木村 泰知	506	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
一般教育等	岡部 善平	507	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	赤塚 広隆	501	月曜日(15:00-17:00)
言語センター	(英語) クランキー ショーン	419	水曜日の5講目 (事前にメールで連絡をして予約すること。)
	山田 久就	542	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
グローバル教育部門	小林 広治	319	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)

2 年次担当

事項 学科	履修指導 教員名	研究室番号	オフィスアワー
経済学科	廣瀬 健一	431	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	中島 大輔	421	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	田中 晋矢	443	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
商学科	長村 知幸	341	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	林 松国	426	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	石井 孝和	326	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
企業法学科	片桐 由喜	407	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	岩本 尚禧	516	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
社会情報学科	片岡 駿	318	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	加地 太一	315	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
一般教育等	中川 喜直	356	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
	沼田 ゆかり	化学	月曜日(15:00-17:00)
言語センター	(英語) クランキー ショー	419	水曜日の5 講目 (事前にメールで連絡をして予約すること。)
	山田 久就	542	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)
グローバル教育部門	小林 広治	319	随時。(事前にメールで連絡をして予約すること)

※一般教育等 : 基礎科目・専門共通科目の履修指導担当

※言語センター: 英語・英語関係教職科目及び英語以外の外国語科目履修指導担当
商学科英語専修所属学生への履修指導担当(英語担当専任教員)

※グローバル教育部門: グローバル総合入試により入学した学生への履修指導担当

10. 教員との連絡の取り方について

本学ホームページ メニュー「学内・教務システム」→「学内限定サイト」→「教職員名簿」にて確認してください。学務情報システム（Campus Square）と同様にSSL-VPN 接続することで、学外のネットワーク環境下でも教員（非常勤講師含む）の連絡先が閲覧可能です。SSL-VPN の接続方法は、情報総合センターのホームページで確認してください。



教員の研究室は1号館又は4号館にあります。研究室番号は3ケタからなり、百の位が階数、十の位が1～4は1号館、5～6は4号館となります。（例：332であれば1号館の3階となります。）なお、非常勤講師は、授業時以外は大学にいません。

（2）連絡を取る際の注意

研究室を訪ねる際は、事前にアポイントを取ってください。また、メールを送信する際は、学生番号・氏名を入れてください。

11. 欠席届について

授業への出席が少ない場合は、試験の受験を認められない等、単位認定上不利な扱いになる場合がありますので、欠席しないように注意してください。

しかし、病気、けが、事故等やむを得ない事情によって授業を欠席せざるを得ない場合は、「欠席届」を授業担当教員に提出してください。欠席届の様式は、本学ホームページ「在学生」→「学生手続き一覧」→「やむを得ない事情で授業又は定期試験を欠席するとき」からダウンロードしてください。

なお、「欠席届」の取扱いについては、授業担当教員に一任されていますので、質問がある場合は担当教員に直接お問い合わせください。

- ※ 関係諸規程をホームページで公開しています。「Ⅷ. 1. 学則及び関係諸規程」を確認してください。
- ※ 定期試験をやむを得ない事情により欠席する場合も、授業担当教員に「欠席届」を提出してください。「Ⅳ.4. 定期試験について」を確認してください。
- ※ インフルエンザ、麻疹など、学校保健法に基づく出席停止措置が必要な疾患に罹患した場合は、欠席事由を証明する書類として「感染症登校許可証明書」の添付が必要です。保健管理センターのホームページを確認の上、手続きをしてください。必要な手続きを行った場合、公欠扱いとなります。

V. その他履修に関する制度

1. 他大学等での単位認定制度について

(1) 入学前の既修得単位の認定

本学では、学則第28条により、入学前の既修得単位を本学の単位として認定することができます。入学前の既修得単位は、キャップ制（1年間に履修登録できる単位数の上限）には含まれません。

提出先等については、入学手続書類（WEB掲載）をご確認ください。

対象者	2024年4月入学生
申請期限	2024年4月1日（月）
提出書類	①入学前既修得単位認定申請書 ②成績証明書 ③講義概要（シラバス等の授業内容のわかるもの） ※提出書類に不備があると認定されません。
認定できる学校等の範囲	①大学（科目等履修生として修得した単位を含む） ②短期大学及び短期大学の専攻科 ③高等専門学校（4、5年目及び高等専門学校の専攻科） ④専修学校の2年以上の専門課程
認定する範囲	研究指導、基礎ゼミナール、総合科目、夜間主コースの卒業論文を除く授業科目で、本学の授業科目に読替えることができる科目
認定単位数	60単位を超えない範囲で認定する。 ※大学設置基準及び学則第27条により、以下の制度等により認定される単位については、合算して60単位を上限として、卒業所要単位に含めることができます。 ・入学前の既修得単位 ・大学以外の教育施設等における学修の単位（検定等） ・他大学との単位互換での単位（帯広畜産大学・北見工業大学提供科目等） ・留学による単位互換の単位

(2) 三大学相互提供科目

令和4年4月より、帯広畜産大学、北見工業大学が提供する三大学相互提供科目の履修が可能となり、また、令和5年4月からは、三大学の授業科目を複合的に組み合わせた「三大学連携文理融合教育プログラム」が開始されました。詳細については、manabaに掲示します。

(3) 他大学との単位互換制度

学則第27条により、北海道大学経済学部及び北海道教育大学札幌校との間に単位互換に関する協定を結んでいます。そのため、それぞれの大学の一部の授業科目を履修することができ、身分はそれぞれの大学の特別聴講学生となります。単位互換科目は、60単位（入学前の既修得単位、大学以外の教育等における学修の単位及び留学による単位互換の単位を含む）を超えない範囲で認定します。募集時期や履修可能科目などの詳細は、4月上旬から中旬にmanabaでお知らせします。申請期間が短くなっていますので、履修希望者は掲示に注意してください。

【北海道大学経済学部】

令和6年度の実施の予定はありません。

【北海道教育大学札幌校】

令和6年度の実施の予定はありません。

2. 大学以外の教育施設等における学修（検定等）の単位認定について

本学では、大学以外の教育施設等で学修した成果（検定等）を本学における授業科目の履修とみなして、単位を認定することができます。

申請期限 (2024年度の単位として認定する期限)	<p>○2024年度入学生で、入学前（編入学・再入学を含む）に取得した検定等で申請する場合 2024年4月9日（火）</p> <p>○4年次生及び早期卒業を希望する3年次生 2025年1月30日（木）（9月卒業予定者は2024年7月31日（水））</p> <p>○1～3年次生 2025年2月12日（水）</p> <p>※申請は随時受け付けていますが、すぐに認定されるものではありません。また、履修学期や申請締切日によって、申請できる授業科目や申請承認の結果発表時期が異なりますので、以下の注意事項及びmanabaを確認してください。</p>
提出書類	<p>検定試験の合格証書等（スクリーンショット、写真データ可）</p> <p>※提出期限までに合格証書等が用意できない場合は、申請を受け付けられません。</p> <p>※原本の提示を求める場合がありますので、原本の保管をお願いします。</p>
提出先	manaba
認定できる検定等	別表「単位を認定することができる検定等」のとおり
認定単位数	<p>大学設置基準及び学則第27条により、以下の制度等により認定される単位については、合算して60単位を上限として、卒業所要単位に含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の既修得単位 ・大学以外の教育施設等における学修の単位（検定等） ・他大学との単位互換での単位（帯広畜産大学・北見工業大学提供科目等） ・留学による単位互換の単位

【注意事項】

- ・単位認定できる科目は、単位が未修得の科目に限ります。（既に単位を修得した科目は、認定できませんので、manabaを必ず確認し、申請締切日に注意してください。）
- ・単位認定を受けようとする授業科目を履修中の場合、当該授業科目の成績評価の前（前期：7月末頃、後期：1月末頃）もしくは、成績が不合格である場合に限り、申請を行うことができます。また、この場合、単位認定は履修登録上限（キャップ）に含まれます。履修登録をしていなかった授業科目は、履修登録上限（キャップ）に含まれません。

例) 「履修登録をしている前期科目の英語ⅡA1」と「履修登録をしている後期科目の英語ⅡA4」を「5月末申請締切」で申請し、承認された場合

「履修登録をしている前期科目の英語ⅡA1」…キャップに含まれる

「履修登録をしている後期科目の英語ⅡA4」…キャップに含まれない

- ※ 「単位を認定することができる検定等」において「本学授業科目」における同一カテゴリ内では定められた単位数を超えて認定することはできません。
- ※ 同一検定等の成績は複数のカテゴリに跨って同時に単位認定を申請することはできません。

単位を認定することができる検定等 別表

令和6（2024）年度入学者

検定等の種類・評価等			本学授業科目	単位数	備 考
①実用英語技能検定準1級以上			英語ⅠA（1単位） 英語ⅠB（1単位） 英語ⅠC（1単位） 英語ⅠD（1単位）	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」①～⑦のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ・昼間コース授業科目として、2単位で申請する場合は、(1)～(3)のいずれかとする。 (1)英語ⅠA及び英語ⅠD (2)英語ⅠB及び英語ⅠD (3)英語ⅠC及び英語ⅠD
TOEFL	②ITP 550点以上 ③iBT 80点以上	秀 9.5 秀 9.5			
TOEFL	④ITP 500点以上 ⑤iBT 61点以上	優 8.5			
TOEIC	⑥730点以上	秀 9.5			
TOEIC	⑦700点以上	優 8.5			
⑧実用英語技能検定準1級以上			(昼間コース) 英語ⅡA1/B1 (1単位) 英語ⅡA2/B2 (1単位) 英語ⅡA3(1単位) 英語ⅡA4(1単位) (夜間主コース) 英語ⅡA1(1単位) 英語ⅡA2(1単位) 英語ⅡB1(1単位) 英語ⅡB2(1単位)	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」⑧～⑭のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ※昼間コースの英語ⅠDの期末試験として受験したTOEIC IPテストでは申請できない。
TOEFL	⑨ITP 570点以上 ⑩iBT 88点以上	秀 9.5 秀 9.5			
TOEFL	⑪ITP 520点以上 ⑫iBT 68点以上	優 8.5			
TOEIC	⑬780点以上	秀 9.5			
TOEIC	⑭750点以上	優 8.5			
ドイツ語技能検定試験	3級合格点+10点以上又は2級以上合格	秀 9.0	ドイツ語Ⅰ-1 (2単位)	4単位 まで	2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。
	3級合格点+10点まで	優 8.0	ドイツ語Ⅰ-2 (2単位)		
実用フランス語技能検定試験	3級以上合格	秀 9.0	フランス語Ⅰ-1 (2単位)	4単位 まで	2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。
	4級合格	優 8.0	フランス語Ⅰ-2 (2単位)		
中国語検定試験	3級以上合格	秀 9.0	中国語Ⅰ-1 (2単位) 中国語Ⅰ-2 (2単位)	4単位 まで	
	4級合格	優 8.0	中国語Ⅰ-1 (2単位)	2単位	
スペイン語技能検定試験	3級以上合格	秀 9.0	スペイン語Ⅰ-1 (2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。
	4級合格	優 8.0	スペイン語Ⅰ-2 (2単位)		
ロシア語能力検定試験	4級以上合格	秀 9.0	ロシア語Ⅰ-1 (2単位) ロシア語Ⅰ-2 (2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。
韓国語能力試験	⑮3級以上合格	秀 9.0	韓国語Ⅰ-1 (2単位) 韓国語Ⅰ-2 (2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・「検定等の種類等」⑮～⑳のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。
	⑯2級合格	優 8.0			
「ハングル」能力検定試験	⑰3級以上合格又は4級合格(85点以上)	秀 9.0	韓国語Ⅰ-2 (2単位)	4単位 まで	
	⑱4級合格(75点以上85点未満)	優 8.0			
日商簿記検定	⑲1級合格	秀 9.0	簿記原理(2単位)	4単位 まで	・「検定等の種類等」⑲～㉑のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・「応用簿記」については、昼間コース授業科目として申請可能。
	⑳2級合格	良 7.0	応用簿記(2単位)		
基本情報技術者試験合格			情報処理基礎 (2単位) 情報処理Ⅱ(2単位)	4単位 まで	「情報処理Ⅱ」については、昼間コース授業科目として申請可能。
ITパスポート試験合格			情報処理基礎 (2単位)	2単位	

注(1) 一度申請した検定等の成績は、別科目（語学研修における単位認定を含む）で再度申請することはできない。

(2) TOEFLの score については、申請時において2年以内に取得した score のみ有効とする。

令和2～5（2020～2023）年度入学者

検定等の種類・評価等			本学授業科目	単位数	備 考	
①実用英語技能検定準1級以上			英語ⅠA（1単位） 英語ⅠB（1単位） 英語ⅠC（1単位） 英語ⅠD（1単位）	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」①～⑦のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ・昼間コース授業科目として、2単位で申請する場合は、(1)～(3)のいずれかとする。 (1)英語ⅠA及び英語ⅠD (2)英語ⅠB及び英語ⅠD (3)英語ⅠC及び英語ⅠD	
TOEFL	②ITP 550点以上	秀				9.5
	③iBT 80点以上	秀				9.5
TOEFL	④ITP 500点以上	優				8.5
	⑤iBT 61点以上	優				8.5
TOEIC	⑥730点以上	秀	9.5			
TOEIC	⑦700点以上	優	8.5			
⑧実用英語技能検定準1級以上			（昼間コース） 英語ⅡA1/B1（1単位） 英語ⅡA2/B2（1単位） 英語ⅡA3（1単位） 英語ⅡA4（1単位） （夜間主コース） 英語ⅡA1（1単位） 英語ⅡA2（1単位） 英語ⅡB1（1単位） 英語ⅡB2（1単位）	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」⑧～⑭のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ※昼間コースの英語ⅠDの期末試験として受験したTOEIC IPテストでは申請できない。	
TOEFL	⑨ITP 570点以上	秀				9.5
	⑩iBT 88点以上	秀				9.5
TOEFL	⑪ITP 520点以上	優				8.5
	⑫iBT 68点以上	優	8.5			
TOEIC	⑬780点以上	秀	9.5			
TOEIC	⑭750点以上	優	8.5			
ドイツ語技能検定試験	3級合格点+10点以上又は2級以上合格	秀	9.0	4単位 まで	2単位で申請する場合は、I-2に限る。	
	3級合格点+10点まで	優	8.0			
実用フランス語技能検定試験	3級以上合格	秀	9.0	4単位 まで	2単位で申請する場合は、I-2に限る。	
	4級合格	優	8.0			
中国語検定試験	3級以上合格	秀	9.0	4単位 まで		
	4級合格	優	8.0	2単位		
スペイン語技能検定試験	3級以上合格	秀	9.0	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、I-2に限る。	
	4級合格	優	8.0			
ロシア語能力検定試験	4級以上合格	秀	9.0	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、I-2に限る。	
韓国語能力試験	⑮3級以上合格	秀	9.0	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・「検定等の種類等」⑮～⑳のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・2単位で申請する場合は、I-2に限る。	
	⑯2級合格	優	8.0			
「ハングル」能力検定試験	⑰3級合格(75点以上)又は2級以上合格	秀	9.0	4単位 まで	・「検定等の種類等」⑮～⑳のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・「応用簿記」については、昼間コース授業科目として申請可能。	
	⑱3級合格(60点以上75点未満)	優	8.0			
日商簿記検定	⑲1級合格	秀	9.0	4単位 まで	・「検定等の種類等」⑲～㉑のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・「応用簿記」については、昼間コース授業科目として申請可能。	
	⑳2級合格	良	7.0			
基本情報技術者試験合格			情報処理基礎（2単位） 情報処理Ⅱ（2単位）	4単位 まで	「情報処理Ⅱ」については、昼間コース授業科目として申請可能。	
ITパスポート試験合格			情報処理基礎（2単位）	2単位		

注（1）一度申請した検定等の成績は、別科目（語学研修における単位認定を含む）で再度申請することはできない。

（2）TOEFLのscoreについては、申請時において2年以内に取得したscoreのみ有効とする。

その他制度

平成31(2019)年度入学者

検定等の種類・評価等		本学授業科目	単位数	備 考
①実用英語技能検定準1級以上				・申請可能回数は、「検定等の種類」①～⑦のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ・昼間コース授業科目として、2単位で申請する場合は、(1)～(3)のいずれかとする。 (1)英語 IA 及び英語 ID (2)英語 IB 及び英語 ID (3)英語 IC 及び英語 ID
TOEFL	② ITP 550点以上 ③ iBT 80点以上	秀 9.5	2単位 まで	
TOEFL	④ ITP 500点以上 ⑤ iBT 61点以上	優 8.5		
TOEIC	⑥ 730点以上	秀 9.5		
TOEIC	⑦ 700点以上	優 8.5		
⑧実用英語技能検定準1級以上				
TOEFL	⑨ ITP 570点以上 ⑩ iBT 88点以上	秀 9.5	2単位 まで	
TOEFL	⑪ ITP 520点以上 ⑫ iBT 68点以上	優 8.5		
TOEIC	⑬ 780点以上	秀 9.5		
TOEIC	⑭ 750点以上	優 8.5		
ドイツ語技能検定試験	3級合格点+10点以上又は2級以上合格	秀 9.0	4単位 まで	2単位で申請する場合は、I-2に限る。
	3級合格点+10点まで	優 8.0		
実用フランス語技能検定試験	3級以上合格	秀 9.0	4単位 まで	2単位で申請する場合は、I-2に限る。
	4級合格	優 8.0		
中国語検定試験	3級以上合格	秀 9.0	4単位 まで	
	4級合格	優 8.0	2単位	
スペイン語技能検定試験	3級以上合格	秀 9.0	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、I-2に限る。
	4級合格	優 8.0		
ロシア語能力検定試験	4級以上合格	秀 9.0	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、I-2に限る。
韓国語能力試験	⑮ 3級以上合格	秀 9.0	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・「検定等の種類等」⑮～⑳のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・2単位で申請する場合は、I-2に限る。
	⑯ 2級合格	優 8.0		
「ハングル」能力検定試験	⑰ 3級合格(75点以上)又は2級以上合格	秀 9.0	4単位 まで	
	⑱ 3級合格(60点以上75点未満)	優 8.0		
日商簿記検定	⑲ 1級合格	秀 9.0	4単位 まで	・「検定等の種類等」⑲～㉑のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・「応用簿記」については、昼間コース授業科目として申請可能。
	⑳ 2級合格	良 7.0		
基本情報技術者試験合格		秀 9.0	情報処理(4単位)	4単位 昼間コース授業科目として申請可能。
初級システムアドミニストレータ試験合格		優 8.0	情報処理基礎(2単位)	2単位
ITパスポート試験合格				

注(1) 一度申請した検定等の成績は、別科目(語学研修における単位認定を含む)で再度申請することはできない。

(2) TOEFLの score については、申請時において2年以内に取得した score のみ有効とする。

平成28～30（2016～2018）年度入学者

検定等の種類・評価等		本学授業科目	単位数	備考	
①実用英語技能検定準1級以上		英語ⅠA(1単位) 英語ⅠB(1単位) 英語ⅠC(1単位) 英語ⅠD(1単位)	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」①～⑦のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ・昼間コース授業科目として、2単位で申請する場合は、(1)～(3)のいずれかとする。 (1)英語ⅠA及び英語ⅠD (2)英語ⅠB及び英語ⅠD (3)英語ⅠC及び英語ⅠD	
TOEFL	②ITP 550点以上 ③iBT 80点以上				秀 9.5 秀 9.5
TOEFL	④ITP 500点以上 ⑤iBT 61点以上				優 8.5
TOEIC	⑥730点以上				秀 9.5
TOEIC	⑦700点以上				優 8.5
⑧実用英語技能検定準1級以上		(昼間コース) 英語ⅡA1/B1(1単位) 英語ⅡA2/B2(1単位) 英語ⅡA3(1単位) 英語ⅡA4(1単位) (夜間主コース) 英語ⅡA1(1単位) 英語ⅡA2(1単位) 英語ⅡB1(1単位) 英語ⅡB2(1単位)	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」⑧～⑫のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ・昼間コース授業科目として、2単位で申請する場合は、(1)～(3)のいずれかとする。 (1)英語ⅡA1/B1及び英語ⅡA2/ⅡB2 (2)英語ⅡA3及び英語ⅡA2/ⅡB2 (3)英語ⅡA4及び英語ⅡA2/ⅡB2	
TOEFL	⑨ITP 570点以上 ⑩iBT 88点以上	秀 9.5 秀 9.5			
TOEFL	⑪ITP 520点以上 ⑫iBT 68点以上	優 8.5			
TOEIC	⑬780点以上	秀 9.5			
ドイツ語技能検定試験	3級合格点+10点以上又は2級以上合格	ドイツ語Ⅰ-1(2単位) ドイツ語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	3級合格点+10点まで	優 8.0			
実用フランス語技能検定試験	3級以上合格	フランス語Ⅰ-1(2単位) フランス語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	4級合格	優 8.0			
中国語検定試験	3級以上合格	中国語Ⅰ-1(2単位) 中国語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで		
	4級合格	優 8.0	2単位		
スペイン語技能検定試験	3級以上合格	スペイン語Ⅰ-1(2単位) スペイン語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	4級合格	優 8.0			
ロシア語能力検定試験	4級以上合格	ロシア語Ⅰ-1(2単位) ロシア語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
韓国語能力試験	⑮3級以上合格	韓国語Ⅰ-1(2単位) 韓国語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・「検定等の種類等」⑮～⑳のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	⑯2級合格				優 8.0
「ハングル」能力検定試験	⑰3級合格(75点以上)又は2級以上合格				秀 9.0
	⑱3級合格(60点以上75点未満)				優 8.0
日商簿記検定	⑲1級合格	簿記原理(2単位) 応用簿記(2単位)	4単位 まで	・「検定等の種類等」⑲～㉑のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・「応用簿記」については、昼間コース授業科目として申請可能。	
	⑳2級合格	良 7.0			
基本情報技術者試験合格		情報処理(4単位)	4単位	昼間コース授業科目として申請可能。	
初級システムアドミニストレータ試験合格 ITパスポート試験合格		情報処理基礎(2単位)	2単位		

注(1) 一度申請した検定等の成績は、別科目(語学研修における単位認定を含む)で再度申請することはできない。

(2) TOEFLの score については、申請時において2年以内に取得した score のみ有効とする。

その他制度

平成25～27（2013～2015）年度入学者

検定等の種類・評価等		本学授業科目	単位数	備 考	
①実用英語技能検定準1級以上		英語ⅠA(1単位) 英語ⅠB(1単位) 英語ⅠC(1単位) 英語ⅠD(1単位)	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」①～⑦のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ・昼間コース授業科目として、2単位で申請する場合は、(1)～(3)のいずれかとする。 (1)英語ⅠA及び英語ⅠD (2)英語ⅠB及び英語ⅠD (3)英語ⅠC及び英語ⅠD	
TOEFL	②ITP 550点以上 ③iBT 80点以上				秀 9.5
TOEFL	④ITP 500点以上 ⑤iBT 61点以上				優 8.5
TOEIC	⑥730点以上				秀 9.5
TOEIC	⑦700点以上				優 8.5
⑧実用英語技能検定準1級以上		(昼間コース) 英語ⅡA1/B1(1単位) 英語ⅡA2/B2(1単位) 英語ⅡA3(1単位) 英語ⅡA4(1単位) (夜間主コース) 英語ⅡA1(1単位) 英語ⅡA2(1単位) 英語ⅡB1(1単位) 英語ⅡB2(1単位)	2単位 まで	・申請可能回数は、「検定等の種類」⑧～⑭のうち、いずれか一つについて1回のみ。 ・1単位又は2単位で申請可能。 ・昼間コース授業科目として、2単位で申請する場合は、(1)～(3)のいずれかとする。 (1)英語ⅡA1/B1及び英語ⅡA2/ⅡB2 (2)英語ⅡA3及び英語ⅡA2/ⅡB2 (3)英語ⅡA4及び英語ⅡA2/ⅡB2	
TOEFL	⑨ITP 570点以上 ⑩iBT 88点以上	秀 9.5			
TOEFL	⑪ITP 520点以上 ⑫iBT 68点以上	優 8.5			
TOEIC	⑬780点以上	秀 9.5			
TOEIC	⑭750点以上	優 8.5			
ドイツ語技能検定試験	3級合格点+10点以上又は2級以上合格	ドイツ語Ⅰ-1(2単位)	4単位 まで	2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	3級合格点+10点まで	ドイツ語Ⅰ-2(2単位)			
実用フランス語技能検定試験	3級以上合格	フランス語Ⅰ-1(2単位)	4単位 まで	2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	4級合格	フランス語Ⅰ-2(2単位)			
中国語検定試験	3級以上合格	中国語Ⅰ-1(2単位) 中国語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで		
	4級合格	中国語Ⅰ-1(2単位)			
スペイン語技能検定試験	3級以上合格	スペイン語Ⅰ-1(2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	4級合格	スペイン語Ⅰ-2(2単位)			
ロシア語能力検定試験	4級以上合格	ロシア語Ⅰ-1(2単位) ロシア語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
韓国語能力試験	⑮3級以上合格	朝鮮語Ⅰ-1(2単位) 朝鮮語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・「検定等の種類等」⑮～⑰のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	⑯2級合格				
「ハングル」能力検定試験	⑰3級合格(75点以上)又は2級以上合格	朝鮮語Ⅰ-1(2単位) 朝鮮語Ⅰ-2(2単位)	4単位 まで	・昼間コース授業科目として申請可能。 ・「検定等の種類等」⑮～⑰のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・2単位で申請する場合は、Ⅰ-2に限る。	
	⑱3級合格(60点以上75点未満)				
日商簿記検定	⑲1級合格	簿記原理(2単位) 応用簿記(2単位)	4単位 まで	・「検定等の種類等」⑲～⑳のうち、いずれか一つについて申請可能。 ・「応用簿記」については、昼間コース授業科目として申請可能。	
	⑳2級合格				
基本情報技術者試験合格		情報処理(4単位)	4単位	昼間コース授業科目として申請可能。	
初級システムアドミニストレータ試験合格 ITパスポート試験合格		情報処理基礎(2単位)	2単位		

注(1) 一度申請した検定等の成績は、別科目(語学研修における単位認定を含む)で再度申請することはできない。

(2) TOEFLの score については、申請時において2年以内に取得した score のみ有効とする。

3. 留学による単位認定について

(1) 単位互換に関する取扱い

- ① 大学設置基準及び学則第 27 条により、以下の制度等により認定される単位については、合算して 60 単位を上限として、卒業所要単位に含めることができます。
 - ・入学前の既修得単位
 - ・大学以外の教育施設等における学修の単位（検定等）
 - ・他大学との単位互換での単位（帯広畜産大学・北見工業大学提供科目等）
 - ・留学による単位互換の単位
- ② 留学先大学ごとに定められた基準に従い、成績評価（秀・優・良・可）を行います。
- ③ 単位互換科目は、「科目履修届」及び「単位認定願」を提出後、委員会で承認された場合に卒業所要単位に算入することができます。
- ④ 単位互換科目が、当該系列区分（学科科目等）の内容に該当する場合は、学則上の科目に読み替えをしながらも卒業所要単位に算入することができる場合があります。
- ⑤ 卒業所要単位へ算入する場合で、学則上の科目に読み替えて認定できる科目は、基礎科目、外国語科目、学科科目、専門共通科目、教職共通科目とします。
- ⑥ 読み替えた科目が卒業所要単位として認定された場合は、以後、本学において当該科目の履修は認めません。
- ⑦ 教育職員免許法により、読み替えた科目を教員免許申請のための科目に使用することはできません。一度読み替えた科目を再度履修することはできませんので、教員免許を取得予定の学生は十分気を付けてください。
- ⑧ 研究指導を履修する学生が協定校に留学する場合は、留学先の大学で本学の指導教員が指定している科目を履修し、単位を修得した場合は当該期間の研究指導が継続されているとみなされます。詳細は、『IV. 8. 研究指導について』を確認してください。

(2) 単位互換の申請手続き

単位認定には、以下の書類の提出が必要です。詳細は、派遣留学決定者向けのオリエンテーションで説明します。

【提出先】	【履修科目確定後速やかに】	【帰国後 1 ヶ月以内】
国際交流室	科目履修届 履修科目のシラバスのコピー及びその和訳 Class Registration Report 等	単位認定願 成績証明書

- ※ 国際交流室が定めた申請期限を厳守してください。期限後の提出は認めません。
- ※ 手続きに不備がある場合、単位認定ができなくなる可能性があります。
- ※ 手続き方法は、変更となる可能性があります。派遣留学予定者は、国際交流室の指示に従い、手続きを行ってください。

(3) 語学研修における単位認定について

海外で行われる語学研修に参加した学生は、語学研修終了後に該当言語の語学検定試験を受験し、その結果を国際交流室へ提出することで、語学科目または語学研修（共通科目 自由選択 2 単位）の卒業所要単位としても申請可能です。成績評価の基準については、別表を参照してください。

- ※ 語学研修による単位認定を受けようとする授業科目を履修中の場合、単位認定は履修登録上限（キャップ）に含まれます。
- ※ 申請期限や手続き方法については、国際交流室からの指示に従ってください。

語学研修における成績評価の基準（1年次配当科目）

区分		英語 I A、I B、I C、I D、語学研修（英語 I）の中から2単位以内					備考
		成績評価					備考
	ITP	～459	460～469	470～479	480～499	500～519	(TOEFL ITP スコア) 520 以上は 100 点とする
	iBT	～47	48～51	52～53	54～60	61～68	①460 点→素点 60 点から 1 点きざみ ②470 点→素点 70 点から 1 点きざみ ③480 点→スコア 2 点ごとに素点 80 点から 1 点きざみ ④500 点→スコア 2 点ごとに素点 90 点から 1 点きざみ (TOEFL iBT スコア) 69 以上は 100 点とする ①48 点→素点 60 点から 3 点きざみ ②52 点→素点 73 点から 4 点きざみ ③54 点→素点 81 点から 1 点きざみ (83・86 点を除く) ④61 点→素点 91 点から 1 点きざみ (95 点を除く)
英語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分		ドイツ語 I、語学研修（ドイツ語 I）の中から2単位					備考
		成績評価					備考
		-31 以下	-21～-30	-11～-20	-1～-10	合格点～	ドイツ語技能検定 3 級
	ドイツ語	不可	①可	②良	③優	④秀	①可（合格点-30 まで） →素点 60 点から 1 点きざみ ②良（合格点-20 まで） →素点 70 点から 1 点きざみ ③優（合格点-10 まで） →素点 80 点から 1 点きざみ ④秀（合格点～） →素点 90 点から 4 点きざみ
ドイツ語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分		フランス語 I、語学研修（フランス語 I）の中から2単位					備考
		成績評価					備考
		-31 以下	-21～-30	-11～-20	-1～-10	合格点～	実用フランス語技能検定 3 級のスコアを基準とする。
	フランス語	不可	①可	②良	③優	④秀	①可（合格点-30 まで） →素点 60 点から以後 1 点きざみ ②良（合格点-20 まで） →素点 70 点から以後 1 点きざみ ③優（合格点-10 まで） →素点 80 点から以後 1 点きざみ ④秀（合格点～） →素点 90 点から以後、合格点（試験毎に異なる）から満点までを 10 等分する
フランス語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分		中国語 I、語学研修（中国語 I）の中から2単位					備考
		成績評価					備考
		～(合格点-31)	(合格点-30) ～ (合格点-21)	(合格点-20) ～ (合格点-11)	(合格点-10) ～ (合格点-1)	(合格点)～	日本中国語検定協会主催 中国語検定試験 3 級を基準とする。3 級の合格基準は、筆記 6.5 点、ヒアリング 6.5 点の計 13.0 点。これを 10.0 点満点に換算して、6.5 点を合格基準とする。
	中国語	不可	①可	②良	③優	④秀	①可(合格点-30) →素点 60 点から以後 1 点きざみ ②良(合格点-20) →素点 70 点から以後 1 点きざみ ③優(合格点-10) →素点 80 点から以後 1 点きざみ ④秀(合格点～) →素点 90 点から以後満点までを 10 等分する。
中国語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分		スペイン語 I、語学研修（スペイン語 I）の中から2単位					備考
		成績評価					備考
		6 級不合格	該当なし	6 級合格	5 級合格	4 級以上合格	スペイン語技能検定試験
	スペイン語	①不可	②可	③良	④優	⑤秀	①6 級不合格 ②該当なし ③6 級合格 ④5 級合格 ⑤4 級以上合格
スペイン語	①不可	②可	③良	④優	⑤秀		
区分		ロシア語 I、語学研修（ロシア語 I）の中から2単位					備考
		成績評価					備考
		総得点の 40%未満	該当なし	総得点の 40%以上 50%未満	総得点の 50%以上 60%未満	総得点の 60%以上	ロシア語能力検定試験 4 級受験者 *最終評価点数は不可が 60 等分、良、優、秀が 10 等分して決める。
	ロシア語	不可	可	良	優	秀	
ロシア語	不可	可	良	優	秀		

区分	韓国語Ⅰ、語学研修（韓国語Ⅰ）の中から2単位					備考
	成績評価					
韓国語 (朝鮮語)	総得点の 50%未満	総得点の 50%以上 60%未満	総得点の 60%以上 70%未満	総得点の 70%以上 80%未満	総得点の 80%以上	ハングル能力検定4級又は韓国語能力試験Ⅰ受験者 *最終評価点数は不可が60等分、可、良、優、秀が10等分して決める。
	不可	可	良	優	秀	

(注) 語学研修時の学年の上級年次に配当される科目を申請することはできない。

(注) 一度申請した語学検定試験の成績は、別科目で再度申請することはできない。

語学研修における成績評価の基準（2年次配当科目）

区分	（昼間コース）英語ⅡA1/ⅡB1、ⅡA2/ⅡB2、ⅡA3、ⅡA4又は語学研修（英語Ⅱ）の中から2単位以内 （夜間主コース）英語ⅡA1、ⅡA2、ⅡB1、ⅡB2又は語学研修（英語Ⅱ）の中から2単位以内					備考	
	成績評価						
英語	ITP	～474	475～484	485～494	495～514	515～534	(TOEFL ITP スコア) 535以上は100点とする ①475点→素点60点から1点きざみ ②485点→素点70点から1点きざみ ③495点→スコア2点ごとに素点80点から1点きざみ ④515点→スコア2点ごとに素点90点から1点きざみ (TOEFL iBT スコア) 74以上は100点とする ①53点→素点60点から3点きざみ ②57点→素点73点から4点きざみ ③59点→素点81点から1点きざみ (83・86点を除く) ④66点→素点91点から1点きざみ (95点を除く)
	iBT	～52	53～56	57～58	59～65	66～73	
ドイツ語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分	ドイツ語ⅡA、ⅡB又は語学研修（ドイツ語Ⅱ）の中から2単位以内					備考	
ドイツ語	成績評価					備考	
	-21以下	-11～-20	-1～-10	合格点～+9	+10以上	ドイツ語技能検定3級 ①可(合格点-20まで) →素点60点から1点きざみ ②良(合格点-10まで) →素点70点から1点きざみ ③優(合格点+9まで) →素点80点から1点きざみ ④秀(合格点+10以上) →素点90点から3点きざみ	
フランス語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分	フランス語ⅡA、ⅡB又は語学研修（フランス語Ⅱ）の中から2単位以内					備考	
フランス語	成績評価					備考	
	-21以下	-11～-20	-1～-10	合格点～+9	+10以上	実用フランス語技能検定3級のスコアを基準とする。 ①可(合格点-20まで) →素点60点から以後1点きざみ ②良(合格点-10まで) →素点70点から以後1点きざみ ③優(合格点+9まで) →素点80点から以後1点きざみ ④秀(合格点+10以上) →素点90点から以後、合格点(試験毎に異なる)+10から満点までを10等分する	
中国語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分	中国語ⅡA、ⅡB又は語学研修（中国語Ⅱ）の中から2単位以内					備考	
中国語	成績評価					備考	
	～(合格点-21)	(合格点-20)～(合格点-11)	(合格点-10)～(合格点-1)	合格点～(合格点+9)	(合格点+10)～	日本中国語検定協会主催 中国語検定試験3級を基準とする。3級の合格基準は、筆記65点、ヒアリング65点の計130点。これを100点満点に換算して、65点を合格基準とする。 ①可(合格点-20) →素点60点から以後1点きざみ ②良(合格点-10) →素点70点から以後1点きざみ ③優 合格点 →素点80点から以後1点きざみ ④秀(合格点+10) →素点90点から以後満点までを10等分する。	
スペイン語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分	スペイン語ⅡA、ⅡB又は語学研修（スペイン語Ⅱ）の中から2単位以内					備考	
スペイン語	成績評価					備考	
	6級不合格	6級合格	5級合格	4級合格	3級以上合格	スペイン語技能検定試験 ①6級不合格 ②6級合格 ③5級合格 ④4級合格 ⑤3級以上合格	
ロシア語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分	ロシア語ⅡA、ⅡB又は語学研修（ロシア語Ⅱ）の中から2単位以内					備考	
ロシア語	成績評価					備考	
	総得点の50%未満	総得点の50%以上60%未満	総得点の60%以上70%未満	総得点の70%以上80%未満	総得点の80%以上	ロシア語能力検定試験4級受験者* *最終評価点数は不可が60等分、可、良、優、秀が10等分して決める。	
ロシア語	不可	可	良	優	秀		

区分	ロシア語Ⅱ A、Ⅱ B又は語学研修（ロシア語Ⅱ）の中から2単位以内					備考
	成績評価					
ロシア語	総得点の 30%未満	総得点の 30%以上 40%未満	総得点の 40%以上 50%未満	総得点の 50%以上 60%未満	総得点の 60%以上	ロシア語能力検定試験3級受験者 *最終評価点数は不可が60等分、可、 良、優、秀が10等分して決める。
	不可	可	良	優	秀	
区分	韓国語Ⅱ A、Ⅱ B又は語学研修（韓国語Ⅱ）の中から2単位以内					備考
	成績評価					
韓国語 (朝鮮語)	総得点の 50%未満	総得点の 50%以上 60%未満	総得点の 60%以上 70%未満	総得点の 70%以上 80%未満	総得点の 80%以上	(ハングル能力検定3級受験者) *最終評価点数は不可が60等分、可、 良、優、秀が10等分して決める。
	不可	可	良	優	秀	
	~109	110~119	120~129	130~139	140~149	(韓国語能力試験Ⅱ受験者) 150点以上は100点とする。 ①可 →素点60点から以後1点きざみ ②良 →素点70点から以後1点きざみ ③優 →素点80点から以後1点きざみ ④秀 →素点90点から以後1点きざみ
	不可	①可	②良	③優	④秀	

(注) 語学研修時の学年の上級年次に配当される科目を申請することはできない。

(注) 一度申請した語学検定試験の成績は、別科目で再度申請することはできない。

語学研修における成績評価の基準（3年次配当科目）

区分		英語上級Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの中から2単位 成績評価					備考
	ITP	～489	490～499	500～509	510～529	530～549	(TOEFL ITP スコア) 550 以上は 100 点とする ①490 点→素点 60 点から 1 点きざみ ②500 点→素点 70 点から 1 点きざみ ③510 点→スコア 2 点ごとに素点 80 点から 1 点きざみ ④530 点→スコア 2 点ごとに素点 90 点から 1 点きざみ (TOEFL IBT スコア) 79 以上は 100 点とする ①58 点→素点 60 点から 3 点きざみ ②61 点→素点 70 点から 3 点きざみ ③65 点→素点 81 点から 1 点きざみ (83・86 点を除く) ④72 点→素点 91 点から 1 点きざみ (93・96 点を除く)
	iBT	～57	58～60	61～64	65～71	72～78	
英語	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分		外国語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（ドイツ語）の中から2単位 成績評価					備考
ドイツ語	-11 以下	-1～-10	合格点～+9	+10～+19	+20 以上	ドイツ語技能検定 3 級 ①可 (合格点-10 まで) →素点 60 点から 1 点きざみ ②良 (合格点+9 まで) →素点 70 点から 1 点きざみ ③優 (合格点+19 まで) →素点 80 点から 1 点きざみ ④秀 (合格点+20 以上) →素点 90 点から 2 点きざみ	
	不可	①可	②良	③優	④秀		
	-21 以下	-11～-20	-1～-10	合格～+9	+10 以上	ドイツ語技能検定準 2 級 ①可 (合格点-20 まで) →素点 60 点から 1 点きざみ ②良 (合格点-10 まで) →素点 70 点から 1 点きざみ ③優 (合格点+9 まで) →素点 80 点から 1 点きざみ ④秀 (合格点+10 以上) →素点 90 点から 3 点きざみ	
	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分		外国語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（フランス語）の中から2単位 成績評価					備考
フランス語	-11 以下	-1～-10	合格点～+9	+10～+19	+20 以上	実用フランス語技能検定 3 級のスコアを基準とする。 ①可 (合格点-10 まで) →素点 60 点から以後 1 点きざみ ②良 (合格点+9 まで) →素点 70 点から以後 1 点きざみ ③優 (合格点+19 まで) →素点 80 点から以後 1 点きざみ ④秀 (合格点+20 以上) →素点 90 点から以後、合格点 (試験毎に異なる) +20 から満点までを 10 等分する	
	不可	①可	②良	③優	④秀		
	-21 以下	-11～-20	-1～-10	合格～+9	+10 以上	実用フランス語技能検定準 2 級のスコアを基準とする。 ①可 (合格点-20 まで) →素点 60 点から以後 1 点きざみ ②良 (合格点-10 まで) →素点 70 点から以後 1 点きざみ ③優 (合格点+9 まで) →素点 80 点から以後 1 点きざみ ④秀 (合格点+10 以上) →素点 90 点から以後、合格点 (試験毎に異なる) +10 から満点までを 10 等分する	
	不可	①可	②良	③優	④秀		
区分		外国語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（中国語）の中から2単位 成績評価					備考
中国語	～(合格点-11)	(合格点-10)～(合格点-1)	合格点～(合格点+9)	(合格点+10)～(合格点+19)	(合格点+20)～	日本中国語検定協会主催中国語検定試験 3 級を基準とする。3 級の合格基準は、筆記 65 点、ヒアリング 65 点の計 130 点。これを 100 点満点に換算して、65 点を合格基準とする。	
	不可	①可	②良	③優	④秀	①可 (合格点-10) →素点 60 点から以後 1 点きざみ ②良 合格点 →素点 70 点から以後 1 点きざみ ③優 (合格点+10) →素点 80 点から以後 1 点きざみ ④秀 (合格点+20) →素点 90 点から以後満点までを 10 等分する	

区分	外国語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（スペイン語）の中から2単位					備考
	成績評価					
スペイン語	5級不合格	5級合格	4級合格	3級合格	2級以上合格	スペイン語技能検定試験 ①5級不合格 ②5級合格 ③4級合格 ④3級合格 ⑤2級以上合格
	①不可	②可	③良	④優	⑤秀	
区分	外国語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（ロシア語）の中から2単位					備考
	成績評価					
ロシア語	総得点の50%未満	総得点の50%以上60%未満	総得点の60%以上70%未満	総得点の70%以上80%未満	総得点の80%以上	ロシア語能力検定試験3級受験者 ＊最終評価点数は不可が60等分、可、良、優、秀が10等分して決める。
	不可	可	良	優	秀	
	総得点の30%未満	総得点の30%以上40%未満	総得点の40%以上50%未満	総得点の50%以上60%未満	総得点の60%以上	ロシア語能力検定試験2級受験者 ＊最終評価点数は不可が60等分、可、良、優、秀が10等分して決める。
	不可	可	良	優	秀	
区分	外国語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（韓国語）の中から2単位					備考
	成績評価					
韓国語 (朝鮮語)	総得点の50%未満	総得点の50%以上60%未満	総得点の60%以上70%未満	総得点の70%以上80%未満	総得点の80%以上	(ハングル能力検定準2級受験者) ＊最終評価点数は不可が60等分、可、良、優、秀が10等分して決める。
	不可	可	良	優	秀	
	~149	150~159	160~169	170~179	180~189	(韓国語能力試験Ⅱ受験者) 190点以上は100点とする。 ①可 →素点60点から以後1点きざみ ②良 →素点70点から以後1点きざみ ③優 →素点80点から以後1点きざみ ④秀 →素点90点から以後1点きざみ
	不可	①可	②良	③優	④秀	

(注) 語学研修時の学年の上級年次に配当される科目を申請することはできない。

(注) 一度申請した語学検定試験の成績は、別科目で再度申請することはできない。

4. 9月卒業について

9月卒業は、過年度学生が前期科目の合格によって、卒業要件を満たした場合に対象となります。卒業要件を満たした学生は、通年科目を履修中であっても卒業することになります。

なお、夏季集中講義（8月・9月）の科目は、9月卒業の対象科目とはなりませんので、注意してください。

5. 早期卒業について

本学に3年以上在学した者が卒業要件として定める単位（卒業所要単位）を優秀な成績で修得したと認められる場合には、4年未満の在学での卒業（早期卒業）が認められます。特に学部・大学院（博士前期課程及び専門職学位課程）5年一貫教育プログラム等により大学院への進学を考えている学生はよく確認してください。

[要件]

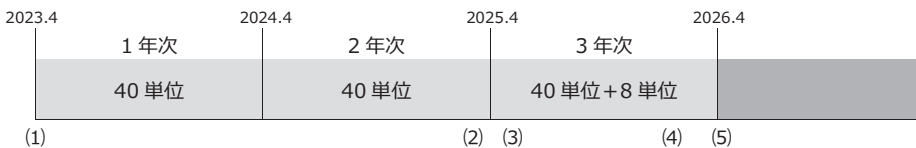
- ①本学に3年以上在学していること。（※休学期間は在学期間に含まれません）
- ②2年次（3年次の前期履修登録期限まで）に、早期卒業希望調書を提出していること。
- ③2年次終了時に、卒業所要単位の総単位数のうち「秀」及び「優」を合わせて80%以上有していること。
- ④3年次の1月末まで（3年次12月通知予定）に、早期卒業審査願を提出していること。
- ⑤3年次終了時に、卒業所要単位に算入される科目のうち124単位以上を修得し、卒業所要単位の総単位数のうち「秀」及び「優」を合わせて80%以上有していること。

※上記②及び③を満たしている場合、審査等を経た上で、早期卒業希望学生として認定されます。なお、早期卒業希望学生が3年次に履修可能な単位数は、キャップ制における上限40単位にかかわらず、48単位までとなります。また、3年次において、別に定める審査を経た上で、早期卒業が認められることとなります。

[注意事項]

- ・ 休学歴等の理由により、早期卒業の審査対象にならないことがあります。
- ・ 申請方法等については、12月頃にmanabaで通知します。

[早期卒業のイメージ（例：2023年4月入学生）]



- (1) 2023年4月 入学
- (2) 2025年3月末 早期卒業希望調査提出
- (3) 2025年4月 早期卒業対象審査 → 早期卒業希望学生として認定（結果通知）
（認定された場合、3年次の履修可能単位を8単位追加）
- (4) 2025年12月 早期卒業審査願提出 → 審査 → 早期卒業認定
（卒業所要単位124単位以上修得&「秀」及び「優」を合わせて80%以上）
- (5) 2026年3月 早期卒業

6. 学部・大学院（博士前期課程及び専門職学位課程） 5年一貫教育プログラムについて

プログラムの目的

「学部・大学院（博士前期課程及び専門職学位課程（以下「博士前期課程等」という））5年一貫教育プログラム」は、学部において所定の学業成績を修め早期卒業をする学生に大学院（博士前期課程等）での学修の機会を与えることにより、学部教育の活性化、高度な理論及び実践的能力を求める学生のニーズに応えることを目的としています。

プログラムの特色

「学部・大学院（博士前期課程等）5年一貫教育プログラム」において対象となる学生は、「研究者を目指す者」、「高度な専門知識と実践的な能力をもち企業等で働くことを目指す者」とし、本学の大学院アントレプレナーシップ専攻及び現代商学専攻のいずれにも進学することが可能です。

プログラムの内容

- ・「学部・大学院（博士前期課程等）5年一貫教育プログラム」は、早期卒業制度（3年間での卒業）及び大学院（博士前期課程等）（2年間）を組み合わせたシステムです。
- ・大学院（博士前期課程等）への進学は進学要件の審査で行い、入学試験は行いません。また、入学金も免除されます。
- ・本プログラムは早期卒業することが条件となるので、本プログラムにより大学院（博士前期課程等）に進学を希望する場合は、前項の早期卒業の要件と併せて、以下について確認してください。

現代商学専攻（博士前期課程）

夜間主コースにおいては、3年次終了時までには、コース基幹科目及び発展科目において、希望する大学院コースに対応する学科科目を、別表1に定める単位数以上修得していることを条件としています。なお、学科科目のうちコース基幹科目については、学科によって履修科目選択の方法が異なります。（別表2）

別表 1

コース基幹科目	コース発展科目
16 単位以上	28 単位以上

（例）経済学コースを希望の場合・・・
（経済学科の） コース基幹科目 16 単位以上
 ※学則に定める科目
（全学科の） コース発展科目 28 単位以上

【要件】（夜間主コース）

- ①早期卒業の要件を全て満たすこと。
- ②3年次終了時までには希望する現代商学専攻博士前期(修士)課程のコースに対応するコース基幹科目(学則に定める科目)16単位以上及びコース発展科目28単位以上を修得していること。
- ③3年次9月までに「専攻・コース所属希望調書」を提出していること。
- ④3年次1月末までに「専攻・コース所属願」を提出していること。

別表 2

夜間主コース「基幹科目」の履修方法について

※5年一貫教育プログラムにより現代商学専攻への進学を希望する場合の科目選択方法

経済学科								
夜間主コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	昼間コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	履修科目の選択方法
	経済学入門	2	I		マクロ経済学	4	II	
	経済理論	2	II		ミクロ経済学	4	II	
	経済と統計	2	II		統計学	2	I	
	経済史	2	II		国際経済学	2	II	
	応用ミクロ経済学	2	II		経済数学	2	II	
	経済学と現代	2	II		経済学入門Ⅰ	2	I・II	
					経済学入門Ⅱ	2	I・II	
	計	12			計	20		
網掛けされた昼間コース開講科目及び夜間主コース開講科目のうちから16単位以上								
商学科								
夜間主コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	昼間コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	履修科目の選択方法
	市場システム論Ⅰ	2	II		マーケティング入門	2	I・II	
					流通システム論	2	II	
	市場システム論Ⅱ	2	II		経営学原理Ⅰ	2	I・II	
	経営学原理	2	II		経営学原理Ⅱ	2	II	
	経営管理論	2	II		経営管理論	4	II	
	簿記原理	2	I		簿記原理	2	I	
					応用簿記	2	II	
	会計学原理	2	II		経営と会計	2	II	
計	12		計	18				
網掛けされた昼間コース開講科目及び夜間主コース開講科目のうちから16単位以上								
企業法学科								
夜間主コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	昼間コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	履修科目の選択方法
	法学	2	I		法学	2	I	
	憲法Ⅰ	2	II		憲法・基礎Ⅰ	2	I・II	
	行政法Ⅰ	2	II		憲法・基礎Ⅱ	2	II	
	民法Ⅰ	2	II		行政法Ⅰ	4	Ⅲ・Ⅳ	
					民法・基礎Ⅰ	2	I・II	
	刑法	2	II		民法・基礎Ⅱ	2	II	
	商法Ⅰ	2	II		刑法	4	II	
	計	12			商法Ⅰ	4	II	
計								
網掛けされた昼間コース開講科目のいずれか2科目8単位以上及びそれと同名の科目を除く夜間主コース開講科目をあわせて16単位以上								
社会情報学科								
夜間主コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	昼間コース 基幹科目	科目名	単位数	配当年次	履修科目の選択方法
					オペレーション・リサーチ	2	II	
					統計科学	2	II	
					経営システム基礎	2	II	
					情報システム管理論	2	II	
	知識科学基礎	2	II		知識科学基礎	2	II	
	計画数学	2	II		計画数学Ⅰ	2	II	
	社会情報入門	2	I		社会情報入門Ⅰ	2	I	
					社会情報入門Ⅱ	2	I・II	
情報処理基礎	2	II	情報処理基礎	2	I・II			
計	8		計	18				
網掛けされた昼間コース開講科目及び夜間主コース開講科目をあわせて16単位以上。ただし、5年一貫教育プログラムを希望した場合、夜間主コースの「オペレーション・リサーチ(発展科目)」は、履修できない。								

アントレプレナーシップ専攻の教育課程は、学部の教育を基礎としたものではなく、専門職大学院において体系的に教育することを柱としているため、学段落階では、履修上の条件は設けられていません。

[要件]

- ①早期卒業の要件を全て満たすこと。
- ②3年次9月までに「専攻・コース所属希望調書」を提出していること。
- ③3年次の1月末までに「専攻・コース所属願」を提出していること。

7. 学部学生による大学院科目履修制度について

本学に在学している学部学生で、本学大学院（現代商学専攻）への進学を志望する優秀な者について、その能力の高度な発展を期し、早期に大学院教育に接する機会を提供するため、教育上の特例措置として「学部学生による大学院科目履修制度」があります。

この制度は、早いうちから大学院の授業に触れさせることにより、大学院入学後に余裕をもって修士論文の執筆に集中させ、本人の努力によっては大学院を1年間の在学で修了することを可能とするものです。

具体的には、大学院の指定する授業科目（以下「大学院指定科目」という。）を学部4年次に履修して試験に合格した場合、大学院入学後において履修者からの申請により審査し、大学院の修了に必要な単位として認定されるものです。

大学院の修了単位に算入できるのは15単位までとし、認定される単位は大学院入学前3年以内に修得した単位となります。

◆「学部学生による大学院科目履修制度」の履修を認められる要件は次のとおりです。

[要件]

- 1. 本学大学院（現代商学専攻）への入学を希望していること。
- 2. 4年次生で、3年次終了までに、研究指導を除いて卒業所要単位を100単位以上修得していること。
- 3. 研究指導を履修していること。
- 4. 研究指導教員の推薦があること。
- 5. 留年した者は、留学等の特別の事情があると認められる場合を除き履修することができない。

上記の要件を満たし、「学部学生による大学院科目履修制度」の履修を希望する場合は、教務課大学院係に申し出てください。

[その他]

- ①大学院指定科目については、manabaの学内掲示板コースニュースを確認してください（3月頃予定）。
- ②大学院に入学後、1年間で修了するための要件として、「大学院学則第27条第1項」より、大学院指定科目を最低8単位以上修得する必要があります。

8. 副専攻プログラムについて

概要

2 年次以上の学生で希望する者は、副専攻プログラムに所属することができます。副専攻プログラムは、所属する学科以外の専門分野の体系的な学習を促すとともに、その学習成果を認証します。

種類

副専攻名			目的
グローバル教育グローバルマネジメント副専攻プログラム (GMP)			実社会で役立つビジネス教育や語学教育の伝統と、豊富な産官学のネットワークを活かした、戦略的なカリキュラムで学ぶ、地域に軸足を置いて世界で活躍するリーダーを育成するプログラム
小樽商科大学副専攻プログラム	学科等提供型	経済学	経済学に関する基礎的な知識を得ること
		ビジネス法務	ビジネス法務に関する基礎的な知識を得ること
		経営情報	経営情報学に関する基礎的な知識を得ること
	学科等横断提供型	アカウンティング	会計に関する幅広い視野と問題解決能力、会計の理論に関する専門知識を学び、会計関連分野をより体系的に学ぶこと
小樽商科大学アントレプレナーシップ副専攻プログラム			産業・経済の活性化を最優先課題とする北海道において、北海道の資源や地域特性を理解し、イノベーションに資する多分野の知識を得るとともに、地域・企業等における新規事業開発や組織マネジメントなど、広く「革新」を実行しうる意識（アントレプレナーシップ）と能力を身につけることで、北海道の産業と経済の活性化に資する将来のビジネス・リーダー及びビジネス・イノベーターを育成すること

所属要件

GMP には、以下の所属要件があります。その他の副専攻については、成績等の要件はありませんが、卒業所要単位以上の単位修得が必要となります。申請方法等の詳細は、manaba に掲示します。

GMP 所属要件
<p>本学商学部 に在籍する 2 年次以上の学生で、本学学部のいずれかの学科に所属し、かつ以下の要件をすべて満たすこと。</p> <p>(1) 所属手続時の GPA が原則として 2.5 以上の者。</p> <p>(2) 優れた語学力を有する者で、次の①から④に掲げる基準のうち、原則としていずれか一の基準を満たす成績を有していること。</p> <p>① IELTS 5 以上</p> <p>② TOEIC 550 以上 (TOEIC IP のスコアを含む)</p> <p>③ TOEFL PBT 480 以上又は IBT 56 以上 (TOEFL ITP のスコアを含む)</p> <p>④ 実用英語技能検定 2 級以上</p>

9. 長期履修学生制度について

夜間主コースでは、「長期履修学生制度」を導入しています。

(1) 長期履修学生制度とは

職業を有している等特別の事情で、通常の学生よりも1年間に修得可能な単位数や研究指導を受ける時間が制限されるため、夜間主コースの修業年限である4年を超えて在学しなければ卒業することができないと考える者に対し、申請に基づき大学が審査して修業年限を超えて在学し、計画的に教育課程を履修することを認める制度です。

ただし、審査の結果、認められない場合もありますので留意してください。

(2) 長期履修学生対象者

長期履修学生として申請できる者は、次のいずれかに該当する者です。

- ① 夜間主コースに所属し、1日8時間週3日以上勤務し、6ヶ月以上にわたり継続して雇用されている者
- ② 夜間主コースに所属し、1日4時間週4日以上勤務し、6ヶ月以上にわたり継続して雇用されている者
- ③ 夜間主コースに所属し、家事従事者、育児又は介護にあたっている者
- ④ 特別修学支援室に登録している者
- ⑤ その他、①～④に準ずる者であると教務委員会で判断した者

※長期履修学生として申請を希望する在學生は、卒業を予定する年度を除き8月末日又は2月末日までに申請しなければなりません。例えば、2024年度入學生は、2027年度(2028年3月)が卒業を予定する年度です。2026年度2月末日(2027年2月末)までに申請しなければなりません。

(3) 長期履修学生としての最長在学年限

長期履修学生として、修業年限を超えて履修できる期間の限度は4年とし、6ヶ月を単位として認めます。最長在学年限は8年です(休学の期間を除きます)。最長在学年限を超えては在学できません。

(4) 長期履修学生としての在学期間の変更

長期履修学生として認められた在学期間の延長や短縮については、相当の理由があると認められる場合のみ、長期履修学生として認められた卒業を予定する年度を除き1回に限り変更することができます。

ただし、最長在学年限を超える延長は認められません。

※在学期間を短縮する場合は、卒業を希望する前年度の提出期限までに、長期履修学生期間変更申請書を提出しなければなりません。例えば、2026年度3月(2027年3月)に卒業を希望する場合は、2025年度2月末日(2026年2月末)までに長期履修学生期間変更申請書を提出する必要があります。

詳しくは教務課学部教務係にお問い合わせください。

(5) 学科所属について

1年次に長期履修学生として認められた場合でも、2年次にはいずれかの学科に所属する必要があります。12月にオンデマンドにて学科オリエンテーションを開催しますので、必ず聴講し、期限までに指定の方法により希望する学科を登録してください。詳細はmanabaにて通知します。

(6) 研究指導の履修について

長期履修学生が、研究指導を履修するためには46単位(卒業所要単位数に算入される単位に限る)以上修得しなければなりません。46単位を修得した翌年度から履修することができます。

(7) 長期履修学生として認められた期間の授業料

長期履修学生として認められた場合は、通常の学生が修業年限（4年間）に支払う授業料の額を、長期履修学生として認められた在学期間に分割して支払うことになります。

（例）在学期間を6年として認められた場合

【通常の学生】

133,950円を毎学期支払い、標準修業年限の4年間（8学期）で、総額の1,071,600円を支払うことになります。

【在学期間を6年として認められた長期履修学生】

通常の学生が標準修業年限の4年間に支払う授業料の総額、1,071,600円を6年間（12学期）で除いた89,300円を毎学期支払うことになります。

※ただし、授業料の額が改定された場合は、改訂後の金額をもとに再計算されます。

(8) 長期履修学生として認められた在学期間を短縮して卒業することになった場合の授業料

短縮の期間に応じて再計算した額を支払うこととなります。なお、短縮後の額から短縮前の額を控除した額に、短縮が認められた年度以前の長期在学期間の年数（長期在学期間に6ヶ月がある場合は2分の1とする）を乗じて得た額を、短縮が認められるときに支払うこととなります。

※年度内に授業料の差額を納入する必要があります。差額が高額になる可能性がありますので、留意してください。

(9) 長期履修学生として認められた期間が満了してもなお卒業できない場合の授業料

通常の学生が支払うべき授業料の額を毎学期に支払うこととなります（ただし、最長在学年限を超えて在学することはできませんので、在学期間が最長在学年限に満たない者に限ります）。

(10) 長期履修学生の申請期間等

申請期間

- ①入学予定者は、入学手続案内で定めた日まで
- ②在學生は、卒業を予定する年度を除き、8月末日又は2月末日まで

必要書類

- ①長期履修学生申請書
- ②在職証明書又は在職が確認できる書類（職業を有している者）
- ③母子手帳、介護者の診断書など（育児・介護等を行う者）
- ④戸籍謄本など（家事従事者）
- ⑤医師の診断書に基づく特別修学支援室長の意見書など（特別修学支援室に登録している者）
- ⑥その他本学が必要と認める書類

詳細はmanabaで通知します。

VI. 教育職員免許状

1. 本学で取得できる免許状の資格

教育職員免許状の取得を希望する学生のために、教職課程を設けています。本学で教育職員免許状を取得するには、卒業要件に加えて免許状に必要な単位を修得し、基礎資格として学士の学位を有していなければなりません。本学で取得できる免許状の種類は次表のとおりで、各免許状の令和6年度入学生の履修方法は、別表Ⅰ～Ⅵに記載しています。

免許状の種類	履修方法	備考
高等学校教諭一種免許状「商業」	別表Ⅰ	※入学年度によって履修方法が異なるので注意してください。該当入学年度以外の別表は、大学ホームページ「在学生」→教務情報「教職課程」を参照してください。
高等学校教諭一種免許状「英語」	別表Ⅱ	
中学校教諭一種免許状「英語」	別表Ⅲ	
高等学校教諭一種免許状「情報」	別表Ⅳ	
中学校教諭一種免許状「社会」	別表Ⅴ	
高等学校教諭一種免許状「公民」	別表Ⅵ	

(注)

1. 中学校教諭の免許状を取得する場合は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（介護等体験特例法）」により、「特別支援学校（盲・聾・養護学校）及び社会福祉施設における「介護等体験」の実習が義務付けられています。
2. 「社会」と「公民」の「教科に関する科目」で重複して開設している授業科目は、それぞれの表において併用できるため、「社会」と「公民」の免許状を同時取得し易くなっています。
3. 中一種免「英語」及び高一種免「英語」取得希望者の注意事項
 学則改正に伴い、入学年度により、英語の「教科に関する科目」の科目配置が異なります。詳細は、「5. 教職関係の科目対応表について（2）「英語」の「教科に関する科目」」を参照してください。
 なお、2019年度から、商学科に「英語専修」が設けられました（2019年度入学生から対象）。英語専修では、今まで卒業所要単位に含むことのできなかつた英語の教科に関する科目も卒業所要単位に含むことができます。所属希望者は、学科所属の申請の際に商学科英語専修を選択してください。
4. 北海道教育大学との単位互換による教職科目の単位修得について
 令和6年度の実施予定はありません。

・教職課程の履修を希望する学生は、「**教職課程ガイダンス（4月実施予定）**」に必ず出席し、履修方法に関する説明を受けた上で、最短修業年限（4年）で必要な単位を修得できるように、1年次から計画的に履修を進めてください。

・教職課程ガイダンスの開催日程等については、manabaでお知らせします。

2. 教育実習について

教育実習とは、専門職としての教職を志望する学生が、大学の授業で習得した知識・技能を基礎として、大学の授業だけでは得ることのできない教師としての諸知識・技能を身につけるために、実際の学校現場で教育実践を通して集中的に学習するものです。教員免許状を取得するための必修科目（4年次履修）であり、中学の教員免許状を取得するには、3週間（実質15日間）の教育実習を実施することになっています。

【教育実習の受講資格】

教育実習（4年次）の履修においては、以下を基本的な条件とします。

（2019年度以降入学生）

- ① 3年次までの「教育の基礎的理解に関する科目等」の修得単位数が、所要単位数の2分の1以上である。
- ② 「教科及び教科の指導法に関する科目」の修得単位数が、所要単位数の2分の1以上であり、免許状の教科教育法を修得済みである。
- ③ 4年次の履修登録で、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」の所要単位数が修得可能である。

（2018年度以前入学生）

- ① 3年次までの「教職に関する科目」の修得単位数が、所要単位数の2分の1以上であり、免許状の教科教育法を修得済みである。
- ② 「教科に関する科目」の修得単位数が、所要単位数の2分の1以上である。
- ③ 4年次の履修登録で、「教職に関する科目」及び「教科に関する科目」の所要単位数が修得可能である。

※特別な事情により上記の条件を満たさない場合は、教育実習担当教員及び学部教務係に申し出てください。

【履修等の日程】詳細はmanabaで通知します

	時期	実施事項
教育実習受講 前年度	4月頃	「教育実習履修予定調」の提出 希望者は、受入校の内話を得た上で、「教育実習履修予定調」を期限までに提出してください。提出された予定調を基に、大学から受入校に対して受入の依頼文書を送付します。
	11月頃	第1回事前指導 教育実習を受けるための心構えを学びます。また、当該年度に実習を受けた経験者の声を聞くことが出来ます。（レポート課題あり）
教育実習受講 当年度	4月頃	履修登録 「教育実習」、「事前・事後指導」を必ず登録してください。
		第2回事前指導 教育実習を受けるための具体的な指導が行われます。
		「調査書」の提出 教育実習校に送付する重要な書類です。
教育実習前	事前確認等 教育実習開始の3週間程度前に実習校へ連絡をとり、オリエンテーションの日程などを改めて確認するとともに、指導教諭に挨拶をしておくことが望まれます。	
11月頃	事後指導 教育実習のまとめ及び次年度の実習予定者にアドバイスをを行います。	

3. 介護等体験について

平成9年6月18日にいわゆる「介護等体験特例法」が公布されました。正式には、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」といいます。

介護等体験制度は、平成10年4月1日から実施され、平成10年度入学者からは、小学校・中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする場合、原則として7日間の介護体験が必要になります。なお、必要日数「7日間」の内訳は、特別支援学校で連続する2日間、福祉施設で連続する5日間です。

【申し込み方法】詳細は manaba で通知します

提出書類等	介護等体験申込書、体験費用：10,000円（予定）
申込期間	4月1日（月）～4月5日（金）（予定）
その他注意事項	<ul style="list-style-type: none">・「学研災付帯賠償責任保険」に必ず加入してください。※未加入の場合は、学生支援係で加入手続きを行ってください。・事前指導（6月または7月に実施予定）に必ず参加してください。・4月に実施予定の大学の健康診断を必ず受診してください。※何らかの事情で上記を受診できない場合は、個人で受診してください。

4. 免許状の申請について

卒業（3月卒業）までに、教育職員免許状の取得のための所要の単位を修得し、申請資格を得た学生に対して、本学で一括申請を行います（9月卒業の場合は、個人申請となります）。一括申請を希望する場合は、manabaの通知に注意し、必要手続きを行ってください。手続きは、卒年次の10月～1月にかけて随時行われます。

※3月卒業の学生が一括申請をしない場合は個人申請となりますが、免許状の授与が5月末から6月以降となるため、4月の採用には支障をきたします。4月からの本採用者若しくは期限付採用等予定者については、一括申請から漏れることのないよう注意してください。

【申請の流れ】詳細は manaba で通知します

時期	実施事項
10月上旬 （予定）	「教育職員免許状一括申請」の申込 大学が免許状一括申請予定者の名簿情報を北海道教育委員会に提出するにあたり、必要な情報を回答します。中学校の免許を申請する場合は、介護等体験証明書を学部教務係に提出してください。
12月上旬	教育職員免許状授与申請書の配付 申込名簿に基づき、北海道教育委員会から大学に教育職員免許状授与申請書が送付されます。教育職員免許状授与申請書が大学に届き次第、manaba 教職コース（個別指導コレクション）で配付します。
1月上旬	教育職員免許状授与申請書提出 教育職員免許状授与申請書に必要事項を記入して、学部教務係に提出します。【締切厳守】このとき、北海道収入証紙（免許状1件につき3,300円分）が必要です。
3月 学位記授与式	免許状交付 学位記授与式の日に関許状をお渡しします。

5. 教職関係の科目対応表について

※詳細については、大学ホームページに掲載している科目対応表を参照してください。

(1) 「教職に関する科目」

科目名の変更

平成 30 年度以降入学者		平成 29 年度以前入学者	
授業科目	単位	授業科目	単位
教育原理	2	教育の歴史	2

科目の新設

以下の科目は、教員職員免許法改正に伴い、2019 年度から新設された科目です。
これらの科目は 2019 年度以降の入学生の履修可能です。

科目名	科目区分	単位数	備考
特別支援教育	教職共通科目	1	2019 年度以降の入学生の
「総合的な学習の時間」指導法	教職共通科目	1	み履修可能
英語科教育法Ⅳ	教職共通科目	2	

(2) 「商業」の「教科に関する科目」

科目名の変更

●昼間コース

令和 4 年度以降入学者		令和 3 年度以前入学者	
授業科目	単位	授業科目	単位
マーケティング入門	2	流通システム論Ⅰ	2
流通システム論	2	流通システム論Ⅱ	2
マーケティング戦略	4	マーケティング	4
対応科目無し		貿易論	4
地域ブランド論	2	対応科目無し	
マーケティング各論Ⅰ	2	チャネル・マネジメント	4
マーケティング各論Ⅱ	2		

●昼間コース

平成 30 年度以降入学者		平成 29 年度以前入学者	
授業科目	単位	授業科目	単位
企業と社会	4	環境経営論	4
社会計画Ⅰ	2	社会計画	4
社会計画Ⅱ	2		

(3)「情報」の「教科に関する科目」

科目名の変更

●昼間コース

令和2年度以降入学者		2019年度以前入学者	
授業科目	単位	授業科目	単位
情報処理Ⅰ	2	情報処理	4
情報処理Ⅱ	2		

●昼間コース

平成30年度以降入学者		平成29年度以前入学者	
授業科目	単位	授業科目	単位
計画科学Ⅰ	2	計画科学	4
計画科学Ⅱ	2		
意思決定論Ⅰ	2	意思決定論	4
意思決定論Ⅱ	2		

(4)「社会」の「教科に関する科目」

科目の新設

●昼間コース

令和5年度

科目名	科目区分	単位数	配当年次
統計演習	経済学科基幹科目	2	Ⅱ

科目の廃止

●昼間コース

令和5年度

科目名	科目区分	単位数	配当年次
経済データ解析論	経済学科発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ

(5)「公民」の「教科に関する科目」

科目の新設

●昼間コース

令和5年度

科目名	科目区分	単位数	配当年次
統計演習	経済学科基幹科目	2	Ⅱ

科目の廃止

●昼間コース

令和5年度

科目名	科目区分	単位数	配当年次
経済データ解析論	経済学科発展科目	4	Ⅲ・Ⅳ

6. 「教職共通科目」履修上の注意事項

教職共通科目は、開講時間に関わらず昼間・夜間主コース共通科目であり、どちらの学生も履修できます。成績上は昼間コース科目となりますが、夜間主コースの学生がこれを履修する場合、昼間コース科目の履修上の上限60単位には含まれません。また、2クラスに分かれて行われる科目（A・B開講）は、どれか一つのクラスしか履修できません。

7. 別表

令和6年度入学生用 別表（夜間主コース）

免許状の種類	履修方法
高等学校教諭一種免許状「商業」	別表Ⅰ
高等学校教諭一種免許状「英語」	別表Ⅱ
中学校教諭一種免許状「英語」	別表Ⅲ
高等学校教諭一種免許状「情報」	別表Ⅳ
中学校教諭一種免許状「社会」	別表Ⅴ
高等学校教諭一種免許状「公民」	別表Ⅵ

※ 入学年次以外の別表については、大学ホームページの「教職課程ホームページ」を参照してください。

別表（Ⅰ）高等学校教諭一種免許状（商業）取得希望者の単位修得方法（夜間主コース）

令和4年度以降入学者

○免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	必修	選択	
日本国憲法	2	憲法Ⅰ	2		
体育	2	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ 健康スポーツⅡc（スキー） 生活と健康	2	1 1 1	健康スポーツから1科目以上選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡB1 英語ⅡB2	1 1		
教理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	2	情報機器概論	2		

○教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		
	総合的な探求の時間の指導法		「総合的な学習の時間」指導法	1		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	特別活動の指導法	8	特別活動論	1		
	教育の方法及び技術		教育方法	2		「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む。
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導	2		「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」を含む。
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実践に関する科目	教育実習	3	事前・事後指導	1		
	教職実践演習		2	2		
合計		23		24	24	単位必修

○教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	効果に関する専門的事項 商業の関係科目	20 単位	市場システム論Ⅰ		2	}	選択必修 18 単位以上選択 (昼間コース科目) (昼間コース科目) (昼間コース科目)
			市場システム論Ⅱ		2		
			経営学原理		2		
経営管理論				2			
簿記原理				2			
金融システム論Ⅰ				2			
金融システム論Ⅱ				2			
マーケティング入門				2			
流通システム論				2			
労務管理論				4			
経営史					2		
財務会計概論			2				
会計学原理			2				
原価計算概論			2				
管理会計概論			2				
国際市場論			2				
現代企業管理論Ⅰ			2				
現代企業管理論Ⅱ			2				
	職業指導		2				
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4 単位	商業科教育法Ⅰ 商業科教育法Ⅱ	2 2			
要修得単位		24		6	18		

○大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目		備考
	授業科目	単位数 必修 選択	
大学が独自に設定する科目	「教育の基礎的理解に関する科目等」 「教科及び教科の指導法に関する科目」 参照	12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて 12単位以上 を修得すること。

備考：

- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、免許法施行規則に定める最低修得単位数(23単位)を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、別表(Ⅰ)～(Ⅵ)において重複して開設している授業科目については、それぞれの表において併用できる。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」で24単位を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」は、上記に掲げる科目のほか、昼間コース履修の手引きの別表(Ⅰ)を併用して単位を修得することができる。
- 「免許法施行規則第66条の6に基づき本学が開設する科目」(※「情報機器概論」を除く)及び「教科及び教科の指導法に関する科目」(※「職業指導」「商業科教育法Ⅰ・Ⅱ」を除く)は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。

別表（Ⅱ）高等学校教諭一種免許状（英語）取得希望者の単位修得方法（夜間主コース）

令和4年度以降入学者

○免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	必修	選択	
日本国憲法	2	憲法Ⅰ	2		
体育	2	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ 健康スポーツⅡc（スキー） 生活と健康		1 1 1	健康スポーツから1科目以上選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡB1 英語ⅡB2	1 1		
教理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	2	情報機器概論	2		

○教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		
	道徳の理論及び指導法		道徳教育		2	※1
道徳 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教師職掌に関する科目	総合的な探求の時間の指導法		「総合的な学習の時間」指導法	1		
	特別活動の指導法		特別活動論	1		
	教育の方法及び技術	8	教育方法	2		「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む。
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導	2		「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」を含む。
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実践に関する科目	教育実習	3	事前・事後指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 2	2	※1
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2		
合計単位		23		24	4	24単位修

○教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	言語学概論		2	選択科目から2科目4単位を必修とする。	
			英語学概論Ⅰ	2			
			英語学概論Ⅱ	2			
			英語学概論Ⅲ	2			
	英語文学	20 単位	英語学Ⅰ		2		
英語学Ⅱ				2			
英文学史Ⅰ			2				
英文学史Ⅱ			2				
英語コミュニケーション	20 単位	英文学概論Ⅰ	2				
		英文学概論Ⅱ	2				
		英文学Ⅰ	2				
		英文学Ⅱ	2				
		英作文Ⅰ	2	2			
異文化理解	20 単位	英作文Ⅱ		2			
		英語コミュニケーションⅠ	2				
		英語コミュニケーションⅡ	2				
		英語コミュニケーションⅢ	2				
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4 単位	英語コミュニケーションⅣ	2				
		比較文化Ⅰ	2	2			
		比較文化Ⅱ	2	2			
		比較文化Ⅲ	2	2			
要修得単位	24	比較文化Ⅳ	2	2			
		英語科教育法Ⅰ	2				
		英語科教育法Ⅱ	2				
		英語科教育法Ⅲ	2				
			英語科教育法Ⅳ	2		24	4

○大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	
	授業科目	単位数			
			必修	選択	
大学が独自に設定する科目	「教育の基礎的理解に関する科目等」 「教科及び教科の指導法に関する科目」 参照		12		最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて <u>12単位以上</u> を修得すること。

備考：

1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。ただし、「教員法施行規則第66条の6に基づき本学が開設する科目」(※「情報機器概論」を除く)、および「教科及び教科の指導法に関する科目」の「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「比較文化Ⅰ」、「比較文化Ⅱ」は、卒業所要単位と併用できる。

なお、商学科英語専修にあつては、「教員法施行規則第66条の6に基づき本学が開設する科目」(※「情報機器概論」を除く)、および「教科及び教科の指導法に関する科目」(「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を除く)を卒業所要単位と併用できる。

2. 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、免許法施行規則に定める最低修得単位数(23単位)を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。

3. 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち「道徳教育」、「教育実習Ⅰ」は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含めることができる(※1)。

4. 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち24単位を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。

5. この表の各科目は、別表(Ⅲ)と併用できる。なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、別表(Ⅰ)～(Ⅵ)において重複して開設している授業科目については、それぞれの表において併用できる。

別表（Ⅲ）中学校教諭一種免許状（英語）取得希望者の単位修得方法（夜間主コース）

令和4年度以降入学者

○免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	必修	選択	
日本国憲法	2	憲法Ⅰ	2		
体育	2	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ 健康スポーツⅡc（スキー） 生活と健康		1 1 1	健康スポーツから1科目以上選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡB1 英語ⅡB2	1 1		
教理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	2	情報機器概論	2		

○教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		
	道徳の理論及び指導法		道徳教育	2		
道徳 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教員研修に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	10	「総合的な学習の時間」指導法	1		
	特別活動の指導法		特別活動論	1		
	教育の方法及び技術		教育方法	2		「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む。
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導	2		「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」を含む。
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実践に関する科目	教育実習	5	事前・事後指導	1		
	教職実践演習		2	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	2 2	
合計単位		27		28		28単位修

○教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	英語学	20 単位	言語学概論		2	選択科目から2科目4単位を必修とする。
			英語学概論Ⅰ	2		
	英語学概論Ⅱ		2			
	英語学概論Ⅲ		2			
	英語学Ⅰ			2		
英語学Ⅱ			2			
英語文学	英文学史Ⅰ		2			
	英文学史Ⅱ			2		
	英文学概論Ⅰ		2			
	英文学概論Ⅱ			2		
英語コミュニケーション	英作文Ⅰ		2			
	英作文Ⅱ			2		
	英語コミュニケーションⅠ		2			
	英語コミュニケーションⅡ			2		
	英語コミュニケーションⅢ			2		
異文化理解	英語コミュニケーションⅣ			2		
	比較文化Ⅰ		2			
	比較文化Ⅱ			2		
	比較文化Ⅲ			2		
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ			2		
	英語科教育法Ⅱ		2			
	英語科教育法Ⅲ		2			
	英語科教育法Ⅳ		2			
要修得単位		28		24	4	

○大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数		
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	「教育の基礎的理解に関する科目等」 「教科及び教科の指導法に関する科目」 参照		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて 4単位以上 を修得すること。

備考：

- それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに、上記単位数を修得しなければならない。ただし、「教員法施行規則第66条の6に基づき本学が開設する科目」(※「情報機器概論」を除く)、および「教科及び教科の指導法に関する科目」の「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「比較文化Ⅰ」、「比較文化Ⅱ」は、卒業所要単位と併用できる。
なお、商学科英語専修にあっては、「教員法施行規則第66条の6に基づき本学が開設する科目」(※「情報機器概論」を除く)、および「教科及び教科の指導法に関する科目」(「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を除く)を卒業所要単位と併用できる。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、免許法施行規則に定める最低修得単位数(27単位)を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち28単位を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- この表の各科目は、別表(Ⅱ)と併用できる。なお、「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、別表(Ⅰ)～(Ⅵ)において重複して開設している授業科目については、それぞれの表において併用できる。
- 特別支援学校(盲学校、聾学校及び養護学校)並びに社会福祉施設等において、「介護等体験」を行わなければならない。

別表（Ⅳ）高等学校教諭一種免許状（情報）取得希望者の単位修得方法（夜間主コース）

令和6年度以降入学者

○免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	必修	選択	
日本国憲法	2	憲法Ⅰ	2		
体育	2	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ 健康スポーツⅡc（スキー） 生活と健康	2	1 1 1	健康スポーツから1科目以上選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡB1 英語ⅡB2	1 1		
教理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	2	情報機器概論	2		

○教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		
	総合的な探求の時間の指導法		「総合的な学習の時間」指導法	1		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	特別活動の指導法	8	特別活動論	1		
	教育の方法及び技術		教育方法	2		「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む。
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導	2		「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」を含む。
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実践に関する科目	教育実習	3	事前・事後指導	1		
	教職実践演習		2	2		
	教職実践演習（中・高）		2			
合計単位		23		24		24単位修

○教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理	社会情報論 組織情報論 情報と職業	2 2	2	(昼間コース) (昼間コース) (昼間コース) (昼間コース) (昼間コース) (昼間コース)
		コンピュータ・情報処理	情報処理基礎 情報処理 情報数理 ソフトウェア科学 計画科学 意思決定論Ⅰ 意思決定論Ⅱ	2 2 4 2 2 2	2	
		情報システム	情報システム論 情報システム構築論 情報システム管理論 経営システム基礎 組織コミュニケーション論	2 2 2 2 2	2	
		情報通信ネットワーク	コンピュータネットワーク論	2		
		マルチメディア表現・マルチメディア技術	デジタルデザイン論 オペレーションズ・リサーチ	2 2		
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	情報科教育法Ⅰ 情報科教育法Ⅱ	2 2		
	要修得単位	24		24		

○大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数		
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	「教育の基礎的理解に関する科目等」 「教科及び教科の指導法に関する科目」 参照		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて 12単位以上 を修得すること。

備考：

- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、免許法施行規則に定める最低修得単位数（23単位）を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、別表（Ⅰ）～（Ⅵ）において重複して開設している授業科目については、それぞれの表において併用できる。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」で24単位を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「免許法施行規則第66条の6に基づき本学が開設する科目」（※「情報機器概論」を除く）及び「教科及び教科の指導法に関する科目」（※「情報科教育法Ⅰ・Ⅱ」を除く）は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」は、昼間コース履修の手引きの別表（Ⅳ）を併用して単位を修得することができる。

別表（Ⅴ）中学校教諭一種免許状（社会）取得希望者の単位修得方法（夜間主コース）

令和4年度以降入学者

○免許法施行規則第6条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	必修	選択	
日本国憲法	2	憲法Ⅰ	2		
体育	2	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ 健康スポーツⅡc（スキー） 生活と健康	2	1 1 1	健康スポーツから1科目以上選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡBⅠ 英語ⅡBⅡ	1 1		
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	2	情報機器概論	2		

○教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育	2		
	総合的な学習の時間の指導法		「総合的な学習の時間」指導法	1		
	特別活動の指導法		特別活動論	1		
	教育の方法及び技術		教育方法	2		「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む。
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導	2		「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」を含む。
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2				
教育実践に関する科目	教育実習	5	事前・事後指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 2 2		
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2		
合計単位		27		28		28単位必修

○教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目				備考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史 外国史	2 2				
		地理学（地誌を含む。）	地理学	2				
	「法律学，政治学」	法学 国際法 民法Ⅰ 刑法 行政法Ⅰ 憲法Ⅱ 民法Ⅱ 商法Ⅰ 商法Ⅱ 知的財産法 労働法 社会保障法 国際経済法	2		2	2	※1 ※1	
		「社会学，経済学」	経済学入門 経済理論 経済学と現代 経済と統計 経済史 経済思想史 応用ミクロ経済学 公共政策 金融経済 国際経済と現代	2 2		2	2 2 2 2 2	※1 ※1
			「哲学，倫理学，宗教学」	哲学 倫理学 宗教学（昼間コース）			2 2 2	} 3科目から2科目選択必修
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 社会科・公民科教育法Ⅰ 社会科・公民科教育法Ⅱ	2 2 2 2						
要修得単位		28		20	8		28単位必修	

○大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数		
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	「教育の基礎的理解に関する科目等」 「教科及び教科の指導法に関する科目」 参照		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて 4単位以上 を修得すること。

備考：

- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、免許法施行規則に定める最低修得単位数（27単位）を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「民法Ⅰ」、「行政法Ⅰ」、「経済学と現代」、「応用ミクロ経済学」は、いずれか2科目（4単位）を選択必修とする（※1）。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち28単位を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、別表（Ⅰ）～（Ⅵ）において重複して開設している授業科目については、それぞれの表において併用できる。
- 「免許法施行規則第66条の6に基づき本学が開設する科目」（※「情報機器概論」を除く）及び「教科及び教科の指導法に関する科目」（※日本史，外国史，地理学，「社会科教育法Ⅰ・Ⅱ」，「社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」を除く）は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」は、昼間コース履修の手引き別表（Ⅴ）を併用して単位を修得することができる。
- 特別支援学校（盲学校，聾学校及び養護学校）並びに社会福祉施設等において、「介護等体験」を行わなければならない。

別表（Ⅵ）高等学校教諭一種免許状（公民）取得希望者の単位修得方法（夜間主コース）

令和4年度以降入学者

○免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	必修	選択	
日本国憲法	2	憲法Ⅰ	2		
体育	2	健康スポーツⅠ 健康スポーツⅡ 健康スポーツⅡc（スキー） 生活と健康	2	1 1 1	健康スポーツから1科目以上選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡB1 英語ⅡB2	1 1		
教理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作	2	情報機器概論	2		

○教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
科目	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		
	総合的な探求の時間の指導法		「総合的な学習の時間」指導法	1		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	特別活動の指導法	8	特別活動論	1		
	教育の方法及び技術		教育方法	2		「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む。
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導	2		「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」を含む。
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
	教育実践に関する科目		事前・事後指導	1		
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ	2	2	※1
	教育実習Ⅱ		2			
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2		
合計単位		23		24	2	24単位修

○教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目				備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修	選択必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	「法学, 政治学」	20 単位	法学	2			※2 ※2
			国際法	2			
	民法Ⅰ			2			
	刑法				2		
行政法Ⅰ				2			
憲法Ⅱ					2		
民法Ⅱ					2		
商法Ⅰ					2		
商法Ⅱ					2		
知的財産法					2		
労働法				2			
社会保険法				2			
国際経済法				2			
「社会学, 経済学」	経済学入門	2				※2 ※2	
	経済理論	2					
	経済学と現代		2				
	国際経済と現代				2		
	経済と統計				2		
	経済史				2		
	応用ミクロ経済学			2			
	経済思想史				2		
	公共政策				2		
	金融経済				2		
「哲学, 倫理学, 宗教学」	哲学			2	} 5科目から3科目選択必修		
	倫理学			2			
	宗教学 (昼間コース)			2			
	心理学Ⅰ			2			
	心理学Ⅱ			2			
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	4 単位	社会科・公民科教育法Ⅰ	2				
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2				
要修得単位		24		14	10		

○大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数		
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	「教育の基礎的理解に関する科目等」 「教科及び教科の指導法に関する科目」 参照		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて 12単位以上 を修得すること。

備考：

- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、免許法施行規則に定める最低修得単位数 (23 単位) を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含める。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、「教育実習Ⅰ」は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含めることができる (※1)。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「民法Ⅰ」、「行政法Ⅰ」、「経済学と現代」、「応用ミクロ経済学」は、いずれか2科目 (4 単位) を選択必修とする (※2)。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち24 単位を超えて修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位に含めることができる。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」のうち、別表 (Ⅰ) ~ (Ⅵ) において重複して開設している授業科目については、それぞれの表において併用できる。
- 「免許法施行規則第 66 条の 6 に基づき本学が開設する科目」 (※「情報機器概論」を除く) 及び「教科及び教科の指導法に関する科目」 (※「社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」を除く) は、それぞれ所属する学科の卒業所要単位と併用できる。
- 「教科及び教科の指導法に関する科目」は、昼間コース履修の手引き別表 (Ⅵ) を併用して単位を修得することができる。

教職免許

VII. 教務システム利用の手引き

ログインページ…小樽商科大学ホームページ メニュー → 学内・教務システム



●学務情報システム「Campus Square」

履修登録や学籍情報の登録を行います。

アクセスするには、学内ネットワークへの接続が必要です。

学内ネットワークへの接続については、情報総合センターのホームページ(<https://www.otaru-uc.ac.jp/center/index.html>)を確認してください。

●学修管理システム「manaba」

大学からの重要やお知らせや、授業に関するお知らせ・資料等が掲載されます。

学内ネットワークへの接続は不要です。

※Campus Square のパスワードが manaba に連携されますのでパスワードを変更される場合はご注意ください。

学務情報システム利用の手引き (学生版)



1. ログイン・学籍情報の登録について	135
2. シラバスの参照	139
3. 履修登録	142
4. 履修取消申請について	148
5. 成績の参照	150
6. 判定	152
7. Campus Square よくある質問	154

1. ログイン・学籍情報の登録について

Campus Square（キャンパススクエア）へは、以下の2カ所からアクセスできます。

○大学 HP トップ右上のメニューボタンから



○大学 HP 「在学生」のページ→「教務情報」から



※注意※

Campus Square は、学内ネットワーク環境でなければ使用できませんが、自分のパソコンやスマートフォンで SSL-VPN の設定を行うことで、学外からでも接続ができます。SSL-VPN の設定方法は、情報総合センターHP をご確認ください。

○大学情報総合センターHP



The screenshot shows the homepage of the University of Shizuoka Information Center. At the top, there is a navigation bar with links for HOME, 英語, 学生, 教職員, 情報システム, 情報総合センターについて, and 留学. Below the navigation bar is a banner image of a building. Underneath the banner is a row of service icons: a computer monitor, a Wi-Fi symbol, a VPN icon (a padlock with 'VPN' above it), a server rack labeled 'Office 備電機', a mail icon labeled '大学 メール', a flag labeled 'FAO', and a sign labeled '学内 限定'. A large grey arrow points from the VPN icon to a white box containing the text: 「VPN」アイコンをクリックする。 Below this box is a screenshot of the SSL-VPN service page. The page title is 'SSL-VPN'. It features a VPN icon and text explaining that SSL-VPN (Virtual Private Network) is a tool for secure access from outside the campus. It also provides instructions on how to use it, mentioning the need to install the Cisco AnyConnect app. At the bottom of the page, there is a section titled '【SSL-VPNマニュアル】' with four icons representing different devices: Android, iOS, Windows, and Mac. A 'TOP' link is visible in the bottom right corner.

① ユーザー名とパスワードを入力する（パスワードは、旧バージョンから変わりません）

ログイン画面



CAMPUSSQUAREへようこそ
ユーザー名とパスワードを入力してください。
パスワードを忘れた場合は、
こちらで再発行を行ってください。

English

ユーザー名

パスワード

ログイン

[初期設定]

ユーザー名：学生番号
パスワード：英数字の乱数

※全て半角で入力。
※英数字を入力する際は、
「1（数字）」と「l（小文字
のL）」、「I（大文字のI）」や
「0（数字）」と「O（大文字
のO）」の入カミスに注意。

ブラウザのセキュリティ警
告が出る場合は、
「詳細設定」から「リンク先
のページへ進む」をクリック
すると、ログインページに進
むことができます。

② パスワードを変更する場合

パスワード変更画面



新しいパスワードを設定してください。

新規パスワード

確認用にもう一度

設定

クリア

<パスワード設定に関する注意>

- ・10文字以上で設定してください。
- ・日本語は使用できません。（太郎、たろう、タロウ など）
- ・英字・数字を少なくとも 1文字 使用しなくてはなりません。（a0c123、z99123 など）
- ・英字の 大文字 と 小文字 は区別されます。（ A a など）
- ・記号を使用してもかまいません。（ ! # % @ など）
- ・スペース（半角・全角）は使用できません。

初期パスワードでのログイン後、パスワードの変更を求められます。注意事項を確認し、新しいパスワードを設定してください。

新しいパスワードは、忘れないようにメモしておきましょう。

③学籍情報の登録・確認をする。

左側メニュー → 学籍 → 学生住所変更 をクリックすると、本人連絡先、保護者連絡先の確認画面が表示されます。



「※」印が付いていない項目は入力必須ですので、必要事項を入力の上、画面下部の【変更】をクリックしてください。なお、入力事項がない場合も、「なし」、「郵便番号：000-0000」、「その他」とするなど、入力必須項目を空欄にしないようにしてください。

連絡先等入力画面

学生住所変更

変更する情報を入力し、変更ボタンをクリックしてください。
【※】印は必須項目です。

・ 本人連絡先

所属	経理コース	学籍番号	2007000
氏名	関大 花子	学年	3年
郵便番号	047 - 0034 (※)	都道府県	北海道
市区町村	小樽市〇〇		
町名・番地など	〇丁目〇番〇号		
アパートなど	△△△△アパート 〇〇号室		
電話番号	0134-〇〇-〇〇 (※) ハイフンあり	区分	普通
携帯電話番号	099-〇〇-〇〇 (※) ハイフンあり		
E-MAIL	〇〇〇〇@gmail.com (※)		

・ 保護者連絡先

氏名	関大 輝広	続柄	父
氏名カナ	ショウダイ リョッキョウ		
氏名(英字)	Shoudai Ryokkyu (※)		
郵便番号	047 - 0034 (※)	都道府県	北海道
市区町村	小樽市〇〇		
町名・番地など	〇丁目〇番〇号		
アパートなど			
電話番号	0134-〇〇-〇〇 (※) ハイフンあり		
職種	ー		

変更 クリア

※注意※

- 連絡先は、大学からの緊急連絡時にも使用します。登録がないと、不利益が生じる恐れがありますので、必ず登録してください。
- 現住所、e-mail等、登録内容に変更があった場合は、速やかに変更してください。
- 郵便番号と電話番号は半角で入力してください。ローマ数字は web 上だと文字化けしてしまいますので、「I」なら「大文字のI(アイ)」、「II」なら「大文字のI(アイ)を2つII」と入力するようにしてください。

2. シラバスの参照

① シラバス参照画面

左側メニュー → シラバス → シラバス参照 をクリック。

シラバス参照画面



②条件の設定

条件の設定

別タブで、条件入力画面が表示されます。

学期や教員名などを入力し、『検索開始』をクリックします。

※授業科目名は正しく入力しないと検索できません。
※教員名から検索するときは、名字のみで検索してください。

③検索結果

検索結果

シラバス参照/検索結果

No.	科目名	単位数	履修条件	担当教員	授業時間	備考
1	経済学	2	110000	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
2	経済学	2	110070	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
3	経済学	2	110080	山口 洋子	木曜 15:00-16:30	参照
4	経済学	2	110075	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
5	経済学	2	110060	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
6	経済学	2	110050	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
7	経済学	2	110078	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
8	経済学	2	110055	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
9	経済学	2	110052	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
10	経済学	2	110072	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
11	経済学	2	110065	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照
12	経済学	2	110068	藤原 隆夫	木曜 15:00-16:30	参照

条件に一致した授業科目が一覧で表示されます。

参照したい科目の一番右側の『参照』をクリックします。

④シラバスの参照

シラバスの参照

シラバス参照/授業情報参照

授業概要情報

担当教員 / Instructor	藤原 隆夫 (漢字部)
授業科目区分 / Category	初級コース 学科別専門科目
履修年次 / Semester	2020年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
開講期間 / Class period	月/Mon 2
対象所属 / Eligible Faculty	漢字部 / Faculty of Commerce
担当年次 / Years	2年, 3年, 4年
単位数 / Credits	2
研究室番号 / Office	
オフィスアワー / Office hours	

他の条件でシラバスを参照する/Inquiry syllabus by others conditions

講義の基本情報が表示されます。講義の概要を確認するためには、『授業概要情報』のタブに切り替えます。

シラバス参照/授業情報参照

授業概要情報

更新日 / Date of renewal	2020年2月14日
授業の目的・方法 / Course Objectives and method	現代の経済学では、多くの分野で数学的表現をするようになってきている。具体的には、産業組織論、一般均衡論、経済成長論、消費者行動の理論、金融の理論、新古典経済、協定論、不完全競争の理論、尋常で存続にいとまがない。ここでは、「経済学を学ばずには済まざる数学を学べ」という概念が適用するほどである。本科目では、経済学の多くの部門で使われている数学の基礎的な部分—微分法の微分と積分と線形代数—を扱う。
達成目標 / Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数の微分、および二次関数の微分の計算ができる。 一次関数および二次関数について極大、極小の意味を理解し、具体的な問題に押しよせらるを求めることができる。 変数の間に適当な制約条件があるときの、二次関数の最大値、最小値を求めることができる。 微分法の理論を経済学の問題に適用することができる。
授業内容 / Course contents	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 微分 第 3 回 極大・極小の導出 第 4 回 一次関数の微分係数の経済的意味と一次近似 第 5 回 一次関数の一階の条件 第 6 回 一次関数の二階の条件、特に二次近似 第 7 回 一次関数の一階の条件、二次関数の微分 第 8 回 平面、線形関数の方程式、二次関数の一次近似 第 9 回 二次関数の一階の条件 第 10 回 二次関数の二次近似

授業概要が表示されます。授業内容だけでなく、成績評価基準等重要なことが記載されていますので、受講する科目のシラバスは確認しましょう。

シラバス参照/授業情報参照

成績評価の基準 /Grading Criteria	<p>高 (100～90) 講義内容について高度な理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について高度な分析をすることができる。</p> <p>優 (89～80) 講義内容について専ら理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について優れた分析をすることができる。</p> <p>良 (79～70) 講義内容について高い理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について良い分析をすることができる。</p> <p>可 (69～60) 講義内容について理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について分析をすることができる。</p> <p>不可 (59～0) 講義内容について十分な理解力を有せず、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について分析をすることができない。</p>
講義上の注意事項 /Remarks	<p>・本講義ではレズビオンを通じて講義に参加することが必須となっていますので、レズビオンを利用できるようにあらかじめ準備してください。</p> <p>・「経済学入門Ⅰ～Ⅲ」は、最終3年かけて履修することとなり、経済学の考え方を順次理解のうえに徐々に学ぶという方針で、学期別が分業によって1～3年生を主な対象として、履修されている科目です。したがって、「経済学入門Ⅰ～Ⅲ」を履修想定する学生は、最終3年かけて履修しておくことを強く推奨します。</p>
実習科目による授業 /Courses conducted by the ones with practical experiences	該当しない/No
授業実施方法 /Method of class	遠隔授業 (ハイブリッド) /Online class (including face-to-face classes less than 2 weeks)
遠隔授業 /Online class	遠隔授業/Online class

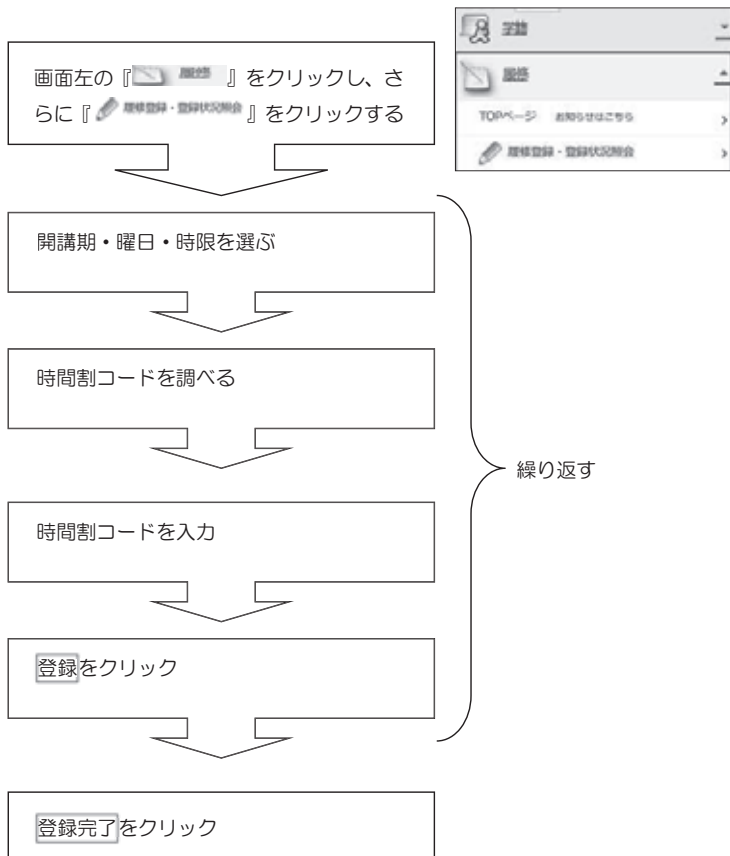
他の条件でシラバスを参照する/Inquiry syllabus by others conditions

遠隔授業で行われる科目はこのような表示されます。

3. 履修登録

履修登録は、単位を修得する上で必要なことです。履修登録をしていないと単位を修得することはできません。誤りのないようよく確認し、登録を行きましょう。

【 操作の流れ 】



(1) 履修登録画面の見方

履修登録

氏名	学生 太郎	学生番号	359460G
所属	教育学部	学年	1年
今年度履修可能単位数	40単位	キャップ内単位数	40単位
通常授業外単位数	8単位	キャップ外単位数	8単位
		履修登録	2023/04/21 10:08
		最終更新日時	【履修登録期間 2023/04/21 00:00】

※「**キャップ内単位数**」・「**キャップ外単位数**」は、履修登録した単位数の合計を表示します。
 ※「**履修登録可能単位数**」は、履修登録可能な単位数の合計を表示します。
 ※「**通常授業外単位数**」は、このページに表示した卒業授業単位に含まれることができる通常授業外単位数を表示します。
 ※卒業授業単位に含まれることができない通常授業外単位数は含まれません。

高松市情報科学館

履修登録した単位数の合計を、キャップ外単位数とキャップ内単位数に分けて計算し、表示しています。自分が履修登録した単位数を、この欄で確認しましょう。

※キャップ外単位：履修登録の上限に含まれない単位
 (詳しくは、『履修の手引き』3. 履修登録について (2)履修登録上限制(キャップ制)について を参照してください)

登録完了 履修登録が完了しました

前期・後期の切り替え

前期 後期 集中講義を登録

	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期
1期	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
2期	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
3期	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
4期	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
5期	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
6期	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
7期	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録

通常講義を登録

集中講義やオンデマンド(時間割指定なし)講義を登録

集中講義を登録

集中講義など

曜日	時間	授業科目コード	科目	担当教員名
登録されていません				

テキスト出力 履修状況をテキストファイルに出力する場合に使用します

ホーム画面左側のメニューの

履修

をクリックし、

履修登録・登録状況照会

を選択すると、履修登録画面が表示されます。

登録したい科目の開講期・曜日・時間を選択し、履修登録を行います。

※注意※

- 夏季集中、教育実習を履修登録する場合は、「前期」を選択し、「集中講義を登録」から履修登録をしてください。
- 冬季の健康スポーツ(スキー)を履修登録する場合は、「後期」を選択し、「集中講義を登録」から履修登録をしてください。
- 時間割を指定しないオンデマンドの授業を履修登録する場合は、「集中講義を登録」から履修登録をしてください。

(2) 登録する科目の検索方法

履修登録画面で『未登録』をクリックすると、科目の検索画面が表示されます。

科目検索画面

履修登録・登録状況照会

履修登録する時間割を入力してください

曜日	火曜日
時限	2限
時間割所属	商学部
時間割コード	

不明の場合は時間割コード検索で検索できます。

登録 クリア 履修登録画面に戻る

「時間割所属」を「商学部」にし、「時間割検索」をクリックしてください。

履修登録・登録状況照会／条件入力

時間割コードが不明な場合は以下の条件で検索できます

年度 2020

時間割所属 商学部

学期 後期

開講 表示なし

教員名 ※前方一致

学年 3年

曜日 火曜日

時限 2限

検索結果表示件数: 100 件

検索開始 クリア

「時間割コード検索」をクリックすると、この画面が表示されます。

検索条件を選択し、検索開始をクリックします。曜日・時限等は▼ボタンをクリックして変更することも可能です。

科目検索画面

履修登録・登録状況照会 / 検索結果

1ページから23科目の検索結果を表示しています (全部で23件あります)

検索結果ページ: << 前へ 1 次へ >>

No.	学期	曜日・時間	時間割コード	科目	担当	
1	後	後	火2	1100910	健康スポーツb2	伴野敦典
2	後	後	火2	1120170	ドイツ語IIA-2 (IIA-2a)	飯島 美山紀
3	後	後	火2	1120180	ドイツ語IIA-2 (IIA-2b)	鈴木 珂史
4	後	後	火2	1120190	ドイツ語IIA-2 (IIA-2c)	飯島 美由紀
5	後	後	火2	1120210	ドイツ語IIB-2	神 久彰
6	後	後	火2	1120330	フランス語IIA-2 (IIA-2a)	尾形 弘人
7	後	後	火2	1120340	フランス語IIA-2 (IIA-2b)	高橋 純
8	後	後	火2	1120350	フランス語IIA-2 (IIA-2c)	江口 博
9	後	後	火2	1120520	中国語IIA-2 (IIA-2a)	藤崎 達男
10	後	後	火2	1120530	中国語IIA-2 (IIA-2b)	藤崎 達男
11	後	後	火2	1120540	中国語IIA-2 (IIA-2c)	森岡 かおり
12	後	後	火2	1120550	中国語IIA-2 (IIA-2d)	谷内 哲治
13	後	後	火2	1120630	中国語IIB-2	松 健

当該時間帯に開講する科目の一覧が表示されます。登録したい科目の『開講科目名』をクリックします。

履修登録・登録状況照会

履修登録する時間帯を入力してください

曜日	火曜日
時間	2限
時間割所属	医学部
時間割コード	1120630

不明の場合は時間割コード検索で検索できます。

登録 クリア 履修登録画面に戻る

指定した科目の時間割コードが表示されるので、登録をクリックします。

履修登録・登録状況照会

学年: 第1年 学期: 後学期 2023/2024

所属: 医学部 履修登録コース: 医学 1限 4限 5限 6限 7限 8限 9限 10限

検索結果: 23件

検索結果一覧

No.	科目名	曜日・時間	時間割コード	開講	履修	備考
1	健康スポーツb2	後 後 火2	1100910	○	○	
2	ドイツ語IIA-2 (IIA-2a)	後 後 火2	1120170	○	○	
3	ドイツ語IIA-2 (IIA-2b)	後 後 火2	1120180	○	○	
4	ドイツ語IIA-2 (IIA-2c)	後 後 火2	1120190	○	○	
5	ドイツ語IIB-2	後 後 火2	1120210	○	○	
6	フランス語IIA-2 (IIA-2a)	後 後 火2	1120330	○	○	
7	フランス語IIA-2 (IIA-2b)	後 後 火2	1120340	○	○	
8	フランス語IIA-2 (IIA-2c)	後 後 火2	1120350	○	○	
9	中国語IIA-2 (IIA-2a)	後 後 火2	1120520	○	○	
10	中国語IIA-2 (IIA-2b)	後 後 火2	1120530	○	○	
11	中国語IIA-2 (IIA-2c)	後 後 火2	1120540	○	○	
12	中国語IIA-2 (IIA-2d)	後 後 火2	1120550	○	○	
13	中国語IIB-2	後 後 火2	1120630	○	○	

時間割に科目が登録されると、左のような画面となります。科目に間違いがないか確認してください。この作業を繰り返し行います。全ての科目を履修登録したら、『登録完了』ボタンをクリックします。※履修登録期間中は、『登録完了』ボタンを押した後も、変更ができます。

学年	学期	科目名	単位数	履修可能	履修可能	履修可能	履修可能	履修可能	履修可能
1年	1学期	英語1	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
1年	2学期	英語2	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
2年	1学期	英語3	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
2年	2学期	英語4	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
3年	1学期	英語5	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
3年	2学期	英語6	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
4年	1学期	英語7	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
4年	2学期	英語8	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
5年	1学期	英語9	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修
5年	2学期	英語10	3	必修	必修	必修	必修	必修	必修

遠隔授業の科目はこのように表示されます。卒業所要単位に含めることができる遠隔授業は上限があるため、確認しましょう。

履修登録画面を Excel ファイルでダウンロードしたい...

一度 CSV ファイルでダウンロードしてから Excel ファイルに変換します。

1期	未登録	未登録	未登録
2期	未登録	未登録	未登録
3期	未登録	未登録	未登録
4期	未登録	未登録	未登録
5期	未登録	未登録	未登録
6期	未登録	未登録	未登録
7期	未登録	未登録	未登録

集中講義など

曜日	時間	講義コード	科目
登録されていません			

テキスト出力 履修状況をテキストファイルに出力する場合に使用します

「テキスト出力」のボタンをクリックすると、csv ファイルでダウンロードできます。

※「履修成績照会」「単位修得状況照会」でも、csv ファイルでダウンロードできます。

※注意※

- 前期の履修登録期間に、後期科目の履修登録も行ってください。後期の履修登録変更期間（10月）には、後期科目（通年科目は不可）の変更をすることができません。
- 夏季集中講義は、前期の履修登録期間に登録を行う必要があります。
- 3、4年生は、研究指導が履修登録されているか必ず確認をしてください。
- 履修登録をせずに、授業を受けても単位を取得できません。履修登録期間後の変更は一切できませんので、履修登録時は科目に間違いがないか、必ず確認しましょう。
- 何らかの事情で履修登録がうまくできない場合は、履修登録期間中に学部教務係まで問い合わせてください。

4. 履修取消申請について

履修取消制度は、GPA を下げないために制定された制度です。

履修取消を行うと、成績評価が『W』となり、GPA の計算対象外となりますが、履修登録自体が消えるわけではありません。

①履修取消画面の表示

履修取消画面の表示



左側のメニューから【履修】
→【履修取消】をクリックし
ます。

②履修取消科目の申請

履修取消科目の申請



【履修取消】を選択すると、
履修登録時と同様に時間割
画面が表示されます。
取消したい科目の科目コー
ドをクリックします。



【取消の取消（履修の復活）はできません。よろしいですか？】というポップアップメッセージが表示されます。内容を理解した上で、履修取消を申請する場合は、【OK】をクリックしてください。

③履修取消申請完了

履修取消申請確認画面



履修取消をした科目は、履修情報の背景がピンク色になり、科目名の前に【取消】と表示されます。

システム

※注意※

- ・履修取消は、**指定の期間内でのみ**申請することができます。
- ・履修登録とは異なり、期間中何度でも登録・変更を行えるものではなく、その申請を取り下げることはできません。よく考え、申請をしてください。

5. 成績の参照

以下3つの方法から参照できますので、用途に合わせて確認してください。

(1) 履修成績参照

履修していた科目の評語と合否を参照できます。

No.	開講年度	開講区分	時間割コード	科目	教員名	評語	合否
1	2019	後期	1111670	中国語IIA-2	谷内 哲也	優	合
2	2019	後期	1300300	簿記原理	市原 啓美	良	合
3	2019	後期	1300430	英語コミュニケーションⅠⅤ	三ツ木 真実	秀	合
4	2019	後期	1400100	憲法・基礎Ⅰ	坂東 謙介	秀	合
5	2019	後期	1400170	憲法ⅠⅠ	小倉 一志	良	合

※ 検定試験による単位認定や既修得科目、留学先で修得し認定された科目についてはこの画面ではなく、「単位修得状況参照」画面で確認できます。

※ 「研究指導」の単位は、4年次で認定されます。3年次ではシステムの仕様上、「合否」欄に「否」と表示されます。

(2) 単位修得状況参照

修得した科目は卒業要件のどの区分に入るか参照することができます。

No.	科目大区分	科目中区分	科目小区分	科目	単位数	修得年度	修得学期	評語	合否
1	経関コース	外国語科目等	外国語科目	中国語IIA-2	2.0	2019	後期	優	合
2	経関コース	学科別専門科目	商学科科目	簿記原理	2.0	2019	後期	良	合
3	経関コース	学科別専門科目	商学科科目	英語コミュニケーションⅠⅤ	2.0	2019	後期	秀	合
4	経関コース	学科別専門科目	企業法学科科目	憲法・基礎Ⅰ	2.0	2019	後期	秀	合
5	経関コース	学科別専門科目	企業法学科科目	憲法ⅠⅠ	4.0	2019	後期	良	合

※ 「研究指導」の単位は、4年次で認定されます。3年次ではシステムの仕様上、「合否」欄に「否」と表示されます。

(3) 学業成績票

自分が修得した単位数を卒業要件の区分ごとに集計した欄を設けています。この単位集計欄で、現在の修得単位数、不足単位数を簡単に確認することができます。

🔍 学業成績票

学生番号

所属学科	学業成績票							計		
	知の基礎	人間と文化	社会と人間	自然と環境	健康科学	外国語科目等	自由選択			
卒業所要単位	6単位	4単位	4単位	4単位	2単位	14単位	0単位	52単位		
修得単位数	6単位	10単位	12単位	4単位	2単位	14単位	0単位	48単位		
不足単位数	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	4単位		
	自字科基礎科目	自字科応用科目	自字科1科目	研究指導	合計	課外科目	合計			
卒業所要単位	12単位	20単位	20単位	12単位	72単位			124単位		
修得単位数	16単位	16単位	16単位	0単位	48単位	2単位		98単位		
不足単位数	0単位	8単位	4単位	12単位	24単位			28単位		
	2023年度	2022年度	2021年度	-年度	-年度	-年度	-年度	-年度	-年度	-年度
年度ごとGPA			3.50	○						
連続GPA			3.50	○						

GPA順位 ☆上位1/3以上 ★上位1/3未満～上位1/2以上 ○上位1/2未満～下位1/3以上 ●下位1/3未満～下位1/4以上 △下位1/4未満

資料目録修得単位数	0単位	留学・取得単位数	#73 専攻圏大学
資料目録修得単位数	0単位		
連続卒業修得単位数	4単位		

※注意※

総合単位数は積み上げのため、科目区分ごとの単位数が足りていない場合でも「不足単位数」が〇になってしまう場合があります。必ず、自分で卒業要件の科目区分ごとに単位数を満たしているか計算をして確認してください。

6. 判定

(1) 判定画面

判定画面



左側メニューから『判定』→
『自己判定』を選択します。

[設定]

進級判定

学年：2年生

所属学科：昼間コースもしくは
夜間主コース

卒業判定

学年：4年生

所属学科：自分の所属学科

※注意※

- 自己判定では、「現在履修登録している科目を全て合格したら、3年生に進級できるか・卒業できるか」という判定を行います。
- 卒業判定を行った場合は、卒業に必要な各科目区分を自分は何単位修得・履修しているかということを確認できます。

7. Campus Square よくある質問

◆ログイン関連

Q1：初期パスワードを何度入力してもうまくいきません。

A：数字の”1”とアルファベットの小文字の”l(エル)”、アルファベットの大文字”I(アイ)”のように、見分けのつきにくいパスワードがあります。もし、「どうしてもログインできない」という場合は、学部教務係までお尋ねください。

Q2：新パスワードがうまく設定できない！

A：画面下にある、＜パスワード設定に関する注意＞どおり設定していますか？もし、その注意どおりにしてもうまくいかない場合は、学部教務係までお尋ねください。

Q3：家のパソコンからログインできないの？

A：学外から学内ネットワークに仮想的に接続できるサービス(SSL-VPN)を利用することにより家のパソコンからでもログインすることができます。以下の大学ホームページ内に利用方法についてのマニュアルを掲載していますので、そちらを参考に利用してください。

○大学情報総合センターHP →「VPN」アイコンをクリック。

◆履修登録関連

Q1：登録ボタンを押したら履修登録エラーメッセージが出た。

A：過去に修得済みの科目や、履修登録できない科目（昼間コースの学生が夜間主の科目を履修登録する等）を履修登録しようとするると以下のような画面になります。

<パターン1>

履修登録
履修登録エラーです 内容を確認して下さい
この時間割はすでに修得済みかまたはすでに履修登録されています。③
この時間割は登録できません
ブラウザの「戻る」ボタンで前の画面へ戻して下さい

<パターン2>

履修登録

履修登録エラーです 内容を確認して下さい

この時間帯は指示されている所属以外の学生は履修することはできません。(1)

この時間帯は登録できません

ブラウザの「戻る」ボタンで前の画面へ戻って下さい

上記のエラーが出た場合は、履修登録をすることができません。
履修の手引きやシラバス、manaba のお知らせを確認してください。

Q2：履修登録完了ボタンを押した後に、科目を削除したい・追加したい。

A：履修登録期間内なら、履修登録完了ボタンを押した後でも何度でも変更が可能です。

◆成績関連

Q1：前期試験や後期試験の結果（成績）はいつから参照できるようになるの？

A：成績発表日は、行事予定表に記載されています。

前期科目については9月初旬頃、後期・通年科目については3月上旬頃（4年生は2月中旬頃から）です。

Q2：学業成績票の単位集計欄と実際の修得単位数とが違うのですが。

A：単位集計欄は、サーバー側で更新作業をしないと計算されません。4年生の後期・通年科目など、全ての成績が発表される前に、成績の参照ができるように日程を設定している場合があります。そのため成績が出ていても、単位集計欄には反映されていないことがあります。その場合は、自分で卒業要件の区分ごとに計算をして確認をしてください。

学習管理システム「manaba」利用の手引き (学生版)



1. 学習管理システム「manaba」について	157
2. ログイン方法	158
3. 詳しい操作方法を知りたい場合	161
4. manaba・respon よくある質問	162

1. 学習管理システム「manaba」について

manaba は講義運営やレポートの管理などに使われるウェブシステムです。

パソコンだけではなく、タブレット端末やスマートフォンからでも利用可能で、インターネット接続さえできれば、どこでも利用できます。

なお、manaba を利用する際、使う OS によって、以下のブラウザを利用することが推奨されます。

- Windows : Google Chrome / Mozilla Firefox/
Microsoft Edge79 以降 (IE モードを除く)
- Macintosh : Safari / Mozilla Firefox
- iOS : Safari
- Android : Google Chrome

1) 学務情報システム「Campus Square」との同期について

manaba は Campus Square から情報を同期し、皆さんの利用環境を整えています。

Campus Square から同期するのは、ユーザ情報 (パスワード、メールアドレス等)、履修登録科目です。

※ ID・パスワードは Campus Square と同じです。manaba のパスワードを変更したい場合は、Campus Square でパスワードの変更を行ってください。

(4月・10月は30分ごと、それ以外の月は1日に1回(AM4:00~4:30)同期されるので、時間を置いてから、パスワードが変更されているか確認してください。)

2) 学内無線 LAN について

manaba を利用するにはインターネット接続が必要です。学内で、ご自身のスマートフォン等から利用する際は、ぜひ学内無線 LAN をご利用ください。

詳しくは情報総合センターにお問い合わせください。

※ 参照 URL : <https://www.otaru-uc.ac.jp/center/manual/mm.html#wifi>

3) リアルタイムアンケートアプリ「respon」について

respon とは、manaba 上でリアルタイムアンケートを行うアプリのことです。

respon を使用するには、各自でスマートフォンへのインストールと設定が必要です。manaba の「学内掲示板」の「授業に関すること」の中に respon の設定方法についてマニュアルを掲載しているので(「respon のサーバ設定について」を参照)、記載内容に従って設定してください。

4) 「リマインダメール」の設定について

manaba から届く「リマインダメール」については、ご自身で受信の可否を設定することが可能です。

「リマインダメール」は、Campus Square から同期するメールアドレス (学生記録簿に記入したものと又は Campus Square でご自身が変更したもの) に届きます。

manaba にログインし、マイページ右側上部の「設定」→「リマインダ設定」から受信の可否について設定してください。

※リマインダ設定は、新規課題の公開やコースニュースの通知など、授業の担当教員が更新をするとメール

が届く仕組みです。更新は教員の都合によりますので、いつメールが届いても良いよう、ご自身の manaba 上のリマインダ設定、携帯電話・スマートフォン・タブレット等の設定には十分ご注意ください。

なお、この設定は所属しているコース全体で反映されます。一つのコースのみ「受信しない」に設定するなどの個別設定はできませんのでご了承ください。

2. ログイン方法

1) ログイン方法は2つあります。

①大学のホームページから開く方法

小樽商科大学 HP (https://www.otaru-uc.ac.jp/) から、次の方法で入ってください。

○大学 HP トップ右上のメニューボタンから



○大学 HP 「在学生」のページ→「教務情報」から



②以下の URL を入力し、manaba のログイン画面を表示する方法

🔍



※この URL (<https://otaru-uc.manaba.jp/ct/login>) をご自身のスマートフォン等のブラウザの“お気に入り”に登録すると便利です。

2) 入学時に配付されたユーザ ID とパスワードを入力してください。



※ Campus Square から情報を同期しており、ID・パスワードは Campus Square と同じです。manaba のパスワードを変更したい場合は、Campus Square でパスワードの変更を行ってください。(4月・10月は30分ごと、それ以外の月は1日に1回(AM4:00~4:30)同期されるので、時間を置いてから、パスワードが変更されているか確認してください。)

※ パスワードを忘れた場合は、教務課でパスワードの初期化を申し出て、Campus Square で再設定をしてください。

3) ログインすると、マイページが開きます。

小樽商科大学 2018-01-23 (Tue) 藤大花子 | 設定 | ログアウト

マイページ コース ポートフォリオ メモ一覧 respon English

① ポートフォリオにコレクションが追加されました。

① お知らせ

2018-01-17 [manabaをご利用の皆様へ] manabaサーバの一時停止について

2018-01-17 [manabaをご利用の皆様へ] 『個別授業コレクション機能』の追加について

2017-11-21 [従来型携帯電話（フィーチャーフォン）専用画面サポート終了について]

2017-10-02 [学生の皆さまへ] 情報処理センターでの印刷について

2017-08-02 [必ずご覧ください] manaba course バージョンアップについて (8月31日実施)

2017-04-01 [manabaをご利用の皆さまへ] CampusSquareとmanabaの連携について

2017-04-01 [学生の皆さまへ] manabaを利用する際の注意事項

② 大学からの課題・アンケート

2017-12-25 [回答必須] 学修状況についての調査

③ コース一覧

サムネイル形式 現在のコース

20180002 H30 社会連携実践 2018	20179002 H29 社会連携実践 2017 担当 大津 昌
20179009 教務課お知らせ用 2017	20179027 H29 学生論文賞 2017
20169023 全学アンケート (大学院) 2016	20169033 学生生活実態調査 2016 担当 学生支援課学生支援係

① お知らせ：manaba に関するお知らせが表示されます。必ず確認してください。

② 大学からの課題・アンケート：対象者に表示されます。学期毎に行う「授業改善アンケート」に回答する際は、こちらをクリックして、履修している科目毎に回答してください。

③ コース一覧：Campus Square で履修登録した科目（コース）の他、管理者が設定したコースが表示されます。必要なコースを選択し、担当教員の指示に従って操作してください。

3. 詳しい操作方法を知りたい場合

1) manaba にログインした後、下部の「マニュアル」をクリックしてください。



2) 「学生用マニュアル」が表示されますので、こちらをご覧ください。



4. manaba・respon よくある質問

●manaba について

Q1. マイページに必要なコースの表示がされない

A1. Campus Square できちんと履修登録がされていますか？また、Campus Square で登録はされていても、すぐには manaba に反映されません。4月・10月は30分ごと、それ以外の月は1日に1回（AM4:00~4:30）同期されるので、時間を置いてから、再度確認してください。それでもコースが見当たらない場合は、学生センターへお越しください。

※ manaba の仕様により、一つの科目を複数の教員で担当している場合、コースには「主担当教員」及び「開講コマ（曜日・時限）のうち一つ」が表示されますので、科目名で判断してください。manaba 上の時間割においても、同じく「開講コマ（曜日・時限）のうち一つ」しか表示されませんので、ご注意ください。

Q2. 履修登録をしているのに、manaba で「使わないコース」と表示される

A2. 担当教員が「使わないコース」の設定をしています。その科目については、担当教員は manaba を使用しないということですので、心配しなくて大丈夫です。

（Campus Square への履修登録さえきちんとしていれば大丈夫です。）

Q3. 必要のないコースが表示される

A3. 全学生に情報提供ができるよう、全学生を対象に登録しているコースがあります（社会連携実践、全学アンケート等）。

Q4. リマインダメールが大量に届くので、止めたい

A4. manaba にログインして、一番上の「設定」→「リマインダメールの設定」から設定が可能です。ご自身の判断で「受信する」「受信しない」を設定してください。

Q5. ID・パスワードを忘れてしまった

A5. Campus Square と同じIDとパスワードです。IDは学生番号です。パスワードを忘れた場合は、Campus Square から初期化・再設定が必要ですので、教務課でパスワードの初期化を申し出てください。

※ manaba への同期にはタイムラグがありますので、A1. を参考にして、情報が同期するまで待つ必要があります。

●respon について

Q1. respon のインストール・設定方法が分からない

A1. manaba の「学内掲示板」の「授業に関すること」の中に respon の設定方法についてマニュアルを掲載しているので（「respon のサーバ設定について」を参照）、記載内容に従って設定してください。

Q2. 携帯を変えたら、respon のログが消えましたが、大丈夫ですか

A2. ログが消えても、これまで提出した記録は manaba に残っていますので安心してください。問題はありません。

VIII. 参考

1. 学則及び関係諸規程

学則及び関係諸規程をホームページで公開しています。

メニュー「学内・教務システム」「学内限定サイト」→「規程集」にて確認してください。学務情報システム（Campus Square）を閲覧する際のSSL-VPN接続をすれば、学外のネットワーク環境下でも規程集を閲覧可能です。SSL-VPNの接続方法は、情報総合センターのホームページで確認してください。



「第2編 学則等」「第8編 学務及び学生支援」を参考にしてください。

北海道国立大学機構規集

令和4年2月11日内容現在

What's New 未実行一覧 ヘルプ 法令データベース

終了する時はログアウトボタンを押してください。

現行規集 [現行規集一覧]

約100件 表示100件

小樽商科大学

第1編 大学憲章

条項	題名	制定年・種別・番号	分野
	国立大学法人小樽商科大学憲章	平成16年4月1日制定	小樽商科大学総務課

第2編 学則等

条項	題名	制定年・種別・番号	分野
	小樽商科大学学則	昭和24年6月1日制定	小樽商科大学総務課
	小樽商科大学大学院学則	昭和46年4月1日制定	小樽商科大学総務課
	小樽商科大学学位規程	昭和46年4月1日制定	小樽商科大学教務課

第3編 組織・運営

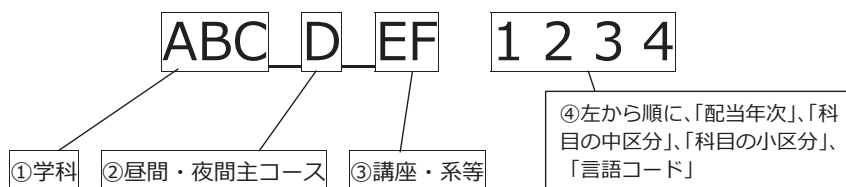
第1章 組織・運営

条項	題名	制定年・種別・番号	分野
	国立大学法人小樽商科大学組織・運営規程	平成16年4月1日制定	小樽商科大学企画戦略課

2. 科目ナンバリング

本学では、平成 27 年度より科目ナンバリング制度を導入しました。科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みです。授業科目を分類し、対象とするレベル（学年等）や学問の分類を示すことで、学生が適切な授業科目を選択する助けとなります。履修計画を立てる参考にしてください。

科目ナンバリングのコード配分規則



① 学科

学科	コード
経済学科	ECO
商学科	COM
企業法学科	LAW
社会情報学科	IMS
共通科目	GEN
外国語科目等	LAN
専門共通科目	SPE
教職共通科目	EDU
国際交流科目	INT-E/C

② 昼間・夜間主コース等

コース	コード
昼間コース科目	D
夜間主コース科目	N
教職関連科目	C

③ 講座・系等

科目大区分	講座・系等	コード
経済学科	基礎経済学	BE
	応用経済学	AE
商学科	商学	SC
	経営学	BA
	会計学	AC
	英語専修	EN
企業法学科	基礎法	BL
	企業法	CL
社会情報学科	計画科学	MS
	組織情報	OI
	社会情報	SI
	入門及び特講科目等	BT
共通科目	人間と文化	HU
	社会と人間	SH
	自然と環境	NE
	知(地)の基礎	BK
外国語科目	健康科学	HS
	英語	EN
	ドイツ語	GR
	フランス語	FR
	中国語	CH
	スペイン語	SP
	ロシア語	RU
	韓国語	KR
	日本語	JP
	専門共通科目	人文科学
社会科学		SS
自然科学		NS
健康科学		HS
教職に関する科目	外国語	FL
	英語	EN
	教職に関する科目	ET
	情報機器概論	IT
	日本史	JH
	世界史	WH
国際交流科目	地理学	GG
	職業指導	VG
	基礎経済学	BE
	応用経済学	AE
	商学	SC
	経営学	BA

●夜間主コース

共通科目	
哲学	GEN_N_HU1111
倫理学	GEN_N_HU1121
心理学Ⅰ	GEN_N_HU1211
心理学Ⅱ	GEN_N_HU1221
教育学	GEN_N_HU1311
日本文学Ⅰ	GEN_N_HU1411
日本文学Ⅱ	GEN_N_HU1421
人文科学特別講義	GEN_N_HU1511
言語・文学特別講義	GEN_N_HU1611
外国事情	GEN_N_HU1815
社会科学特別講義	GEN_N_SH1111
歴史学Ⅰ	GEN_N_SH1211
歴史学Ⅱ	GEN_N_SH1221
社会思想史Ⅰ	GEN_N_SH1311
社会思想史Ⅱ	GEN_N_SH1321
政治学Ⅰ	GEN_N_SH1411
政治学Ⅱ	GEN_N_SH1421
社会学Ⅰ	GEN_N_SH1511
社会学Ⅱ	GEN_N_SH1521
数学Ⅰ	GEN_N_NE1111
数学Ⅱ	GEN_N_NE1121
物理学Ⅰ	GEN_N_NE1211
物理学Ⅱ	GEN_N_NE1221
化学Ⅰ	GEN_N_NE1311
化学Ⅱ	GEN_N_NE1321
生物学Ⅰ	GEN_N_NE1411
生物学Ⅱ	GEN_N_NE1421
環境科学	GEN_N_NE1511
総合科目Ⅰ	GEN_N_BK1111
総合科目Ⅱ	GEN_N_BK1121
基礎数学	GEN_N_BK1211
基礎ゼミナール	GEN_N_BK1311
社会連携実践Ⅰ	GEN_N_BK1441
社会連携実践Ⅱ	GEN_N_BK1451
生活と健康	GEN_N_HS1111
予防の医学	GEN_N_HS1121
健康スポーツⅠ	GEN_N_HS1211
健康スポーツⅡ	GEN_N_HS1221
健康スポーツⅢ(スキー)	GEN_N_HS1231

外国語科目	
英語ⅠA	LAN_N_EN1113
英語ⅠB	LAN_N_EN1123
英語ⅠC	LAN_N_EN1133
英語ⅠD	LAN_N_EN1143
英語ⅡA1	LAN_N_EN2213

英語ⅡA2	LAN_N_EN2223
英語ⅡB1	LAN_N_EN2313
英語ⅡB2	LAN_N_EN2323
ドイツ語Ⅰ-1	LAN_N_GR1115
ドイツ語Ⅰ-2	LAN_N_GR1125
フランス語Ⅰ-1	LAN_N_FR1215
フランス語Ⅰ-2	LAN_N_FR1225
中国語Ⅰ-1	LAN_N_CH1315
中国語Ⅰ-2	LAN_N_CH1325

経済学科	
経済学入門	ECO_N_BE1111
経済理論	ECO_N_BE2111
経済史	ECO_N_BE2211
経済と統計	ECO_N_BE2311
経済思想史	ECO_N_BE3211
経済学と現代	ECO_N_BE2411
応用ミクロ経済学	ECO_N_AE2121
国際経済と現代	ECO_N_AE3411
経済書講読Ⅰ	ECO_N_AE3421
経済書講読Ⅱ	ECO_N_AE3431
経済学演習Ⅰ	ECO_N_AE3441
経済学演習Ⅱ	ECO_N_AE3451
公共政策	ECO_N_AE3511
金融経済	ECO_N_AE3611
社会連携実践Ⅲ	ECO_N_CR2811
卒業研究	EDU_N_GS3911
☆日本史	EDU_C_JH1711
☆外国史	EDU_C_WH1721
☆地理学	EDU_C_WG1731
☆法学	LAW_N_BL1111
☆国際法	LAW_N_BL3311
研究指導	ECO_N_ST4111
卒業論文	ECO_N_GT4121

商学科	
市場システム論Ⅰ	COM_N_SC2111
市場システム論Ⅱ	COM_N_SC2121
国際市場論	COM_N_SC3211
金融システム論Ⅰ	COM_N_SC3311
金融システム論Ⅱ	COM_N_SC3321
経営学原理	COM_N_BA2111
経営管理論	COM_N_BA2121
現代企業管理論Ⅰ	COM_N_BA3111
現代企業管理論Ⅱ	COM_N_BA3121
経営史	COM_N_BA3211
簿記原理	COM_N_AC1111
会計学原理	COM_N_AC2111

財務会計概論	COM_N_AC3111
原価計算概論	COM_N_AC3211
管理会計概論	COM_N_AC3221
社会連携実践Ⅲ	COM_N_CR2811
卒業研究	COM_N_GS3911
商学科英語専修	
英語学概論Ⅰ	COM_N_EN1112
英語学概論Ⅱ	COM_N_EN1122
英文学史Ⅰ	COM_N_EN1212
英文学概論Ⅰ	COM_N_EN1222
英語コミュニケーションⅠ	COM_N_EN1312
比較文化Ⅰ	COM_N_EN1412
英語学概論Ⅲ	COM_N_EN2112
英語学Ⅰ	COM_N_EN2122
英語学Ⅱ	COM_N_EN2132
英文学史Ⅱ	COM_N_EN2212
英文学概論Ⅱ	COM_N_EN2222
英文学Ⅰ	COM_N_EN2232
英文学Ⅱ	COM_N_EN2242
英語コミュニケーションⅡ	COM_N_EN2312
英語コミュニケーションⅢ	COM_N_EN2322
英語コミュニケーションⅣ	COM_N_EN2332
英作文Ⅰ	COM_N_EN2342
英作文Ⅱ	COM_N_EN2352
比較文化Ⅱ	COM_N_EN2412
比較文化Ⅲ	COM_N_EN2422
比較文化Ⅳ	COM_N_EN2432
研究指導	COM_N_ST4111
卒業論文	COM_N_GT4121
☆職業指導	EDU_C_VG2811

企業法学科	
法学	LAW_N_BL1111
基礎法特講	LAW_N_BL2111
憲法Ⅰ	LAW_N_BL2211
行政法Ⅰ	LAW_N_BL2221
企業法特講	LAW_N_CL2321
刑法	LAW_N_BL2511
民法Ⅰ	LAW_N_BL2611
憲法Ⅱ	LAW_N_BL3211
国際法	LAW_N_BL3311
民法Ⅱ	LAW_N_BL3611
商法Ⅰ	LAW_N_CL2611
国際経済法	LAW_N_CL3311
労働法	LAW_N_CL3421
社会保障法	LAW_N_CL3431
商法Ⅱ	LAW_N_CL3611
知的財産法	LAW_N_CL3711

社会連携実践Ⅲ	LAW_N_CR2811
卒業研究	LAW_N_GS3911
☆日本史	EDU_C_JH1711
☆外国史	EDU_C_WH1721
☆地理学	EDU_C_GG1731
☆経済学入門	ECO_N_BE1111
☆経済理論	ECO_N_BE2111
☆国際経済と現代	ECO_N_AE3411
研究指導	LAW_N_ST4111
卒業論文	LAW_N_GT4121

社会情報学科

計画数学	IMS_N_MS2111
オペレーションズ・リサーチ	IMS_N_MS3211
社会計画	IMS_N_MS3221
計画科学	IMS_N_MS3231
組織情報論	IMS_N_OI3111
社会情報論	IMS_N_OI3121
情報システム論	IMS_N_OI3211
知識科学基礎	IMS_N_SI2111
情報処理基礎	IMS_N_SI2211
情報処理	IMS_N_SI3211
コンピュータネットワーク論	IMS_N_SI3511
情報と職業	IMS_N_SI3711
社会情報入門	IMS_N_BT1111
社会連携実践Ⅲ	IMS_N_CR2811
卒業研究	IMS_N_GS3911
☆職業指導	EDU_C_VG2811
研究指導	IMS_N_ST4111
卒業論文	IMS_N_GT4121

専門共通科目

人間と文化論	SPE_N_HU2111
現代社会と歴史論	SPE_N_SS2111
自然と科学	SPE_N_NS2111
人間科学論	SPE_N_HS2111
研究指導	SPE_N_ST4111
卒業論文	SPE_N_GT4121

●昼・夜共通

教職共通科目

教育心理	EDU_C_ET1111
教育制度	EDU_C_ET1121
教職論	EDU_C_ET2111
教育原理	EDU_C_ET2121
教育課程論	EDU_C_ET2131
☆特別活動論	EDU_C_ET2141
生徒指導	EDU_C_ET2151

★特別支援教育	EDU_C_ET2161
★「総合的な学習の時間」指導法	EDU_C_ET2171
商業科教育法Ⅰ	EDU_C_ET2211
商業科教育法Ⅱ	EDU_C_ET2221
☆社会科教育法Ⅰ	EDU_C_ET2311
☆社会科教育法Ⅱ	EDU_C_ET2321
☆社会科・公民科教育法Ⅰ	EDU_C_ET2411
☆社会科・公民科教育法Ⅱ	EDU_C_ET2421
情報科教育法Ⅰ	EDU_C_ET2611
情報科教育法Ⅱ	EDU_C_ET2621
英語科教育法Ⅰ	EDU_C_ET3511
英語科教育法Ⅱ	EDU_C_ET3521
英語科教育法Ⅲ	EDU_C_ET3531
★英語科教育法Ⅳ	EDU_C_ET3541
道徳教育	EDU_C_ET3111
教育方法	EDU_C_ET3121
教育相談	EDU_C_ET3131
事前・事後指導	EDU_C_ET4111
教育実習Ⅰ	EDU_C_ET4121
教育実習Ⅱ	EDU_C_ET4131
教職実践演習(中・高)	EDU_C_ET4141
言語学概論	EDU_C_EN2112
情報機器概論	EDU_C_IT1611

国際交流科目

ビジネス経済学Ⅰ	INT_E_BE1112
ビジネス経済学Ⅱ	INT_E_BE1122
実証研究入門	INT_E_BE2112
国際経済学	INT_E_BE2122
グローバルフィールドワークⅠ	INT_E_BE3112
グローバルフィールドワークⅡ	INT_E_BE3122
日本経済	INT_E_AE2112
アジア太平洋経済協力	INT_E_AE3112
アジア太平洋におけるマーケティング戦略	INT_C_SC3212
世界の中の日本企業	INT_C_SC3222
日本的経営入門	INT_C_BA2212

3. カリキュラムマップ

カリキュラムマップは、科目ナンバリングに基づいて、科目を学習していく順序、科目と科目の内容がどう関連しているのかを示したマップです。履修計画を立てる際に参考にしてください。

-目次-

- ・経済学科
- ・商学科
- ・企業法学科
- ・社会情報学科
- ・一般教育系 人文科学系
- ・一般教育系 社会科学系
- ・一般教育系 自然科学系
- ・一般教育系 健康科学系
- ・一般教育系 知（地）の基礎系
- ・言語センター関連

（共通科目、外国語等科目、専門共通科目、商学科英語専修科目等、教職共通科目）

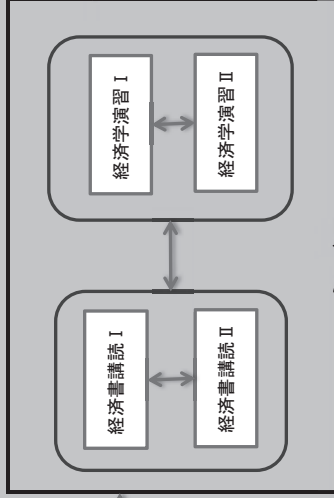
- ・高等学校教諭一種免許状（商業）
- ・中学校教諭一種免許状（英語）
- ・高等学校教諭一種免許状（英語）
- ・高等学校教諭一種免許状（情報）
- ・中学校教諭一種免許状（社会）
- ・高等学校教諭一種免許状（公民）

経済学科

研究指導（Ⅲ年ゼミ、Ⅳ年ゼミ、卒業論文）

2024

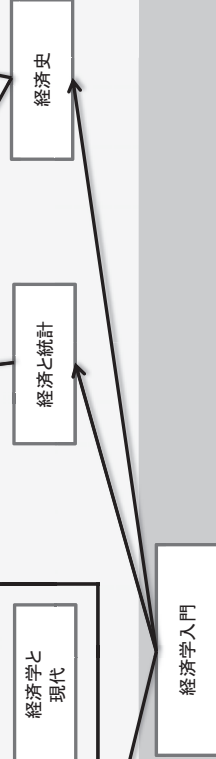
Ⅲ・Ⅳ



Ⅱ



Ⅰ



商学科(夜間主コース)

商学

Ⅱ年次配当科目で習得した基礎知識と基礎理論をベースにし、国際マーケティング、貿易、金融、保険の分野における理論および事例分析・現状分析など発展的に学習する

国際市場論
金融システム論Ⅰ
金融システム論Ⅱ

経営学

研究指導(Ⅲ年ゼミ・Ⅳ年ゼミ, 卒業論文)

経営学分野の専門科目の習得を通じて、経営学分野の深い専門知識や幅広い応用力を身につける

現代企業管理論Ⅱ
経営史
現代企業管理論Ⅰ

(2024)

会計学

会計の専門分野を学習し、深く広い知識を習得する

管理会計概論
財務会計概論
原価計算概論

Ⅲ・Ⅳ年次配当科目(発展科目)

流通システムとマーケティングの基礎知識と基礎理論を習得する

市場システム論Ⅰ
市場システム論Ⅱ

経営学原理と経営管理論を通じて経営学分野の基礎理論を備えるための知識を習得する

経営管理論
経営学原理

会計に関する専門知識を習得する

会計学原理

Ⅱ年次配当科目(基幹科目)

Ⅰ年次配当科目(基幹科目)

簿記の基礎を理解する

簿記原理

研究指導（Ⅲ年ゼミ・Ⅳ年ゼミ、卒業論文）

ゼミで具体的な法的問題を深く掘り下げて研究し、その成果を卒業論文にまとめる

憲法Ⅱ

労働法

民法Ⅱ

国際法

社会保障法

商法Ⅱ

国際経済法

知的財産法

Ⅲ・Ⅳ年次配当科目（発展科目）

色々な法分野について学び、より深く広い知識を身につける

憲法Ⅰ

刑法

企業法特講

行政法Ⅰ

民法Ⅰ

商法Ⅰ

Ⅱ年次配当科目（基幹，発展科目）

基本的な法分野について学び、法学学習の基礎を固める

基礎法特講

Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ）年次配当科目（基幹科目）

法的思考方法の基礎を身につける

法学

マネージメント
サイエンス

組織
マネージメント

インフォメーション
サイエンス

研究指導（Ⅲ年ゼミ・Ⅳ年ゼミ，卒業論文）

学びの集大成として研究に従事し、専門性を深めるとともに、研究の進め方や成果の取りまとめ方などを実践的に学ぶ

Ⅲ・Ⅳ年次配当科目（発展科目）

社会情報に関する基礎的知識から発展的知識まで幅広く修得する

オペレーション
リサーチ

社会計画

計画科学

社会情報論

組織情報論

情報システム論

情報処理

コンピュータ
ネットワーク論

情報と職業

Ⅱ年次配当科目（基幹科目）

社会情報に関する概論を学ぶ

計画数学

知識科学基礎

情報処理基礎

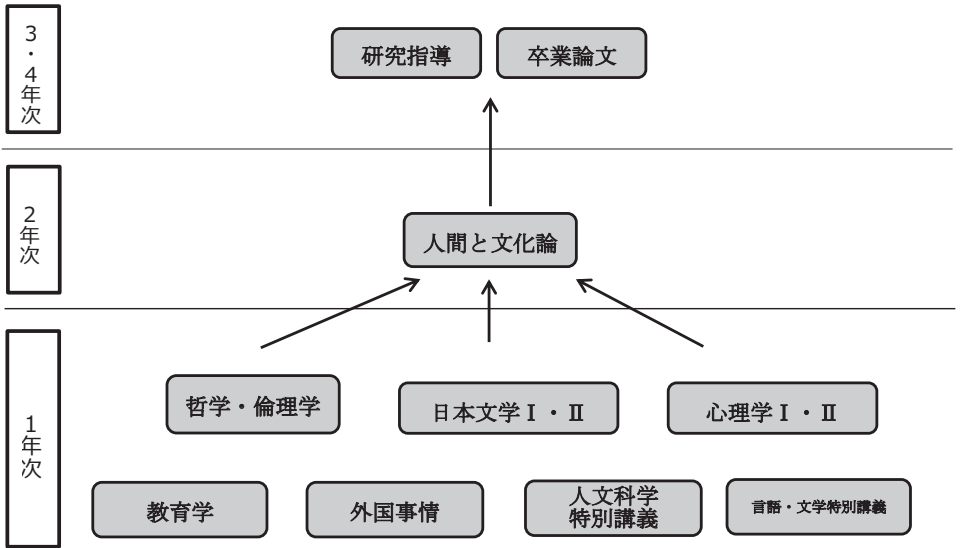
Ⅰ年次配当科目（基幹科目）

社会情報学科が取扱う教育内容を概観し

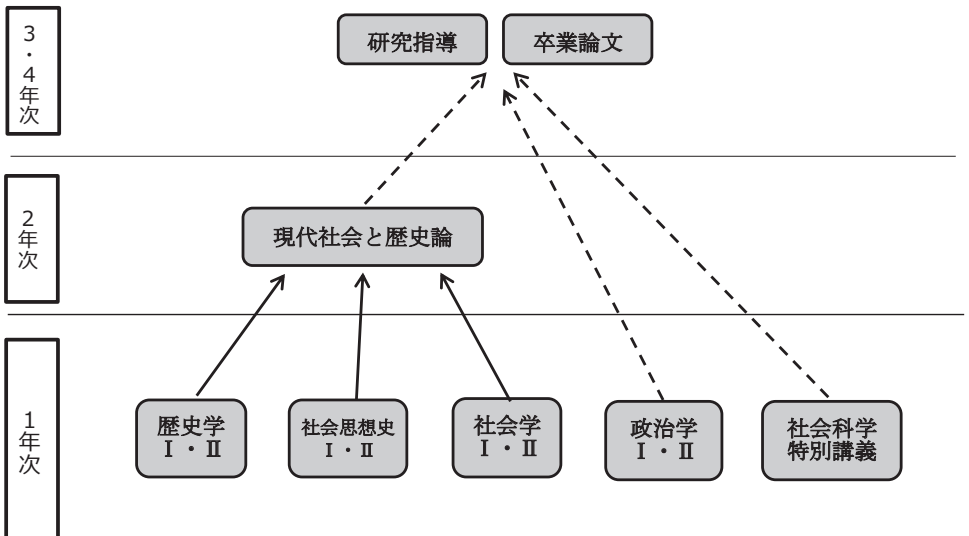
その全体像を把握する

社会情報入門

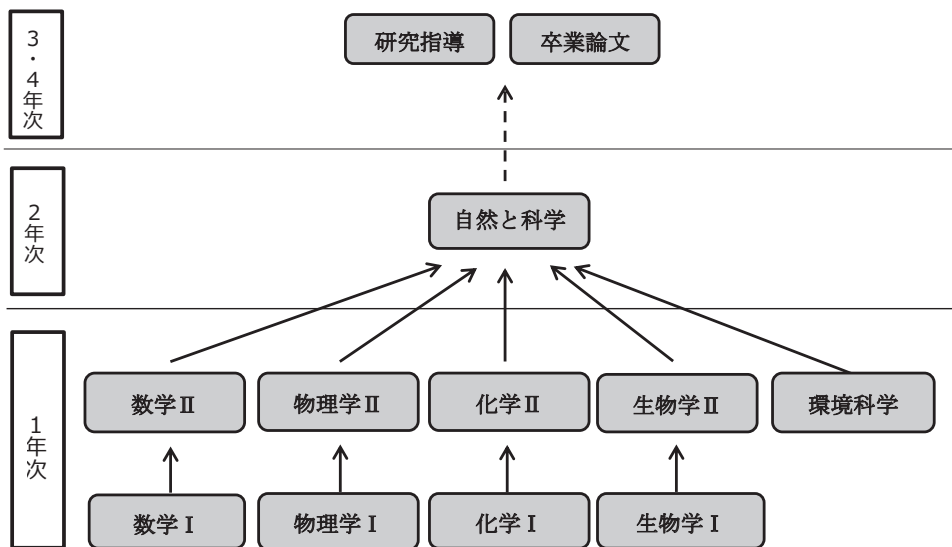
一般教育系 人文科学系 夜間主コース



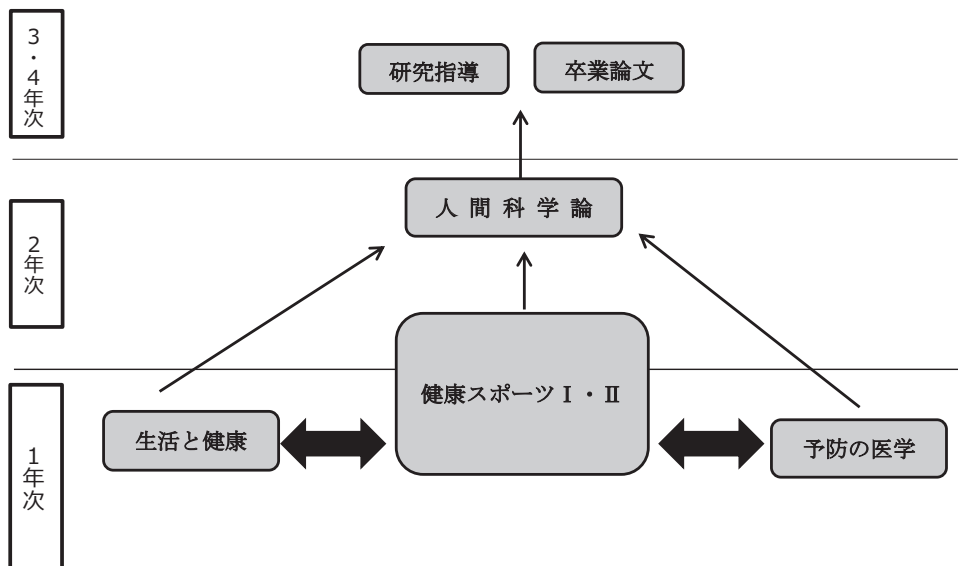
一般教育系 社会科学系 夜間主コース



一般教育系 自然科学系 夜間主コース

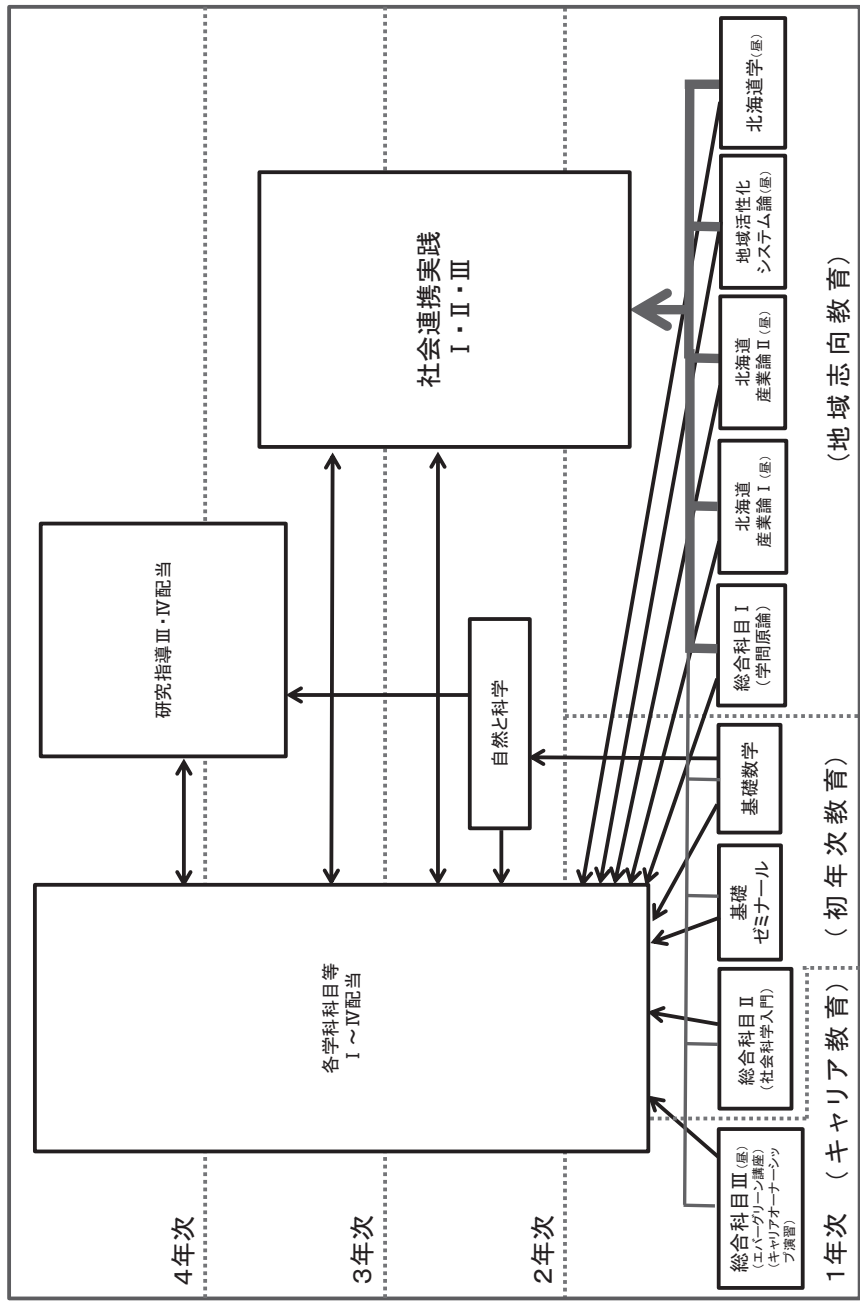


一般教育系 健康科学系 夜間主コース

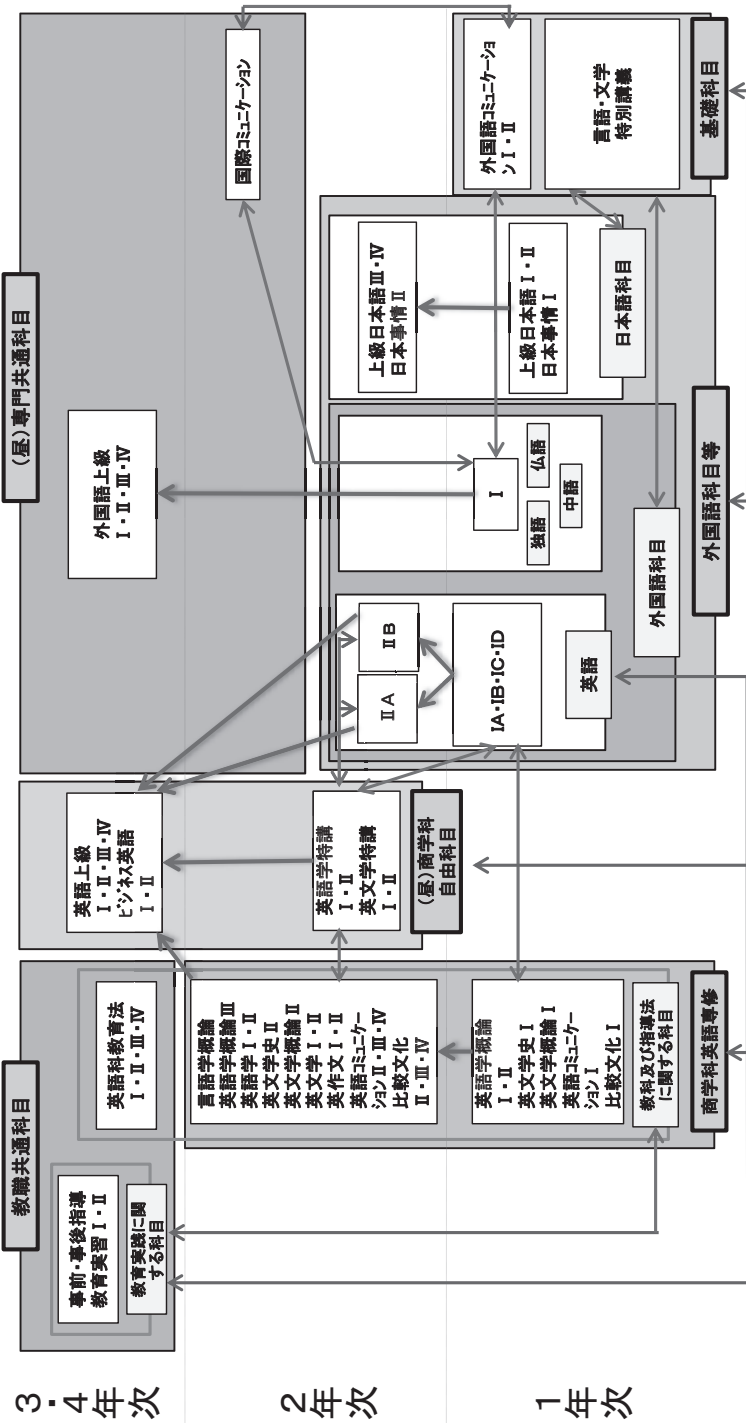


(2024)

一般教育系 知(地)の基礎系(夜間主コース)

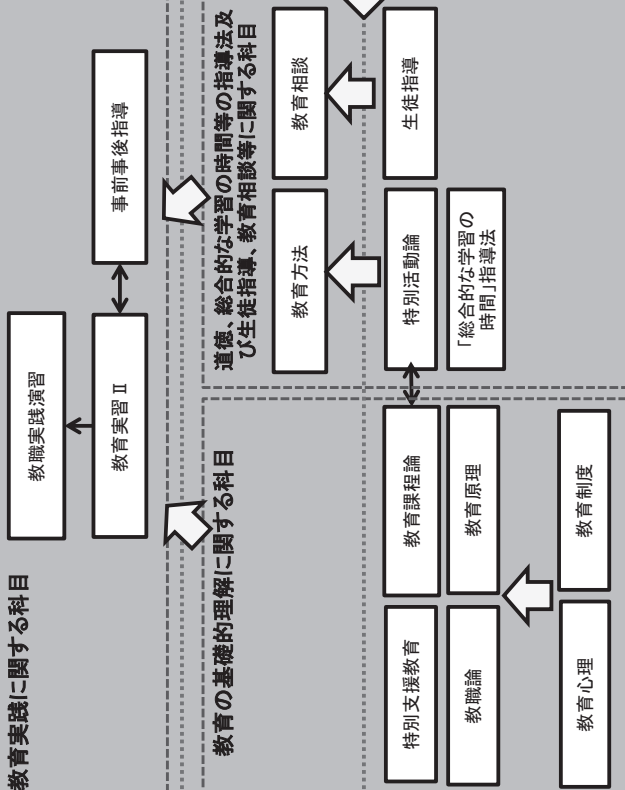


言語センター関連(共通科目,外国語科目,専門共通科目,商学科英語専修科目等,教職共通科目)カリキュラムマップ (2024)



高等学校教諭一種免許状(商業)(夜間主コース)

●教育の基礎的理解に関する科目等



●教科及び教科の指導法に関する科目

(以下の科目より18単位以上選択必修)

- 市場システム論Ⅰ
- 市場システム論Ⅱ
- 経営学原理
- 経営管理論
- 簿記原理
- 金融システム論Ⅰ
- 金融システム論Ⅱ
- マーケティング入門(昼)
- 流通システム論(昼)
- 労務管理論(昼)

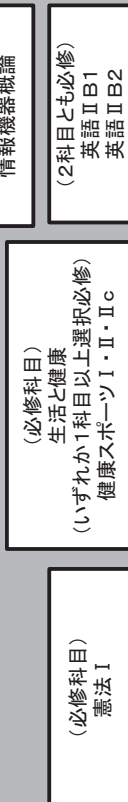
(必修科目) 職業指導

(必修科目)

商業科教育法Ⅰ
商業科教育法Ⅱ

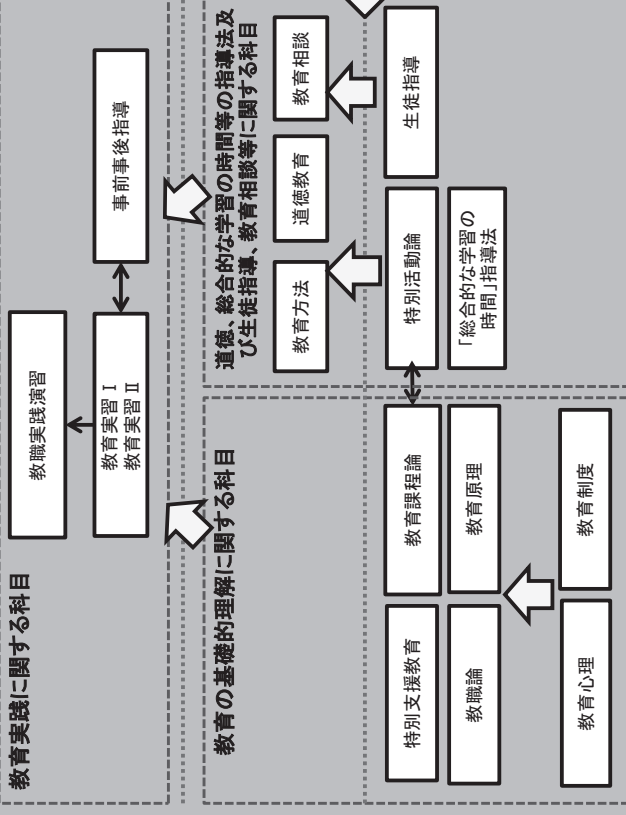
その他、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」から12単位以上取得

●免許法施行規則第66条の6に定める科目

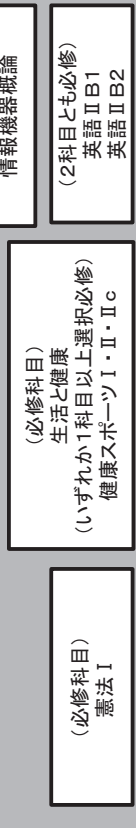


中学校教諭一種免許状(英語)(夜間主コース)

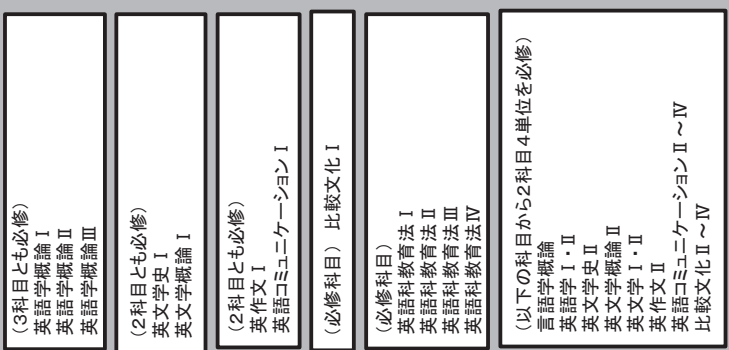
●教育の基礎的理解に関する科目等



●免許法施行規則第66条の6に定める科目



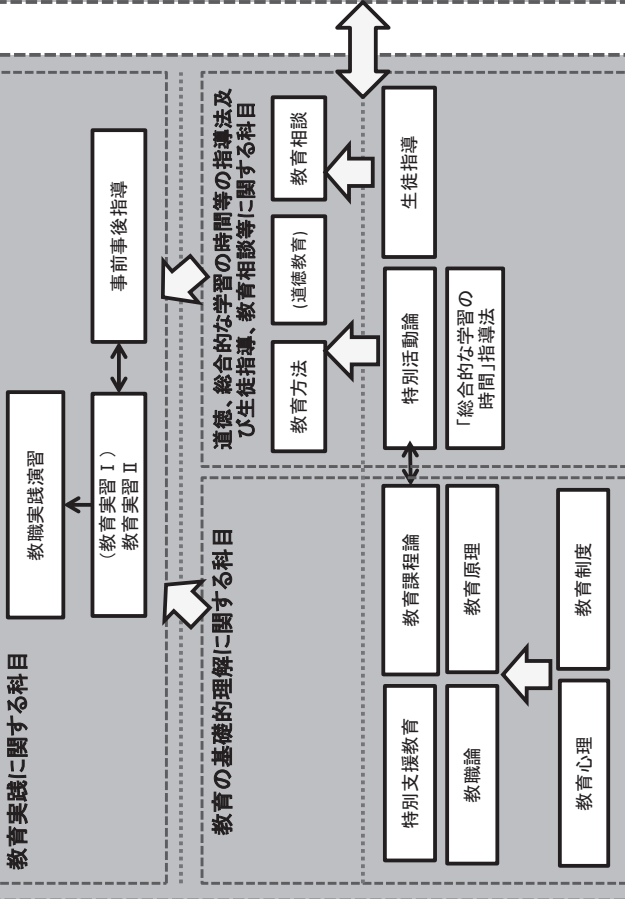
●教科及び教科の指導法に関する科目



その他、「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」から4単位以上取得

高等学校教諭一種免許状(英語)(夜間主コース)

●教育の基礎的理解に関する科目等



●教科及び教科の指導法に関する科目

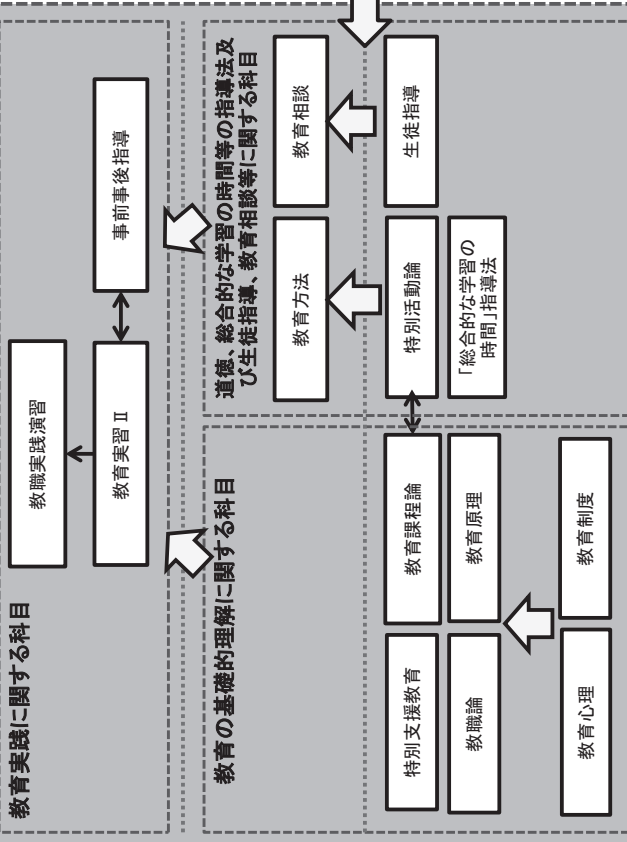
(3科目とも必修) 英語学概論Ⅰ 英語学概論Ⅱ 英語学概論Ⅲ	(2科目とも必修) 英文学史Ⅰ 英文学概論Ⅰ	(2科目とも必修) 英作文Ⅰ 英語コミュニケーションⅠ	(必修科目) 比較文化Ⅰ	(必修科目) 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	(以下の科目から2科目4単位を必修) 言語学概論 言語学Ⅰ・Ⅱ 英文学Ⅰ 英文学概論Ⅱ 英文学Ⅰ・Ⅱ 英文学Ⅱ 英語コミュニケーションⅡ～Ⅳ 比較文化Ⅱ～Ⅳ	その他、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」から12単位以上取得
---	------------------------------	-----------------------------------	--------------	--	--	--

●免許法施行規則第66条の6に定める科目

(必修科目) 憲法Ⅰ	(必修科目) 生活と健康 (いずれか1科目以上選択必修) 健康スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲc	(必修科目) 情報機器概論	(2科目とも必修) 英語ⅡB1 英語ⅡB2
---------------	--	------------------	-----------------------------

高等学校教諭一種免許状(情報)(夜間主コース)

●教育の基礎的理解に関する科目等



●教科及び教科の指導法に関する科目

- (必修科目) 社会情報論
- (3科目とも必修) 情報処理基礎
情報処理
ソフトウェア科学(昼)
- (必修科目) 情報システム論
- (必修科目) コンピュータネットワーク論
- (2科目とも必修) デジタルデザイン論(昼)
オペレーションズ・リサーチ
- (必修科目) 情報と職業
- (必修科目) 情報科教育法Ⅰ
情報科教育法Ⅱ

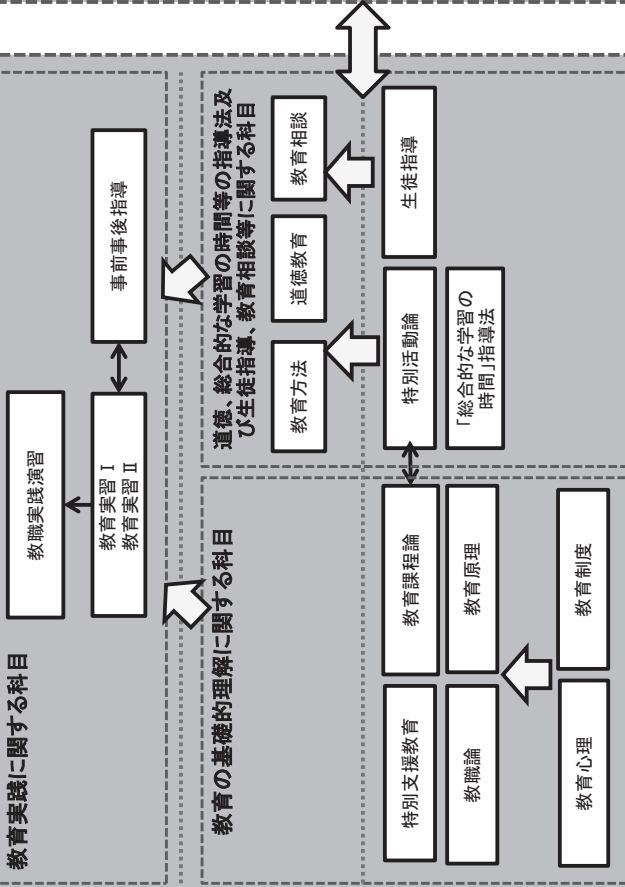
その他「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」から12単位以上取得

●免許法施行規則第66条の6に定める科目

- (必修科目) 憲法Ⅰ
- (必修科目) 生活と健康
(いずれか1科目以上選択必修)
健康スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲc
- (必修科目) 情報機器概論
- (2科目とも必修)
英語ⅡB1
英語ⅡB2

中学校教諭一種免許状(社会)(夜間主コース)

●教育の基礎的理解に関する科目等



●教科及び教科の指導法に関する科目

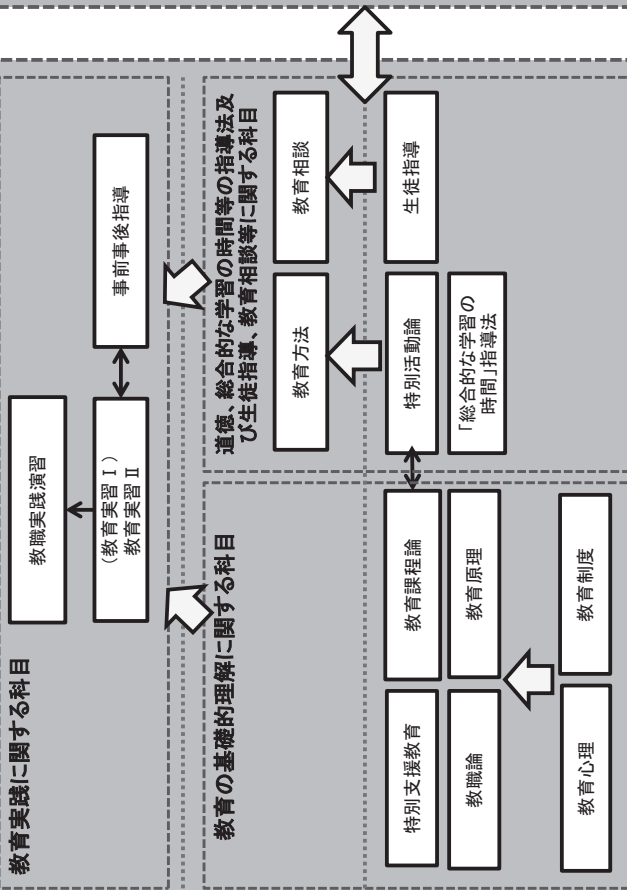
- (いずれか2科目(4単位)選択必修)
民法Ⅰ
行政法Ⅰ
経済学と現代
応用ミクロ経済学
 - (いずれか2科目選択必修)
哲学
倫理学
宗教学(屋)
 - (3科目とも必修)
法学
経済学入門
経済理論
 - (2科目とも必修)
日本史
外国史
 - (必修科目)
地理学
 - (必修科目)
社会科教育法Ⅰ
社会科教育法Ⅱ
社会科・公民科教育法Ⅰ
社会科・公民科教育法Ⅱ
- その他、「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」から4単位以上取得

●免許法施行規則第66条の6に定める科目

- (必修科目)
生活と健康
(いずれか1科目以上選択必修)
健康スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ
- (必修科目)
情報機器概論
- (2科目とも必修)
英語ⅡB1
英語ⅡB2
- (必修科目)
憲法Ⅰ

高等学校教諭一種免許状(公民)(夜間主コース)

●教育の基礎的理解に関する科目等



●免許法施行規則第66条の6に定める科目

- (必修科目)
憲法Ⅰ
- (必修科目)
生活と健康
(いずれか1科目以上選択必修)
健康スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅱc
- (必修科目)
情報機器概論
(2科目とも必修)
英語ⅡB1
英語ⅡB2

●教科及び教科の指導法に関する科目

- (いずれか2科目(4単位)選択必修)
民法Ⅰ
行政法Ⅰ
経済学と現代
応用ミクロ経済学
- (いずれか3科目選択必修)
哲学
倫理学
宗教学(屋)
心理学Ⅰ
心理学Ⅱ
- (5科目とも必修)
法学
国際法
経済学入門
経済理論
国際経済と現代
- (必修科目)
社会科学・公民科教育法Ⅰ
社会科学・公民科教育法Ⅱ
- その他、「教科及び教科の指導法の理解に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」から12単位以上取得

4. 履修モデル

夜間主コースの教育課程のもとでの体系的な履修を可能にするために「履修モデル」を設定しています。「履修モデル」は、自らの将来計画のために何を学び、将来どのような職業に就きたいかを考えて、履修科目を決定する際の例示的なものであり、これに拘束されるものではありません。下記に掲げるモデル例を参考にしながら各自履修科目を決定してください。

また、この「履修モデル」は夜間主コースにおける科目のみで作成されていますが、昼間コースの科目を組み入れての履修計画を立てることも可能です。

履修モデル I

「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、経済学を主として学ぶ」

				1 年次 37 単位	2 年次 39 単位	3 年次 34 単位	4 年次 14 単位(2)			
共通科目	基礎科目	40	52	知の基礎	8					
				基礎科目(人間系)	6	基礎科目(人間系)	6			
				基礎科目(社会系)	2	基礎科目(社会系)	6			
				基礎科目(自然系)	2	基礎科目(自然系)	4			
				基礎科目(健康系)	3	基礎科目(健康系)	3			
	外国語科目	12	52	英語 I A	1	英語 II A 1	1			
				英語 I B	1	英語 II A 2	1			
				英語 I C	1	英語 II B 1	1			
				英語 I D	1	英語 II B 2	1			
				英語以外の外国語 I	4					
コース基幹科目	自学科	34	72	経済学入門	2	経済理論	2			
						経済と統計	2			
						経済学と現代	2			
						経済史	2			
						応用ミクロ経済学	2			
	他学科	30	72	簿記原理	2	経営学原理	2	他学科基幹科目	10	
				法学	2	憲法 I	2			
コース発展科目	自学科	30	72				経済学科発展科目 (経済学特別講義 及び社会連携実践 Ⅲを含む)	12	経済学科発展科目 (経済学特別講義 及び社会連携 実践Ⅲを含む)	4
							他学科科目及び専 門共通科目	12	他学科科目及び 専門共通科目	4 (2)
研究指導		8					研究指導		8	
				124						

* ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表します。

* 「I. 教育課程」の「卒業に必要な単位数」も併せて確認してください。

履修モデルⅡ - 1

「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、取引理論としての商学全般を学ぶ」

		1 年次 37 単位	2 年次 39 単位	3 年次 34 単位	4 年次 14 単位(2)			
共通科目	基礎科目	40	知の基礎	8				
			基礎科目(人間系)	6	基礎科目(人間系)	6		
			基礎科目(社会系)	2	基礎科目(社会系)	6		
			基礎科目(自然系)	2	基礎科目(自然系)	4		
			基礎科目(健康系)	3	基礎科目(健康系)	3		
	外国語科目	12	英語ⅠA	1	英語ⅡA1	1		
			英語ⅠB	1	英語ⅡA2	1		
			英語ⅠC	1	英語ⅡB1	1		
英語ⅠD			1	英語ⅡB2	1			
		英語以外の外国語Ⅰ	4					
コース基幹科目	自学科	34	簿記原理	2	市場システム論Ⅰ	2		
					市場システム論Ⅱ	2		
					経営学原理	2		
					経営管理論	2		
					会計学原理	2		
	他学科		経済学入門	2	経済理論	2	他学科基幹科目	10
			法学	2	憲法Ⅰ	2		
社会情報入門Ⅰ		2	情報処理基礎	2				
コース発展科目	自学科	30			金融市場システム論Ⅰ	12	商学科発展科目 (社会連携実践Ⅲを含む)	4
					金融市場システム論Ⅱ			
					国際市場論			
	他学科				商学科発展科目 (社会連携実践Ⅲを含む)			
					他学科科目及び専門共通科目	12	他学科科目及び専門共通科目	4 (2)
研究指導	8				研究指導	8		
		124						

参
考

* ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表します。

* 「Ⅰ. 教育課程」の「卒業に必要な単位数」も併せて確認してください。

履修モデルⅡ - 2

「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、経営学を中心に商学全般を学ぶ」

		1年次 37単位	2年次 39単位	3年次 34単位	4年次 14単位(2)			
共通科目	基礎科目	40	知の基礎	8				
			基礎科目(人間系)	6	基礎科目(人間系)	6		
			基礎科目(社会系)	2	基礎科目(社会系)	6		
			基礎科目(自然系)	2	基礎科目(自然系)	4		
			基礎科目(健康系)	3	基礎科目(健康系)	3		
	外国語科目	12	英語ⅠA	1	英語ⅡA1	1		
			英語ⅠB	1	英語ⅡA2	1		
			英語ⅠC	1	英語ⅡB1	1		
			英語ⅠD	1	英語ⅡB2	1		
			英語以外の外国語Ⅰ	4				
コース基幹科目	自学科	34	簿記原理	2	経営学原理	2		
					経営管理論	2		
					市場システム論Ⅰ	2		
					市場システム論Ⅱ	2		
				会計学原理	2			
	他学科		経済学入門	2	経済理論	2	他学科基幹科目	10
			法学	2	憲法Ⅰ	2		
社会情報入門Ⅰ		2	情報処理基礎	2				
コース発展科目	自学科	30			経営史	12	商学科発展科目 (社会連携実践Ⅲを含む)	4
					現代企業管理論Ⅰ			
					現代企業管理論Ⅱ			
				商学科発展科目 (社会連携実践Ⅲを含む)				
				他学科科目及び専門共通科目	12			
他学科								
研究指導	8				研究指導		8	
		124						

* ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表します。

* 「Ⅰ. 教育課程」の「卒業に必要な単位数」も併せて確認してください。

履修モデルⅡ－3

「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、会計学を中心に商学全般を学ぶ」

		1年次 37単位	2年次 39単位	3年次 34単位	4年次 14単位(2)			
共通科目	基礎科目	40	知の基礎	8				
			基礎科目(人間系)	6	基礎科目(人間系)	6		
			基礎科目(社会系)	2	基礎科目(社会系)	6		
			基礎科目(自然系)	2	基礎科目(自然系)	4		
			基礎科目(健康系)	3	基礎科目(健康系)	3		
	外国語科目	12	英語ⅠA	1	英語ⅡA1	1		
			英語ⅠB	1	英語ⅡA2	1		
			英語ⅠC	1	英語ⅡB1	1		
			英語ⅠD	1	英語ⅡB2	1		
			英語以外の外国語Ⅰ	4				
コア基幹科目	自学科	34	簿記原理	2	会計学原理	2		
					経営学原理	2		
					経営管理論	2		
					市場システム論Ⅰ	2		
				市場システム論Ⅱ	2			
	他学科		経済学入門	2	経済理論	2	他学科基幹科目	10
			法学	2	憲法Ⅰ	2		
社会情報入門Ⅰ		2	情報処理基礎	2				
コア発展科目	自学科	30			財務会計概論	12	商学科発展科目 (社会連携実践Ⅲを含む)	4
					原価計算概論			
					管理会計概論			
				商学科発展科目 (社会連携実践Ⅲを含む)				
	他学科				他学科科目及び専門共通科目			
研究指導		8			研究指導	8		
		124						

* ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表します。

* 「Ⅰ. 教育課程」の「卒業に必要な単位数」も併せて確認してください。

履修モデルⅢ

「幅広い教養及び外国語能力を基礎として、法律学を中心に商学全般を学ぶ」

		1年次 37単位	2年次 39単位	3年次 34単位	4年次 14単位(2)			
共通科目	基礎科目	40	知の基礎	8				
			基礎科目(人間系)	6	基礎科目(人間系)	6		
			基礎科目(社会系)	2	基礎科目(社会系)	6		
			基礎科目(自然系)	2	基礎科目(自然系)	4		
			基礎科目(健康系)	3	基礎科目(健康系)	3		
	外国語科目	12	英語ⅠA	1	英語ⅡA1	1		
			英語ⅠB	1	英語ⅡA2	1		
			英語ⅠC	1	英語ⅡB1	1		
			英語ⅠD	1	英語ⅡB2	1		
			英語以外の外国語Ⅰ	4				
コア基礎科目	自学科	72	法学	2	憲法Ⅰ	2		
					民法Ⅰ	2		
					刑法	2		
					行政法Ⅰ	2		
					商法Ⅰ	2		
	他学科		経済学入門	2	経済学と現代	2	他学科基幹科目	10
			簿記原理	2	経営学原理	2		
			社会情報入門Ⅰ	2	情報処理基礎	2		
コア発展科目	自学科	30			企業法学科発展科目(社会連携実践Ⅲを含む)	12	企業法学科発展科目(社会連携実践Ⅲを含む)	4
			他学科			他学科科目及び専門共通科目	12	他学科科目及び専門共通科目
研究指導		8			研究指導		8	
		124						

* ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表します。

* 「Ⅰ. 教育課程」の「卒業に必要な単位数」も併せて確認してください。

履修モデルⅣ

「経営と情報モデル」

幅広い経営知識と情報の処理及び活用能力を有する人材育成を目指すモデルである。特にビジネスの基本となる経営科目、高度な情報処理能力を取得するための情報科目が基本となるが、同時に経営情報の分野は多彩な知識が要求される分野であり、広く視野を広げることが望まれる。

			1年次 37単位	2年次 39単位	3年次 34単位	4年次 14単位(2)		
共通科目	基礎科目	40	知の基礎	8				
			基礎科目(人間系)	6	基礎科目(人間系)	6		
			基礎科目(社会系)	2	基礎科目(社会系)	6		
			基礎科目(自然系)	2	基礎科目(自然系)	4		
			基礎科目(健康系)	3	基礎科目(健康系)	3		
	外国語科目	12	英語ⅠA	1	英語ⅡA1	1		
			英語ⅠB	1	英語ⅡA2	1		
			英語ⅠC	1	英語ⅡB1	1		
			英語ⅠD	1	英語ⅡB2	1		
			英語以外の外国語Ⅰ	4				
コア基礎科目	自学科	32	社会情報入門Ⅰ	2	計画数学	2		
					情報処理基礎	2		
					知識科学基礎	2		
	他学科	72	経済学入門	2	経済理論	2	他学科基幹科目	12
			簿記原理	2	経営学原理	2		
			法学	2	憲法Ⅰ	2		
コア発展科目	自学科	32			企業法学科発展科目(社会連携実践Ⅲを含む)	12	企業法学科発展科目(社会連携実践Ⅲを含む)	4
	他学科				他学科科目及び専門共通科目	12	他学科科目及び専門共通科目	4
研究指導		8				研究指導	8	
			124					

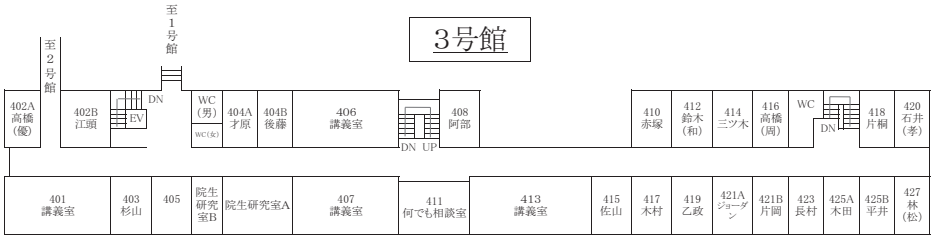
* ()内の単位数は、1年間の履修上限内で卒業所要単位を超えて履修する単位数を表します。

* 「Ⅰ. 教育課程」の「卒業に必要な単位数」も併せて確認してください。

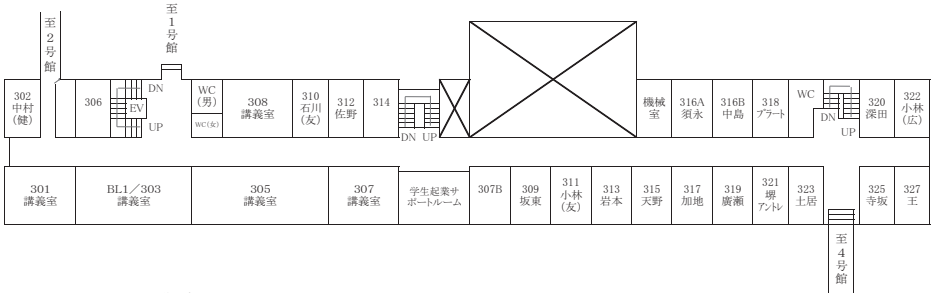
IX. 配置図

令和6年度 講義室・ゼミ室配置図(2024.3現在)

3号館

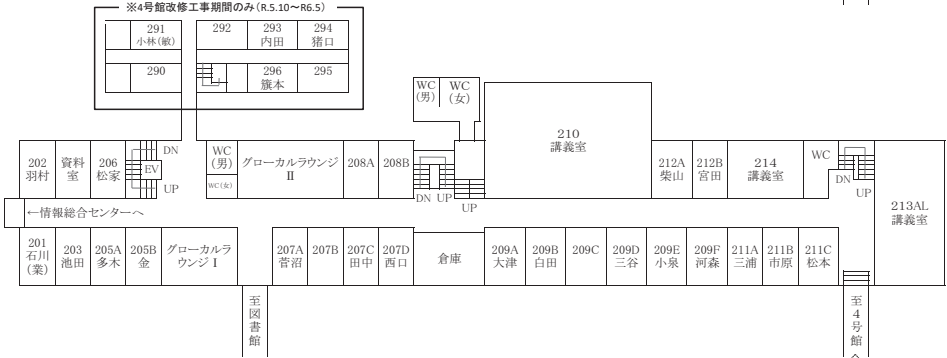


4階

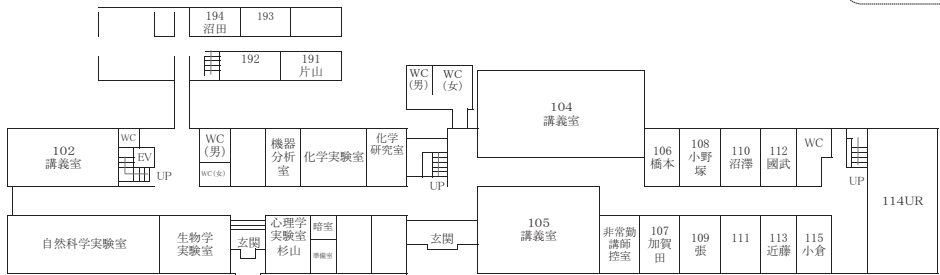


3階

※4号館改修工事期間のみ(R.5.10~R6.5)



2階

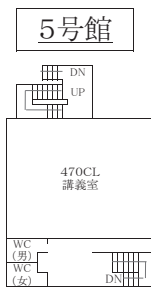
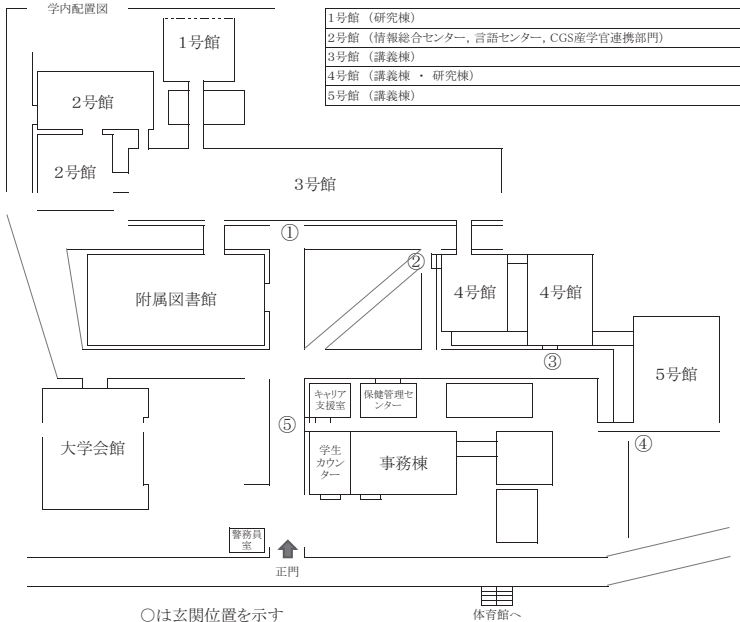


1階

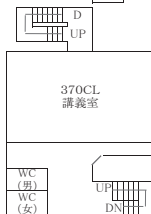
①

学内配置図

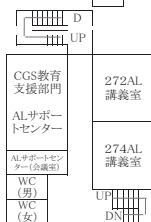
1号館 (研究棟)
2号館 (情報総合センター, 言語センター, CGS産学官連携部門)
3号館 (講義棟)
4号館 (講義棟・研究棟)
5号館 (講義棟)



4階



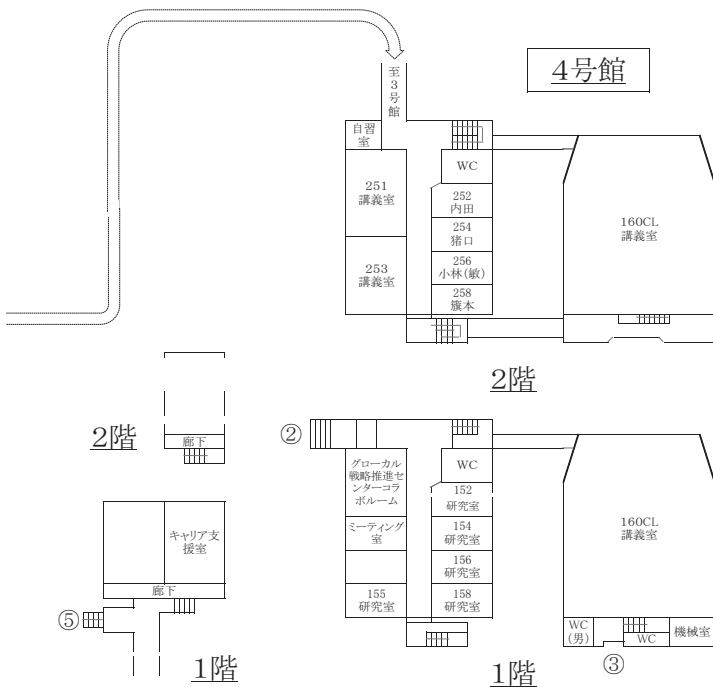
3階



2階



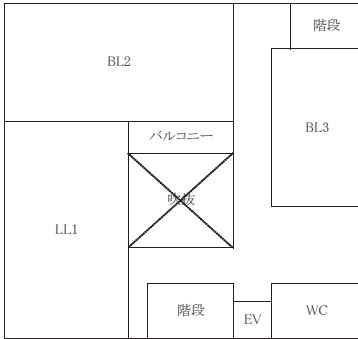
1階



配置図

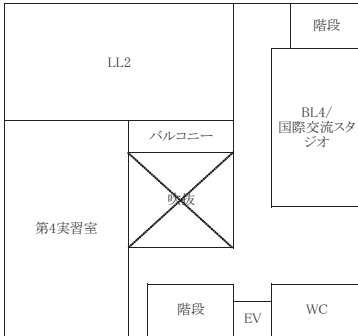
令和6年度 2号館配置図

↓5F 言語センター

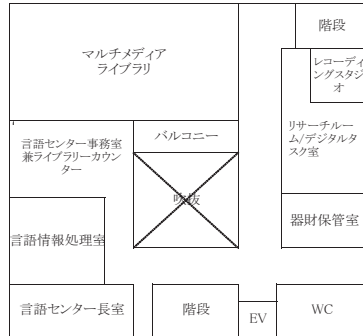


・BLはBlended learning講義室の略称です。
 ・BL1/303は3号館3階にあります。

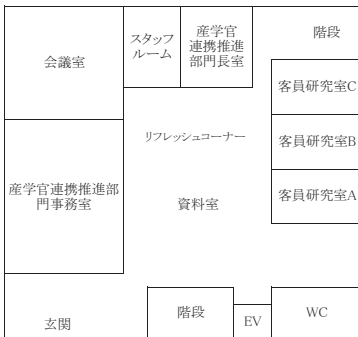
↓3F 言語センター



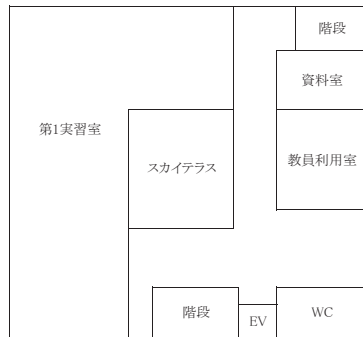
↓4F 言語センター



↓1F グローカル戦略推進センター産学官連携推進部門



↓2F 情報総合センター別館



令和6年度 教員 研究室 一 覧 (2024.3現在)

※4号館改修工事終了後の配置については、後日merablogにてお知らせいたします。

544	542	540	538	536	534	532	530	528	524	522	520	518	516	514	512	510	508	506	男子 便所	階段		
5331	5437	5417	5444	5448	5361	5424	5373	5478	5286	5456	5422	5329	5388	5347	5360	5354	5383	5388	木村	5401		
543	541	539	537	535	533	531	階段	石嶋	小林 (実)	尾形	金	中村 (実)	石井 (実)	内田	佐藤 (明)	林 (弘)	岡部	507	505	女子 便所	5405	
5302	5351	5420	5343	5403	5281	5281	5281	5407	5423	5430	5431	5404	5426	5389	5396	5425	5418	5372	武部	5401	5405	

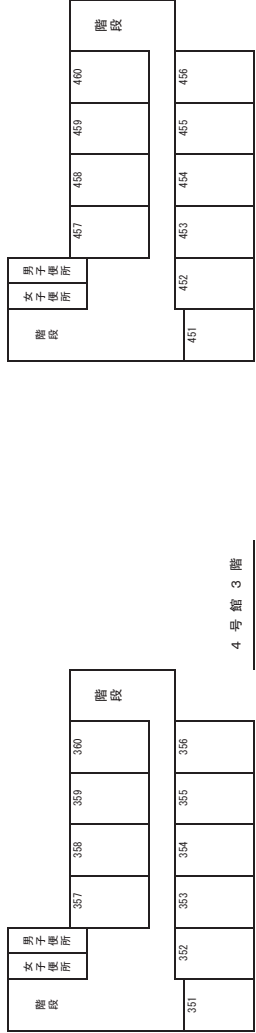
1号館 5階

444	442	440	438	436	434	432	430	428	426	424	422	420	418	416	414	412	410	408	女子 便所	男子 便所	階段	
5262	5309	5342	5409	5304	5415	5321	5315	5395	5350	5387	5341	5490	5492	5332	5358	5346	5346	5392	三谷	401	401	
443	441	439	437	435	433	431	階段	小寺	小林 (敬)	宮田	中島	中島 夕子	中村 (敬)	池田	大澤	戴	江頭	片桐	407	405	401	
5308	5307	5397	5313	5374	5399	5365	5365	5306	5413	5405	5303	5419	5317	5301	5416	5333	5300	5367	5427	401	401	

1号館 4階

342	340	338	336	334	332	330	328	326	324	322	320	318	316	314	312	310	308	306	男子 便所	男子 便所	階段	
6581	5345	5323	5276	5276	5356	6585	5226	5276	3244	3224	3204	5377	5438	5349	5411	5402	5444	5325	今野	401	401	
343	341	339	337	335	333	331	階段	石川	才原	松本	小林 (広)	加賀田	加地	章	西村	穴沢	芳澤	307	305	303	301	
5400	5330	5320	5499	5305	5305	5497	5375	5348	5371	5310	5298	5334	5390	5441	5327	5328	5398	5385	5433	5405	5405	

1号館 3階



4号館 3階

4号館 4階

◎ リンク集

- 学修管理システム「manaba」
<https://otaru-uc.manaba.jp/ct/login>



- 学務情報システム「Campus Square」
<https://gakumu-web.office.otaru-uc.ac.jp/campusweb/>
※学内ネットワークへの接続が必要



- 時間割・シラバス・履修の手引き
<https://www.otaru-uc.ac.jp/student/syllabus/>



- 教員の連絡先
https://www.otaru-uc.ac.jp/student/teachers_list/
※学内ネットワークへの接続が必要



- 問い合わせフォーム
<https://www.otaru-uc.ac.jp/inquiry/form/>





2024 年 3 月 発行 小樽商科大学教務課

〒047-8501 北海道小樽市緑 3 丁目 5 番 2 1 号